

# 日野市食育推進に関する アンケート調査

## 調 査 書

令和8年3月

日 野 市



# 目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	3
2 調査の内容	3
3 調査の設計	3
4 回収結果	3
5 集計・分析にあたって	3
II 調査結果の分析	5
1 あなた自身について	7
(1) 性別	7
(2) 年齢	8
(3) 世帯状況	9
(4) 職業	10
(5) 居住地区	11
2 食育について	12
(1) 「食育」の認知度	12
(2) 今後1年間に実践したい食育	14
(3) 主食・主菜・副菜の3つをそろえて食べるのが1日に2回以上ある頻度	18
(3-1) 主食・主菜・副菜の3つをそろえて食べる回数を増やすために必要なこと	20
(4) 朝食の摂取頻度	22
(4-1) 朝食を食べるために必要なこと	24
(5) 食生活についての意識	27
①牛乳・乳製品をとるようにしている	28
②たんぱく質をとるようにしている	29
③できるだけ家族や仲間とそろって食事をとるようにしている	30
④食事を楽しむようにしている	31
⑤食材の旬を意識している	32
(6) ゆっくりよく噛んで食べている程度	34
(7) 「食事バランスガイド」の認知度	36
(8) 1日の野菜を食べる頻度	38
(8-1) 野菜を毎食食べない理由	40
(9) 1日に野菜を食べる量	42
(10) 日野市の「ベジ活350」の取り組みについての認知度	44
(11) 果物の摂取頻度	46
(11-1) 1日に食べる果物の量	48
(12) 減塩に気をつけた食生活の実践状況	50
(13) 外食等と比べた家庭の料理の味付けの程度	52

# 目 次

3 地産地消について .....	54
(1) 日野産の農産物（野菜・果物）の購入経験 .....	54
(1-1) 日野産の農産物（野菜・果物）を購入したことがない理由 .....	56
4 農業体験について .....	58
(1) 農業体験の経験 .....	58
(1-1) 行った農業体験の取り組み内容 .....	60
(1-2) 農業体験を行ったことがない理由 .....	62
5 環境への配慮について .....	64
(1) 食材の廃棄や食べ残しを少なくする心がけの程度 .....	64
6 食事・食料の準備について .....	66
(1) 食事の準備状況 .....	66
(2) 世帯人数分の非常食の用意状況 .....	68
7 食育施策への要望について .....	70
(1) 食育についてほしい情報 .....	70
Ⅲ 使用した調査票 .....	73

# I 調査の概要



## 1 調査の目的

---

本調査は、第4期日野市食育推進計画の市民評価を行うため、評価に必要な意識調査（アンケート）及び結果分析を行い、各計画の修正、改善につなげることを目的とした。

## 2 調査の内容

---

- (1) あなた自身について
- (2) 食育について
- (3) 地産地消について
- (4) 農業体験について
- (5) 環境への配慮について
- (6) 食事・食料の準備について
- (7) 食育施策への要望について

## 3 調査の設計

---

- |            |                     |
|------------|---------------------|
| (1) 調査地域   | 日野市全域               |
| (2) 調査対象   | 日野市在住の18歳～79歳の個人    |
| (3) 標本数    | 2,000人              |
| (4) 対象者の抽出 | 住民基本台帳による無作為抽出      |
| (5) 調査方法   | 郵送配付、郵送またはインターネット回収 |
| (6) 調査期間   | 令和7年7月22日～8月20日     |
| (7) 調査機関   | 株式会社 総合企画           |

## 4 回収結果

---

- |           |                                  |
|-----------|----------------------------------|
| (1) 配付数   | 2,000件                           |
| (2) 有効回収数 | 632件（内訳：郵送 396件、インターネット 236件）    |
| (3) 有効回収率 | 31.6%（内訳：郵送 62.7%、インターネット 37.3%） |

## 5 集計・分析にあたって

---

- (1) 図表中の「n」（number of caseの略）は、各設問の回答者数を示し、比率算出の基数である。
- (2) 集計は百分率とし、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答比率を合計しても100.0%にならない場合がある。
- (3) 回答の比率（%）は、その設問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- (4) 全体の回答数は、性別、年齢等の回答が「無回答」の場合も含めている。そのため、属性別のクロス集計については、属性（性別、年齢等）ごとの回答数を合計しても、全体の回答数と一致しない場合がある。
- (5) 設問によって、回答の小計を算出している。小計は個々の選択肢の回答者数の合計を全体の回答者数（基数）で除算した百分率である。このため、個々の比率（既に小数点第2位を四捨五入された数値）同士の合計の数値と一致しないことがある。
- (6) クロス集計時に、基数（n）が小さい数字になる場合は誤差が大きいため注意が必要であり、コメントを省略していることがある。



## II 調査結果の分析

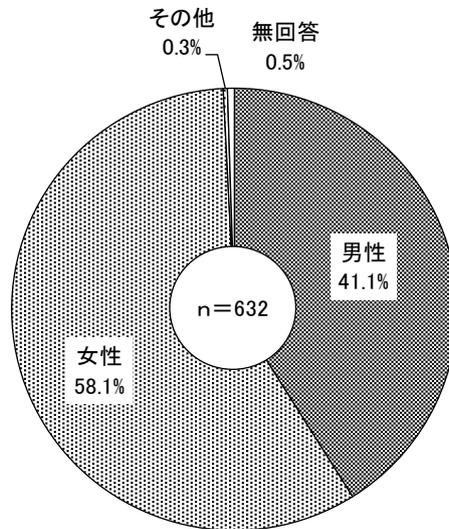


# 1 あなた自身について

## (1) 性別

F 1 あなたの性別を教えてください。(○は1つだけ)

図1-1-1 性別

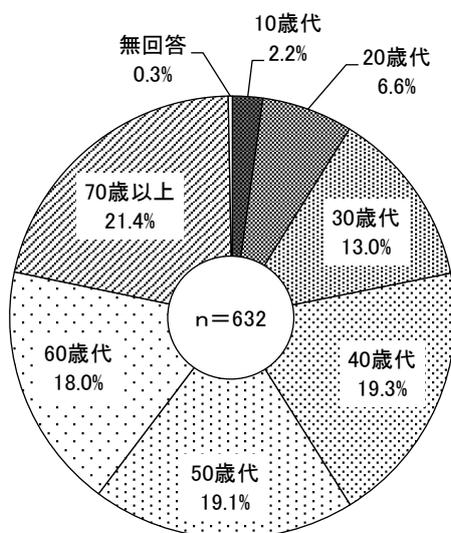


性別をたずねたところ、「男性」(41.1%)が4割台前半、「女性」(58.1%)が6割近くとなっている。(図1-1-1)

## (2) 年齢

F 2 あなたの年齢を教えてください。(○は1つだけ)

図 1-2-1 年齢



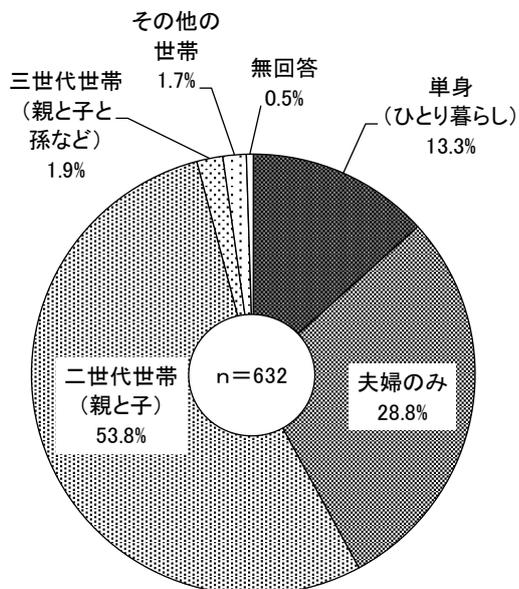
年齢をたずねたところ、「10歳代」(2.2%)、「20歳代」(6.6%)がともに1割未満、「30歳代」(13.0%)が1割台前半、「40歳代」(19.3%)、「50歳代」(19.1%)がともに約2割、「60歳代」(18.0%)が2割近く、「70歳以上」(21.4%)が2割台前半となっている。

(図 1-2-1)

### (3) 世帯状況

F 3 あなたの世帯状況は以下のどれにあたりますか。(○は1つだけ)

図1-3-1 世帯状況

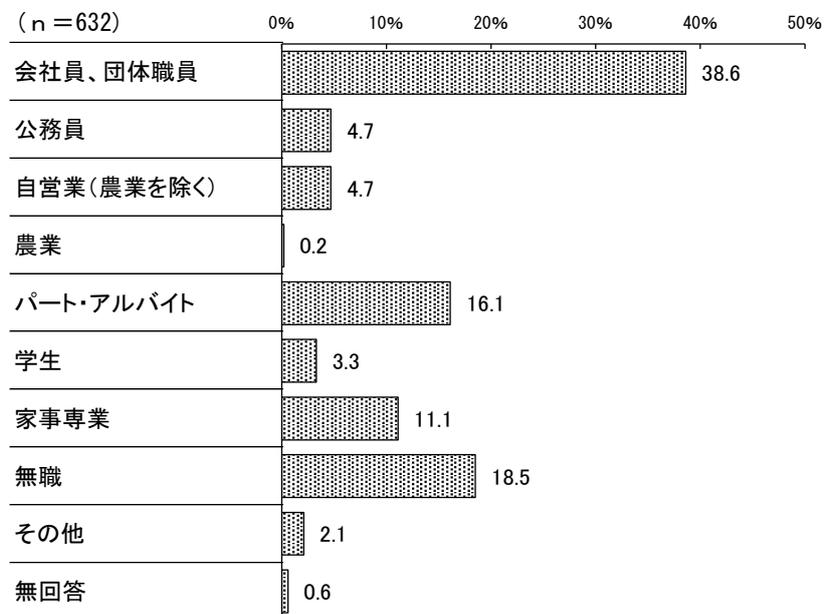


世帯状況をたずねたところ、「二世世代世帯 (親と子)」 (53.8%) が5割を超えて最も多く、次いで「夫婦のみ」 (28.8%) が3割近く、「单身 (ひとり暮らし)」 (13.3%) が1割台前半、「三世世代世帯 (親と子と孫など)」 (1.9%) が1割未満となっている。(図1-3-1)

#### (4) 職業

F 4 あなたの職業は次のどれにあてはまりますか。(○は1つだけ)

図1-4-1 職業

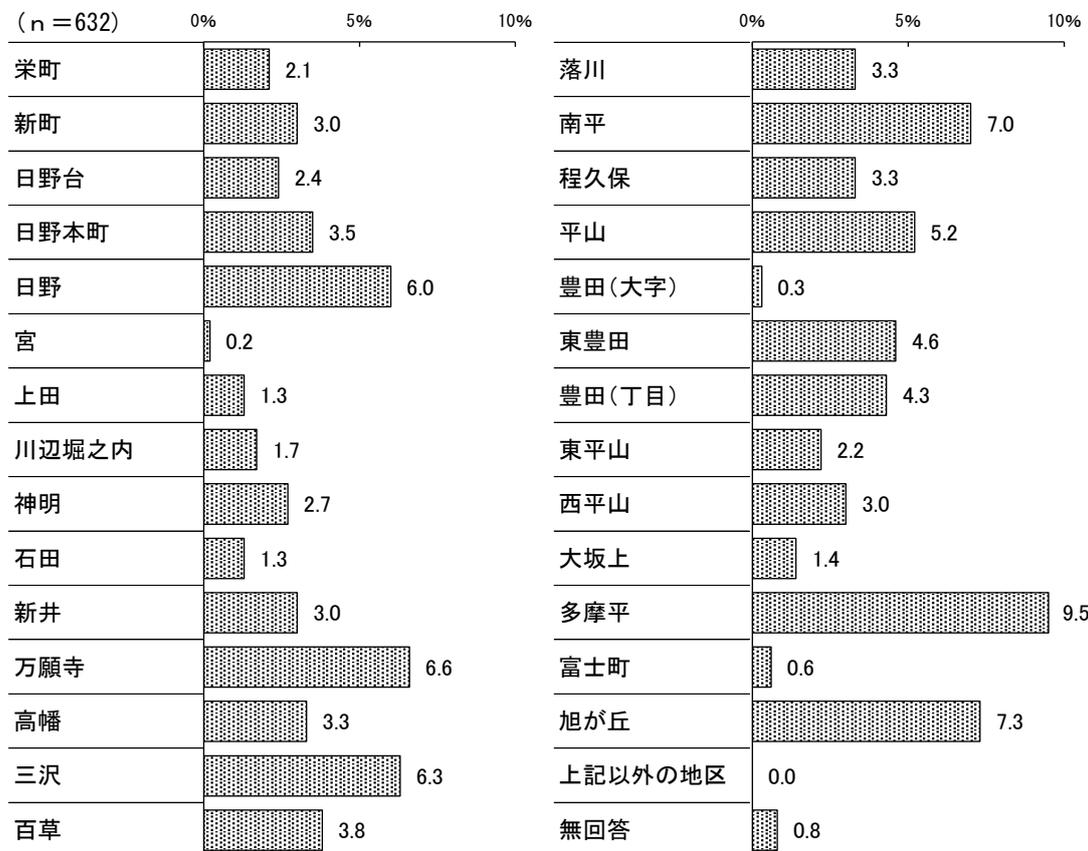


職業をたずねたところ、「会社員、団体職員」(38.6%)が4割近くと最も多く、次いで「無職」(18.5%)、「パート・アルバイト」(16.1%)、「家事専業」(11.1%)などの順となっている。(図1-4-1)

(5) 居住地区

F 5 あなたが現在お住まいの地区は次のどれにあてはまりますか。(○は1つだけ)

図1-5-1 居住地区



現在お住まいの地区をたずねたところ、「多摩平」(9.5%)、「旭が丘」(7.3%)、「南平」(7.0%)、「万願寺」(6.6%)などとなっている。(図1-5-1)

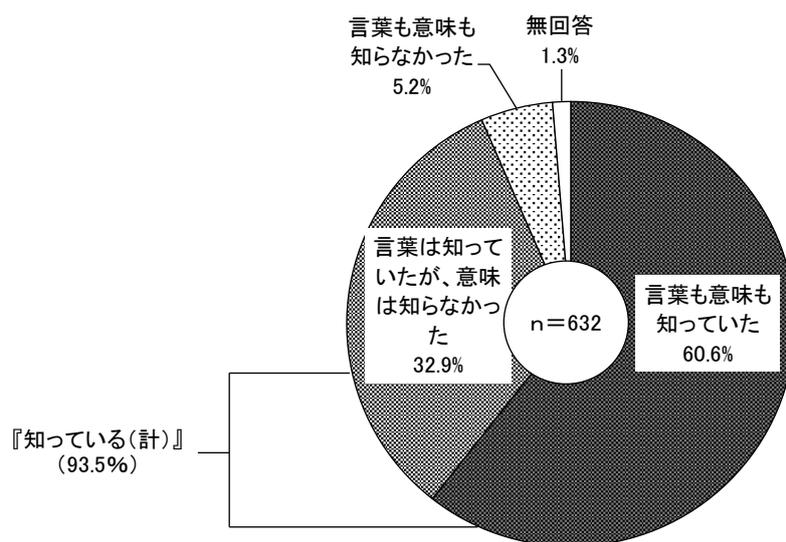
## 2 食育について

### (1) 「食育」の認知度

問1 あなたは、「食育」という言葉やその意味を知っていましたか。(○は1つだけ)

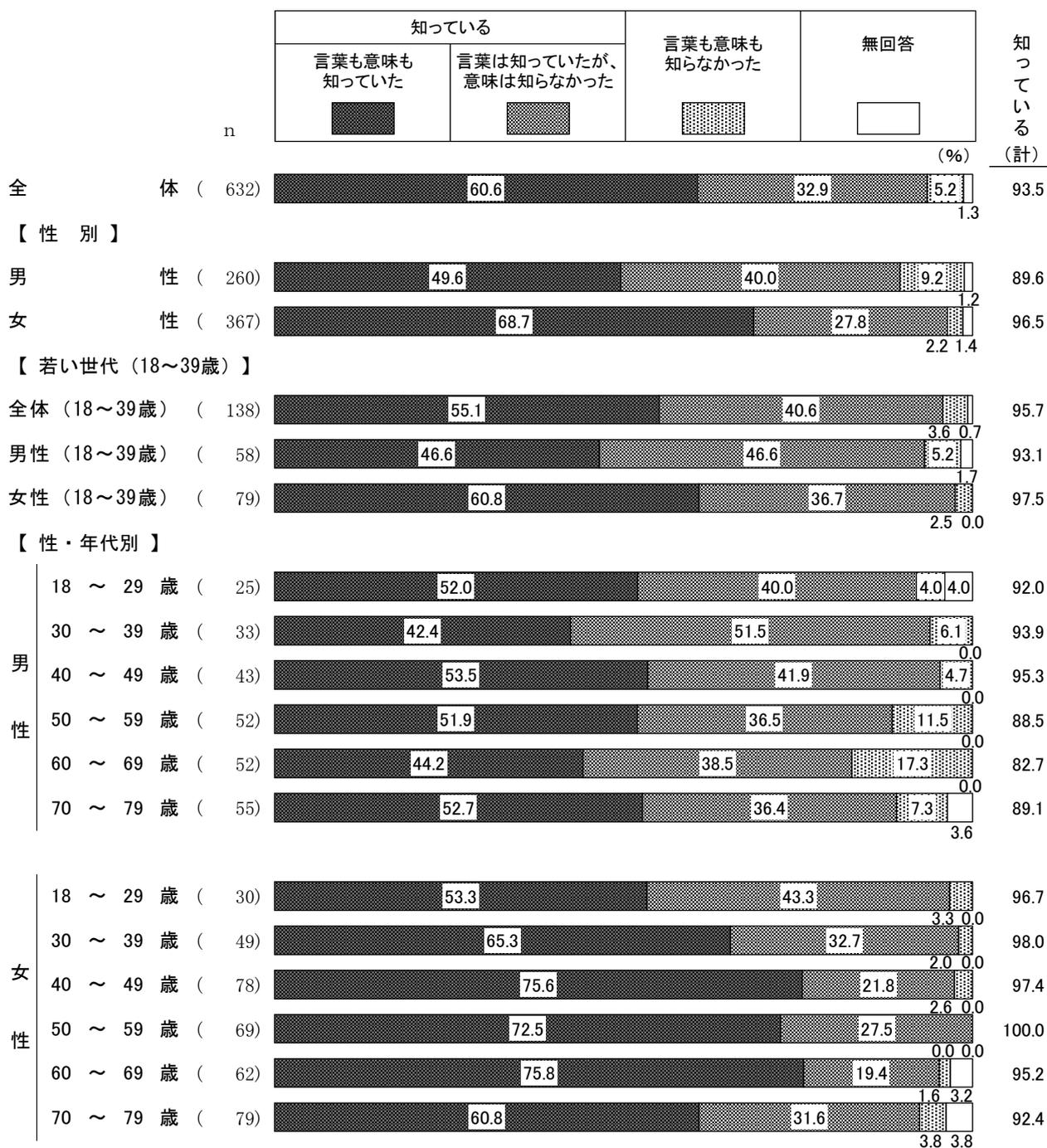
※「食育」は、心身の健康の増進と豊かな人間形成のために、食に関する知識や食を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践することができる人間を育てることです。その中には、規則正しい食生活や栄養バランスのとれた食事などを実践したり、食を通じたコミュニケーションやマナー、あいさつなどの食に関する基礎を身に付けたり、自然の恵みへの感謝や伝統的な食文化などへの理解を深めたりすることが含まれます。

図2-1-1 「食育」の認知度



「食育」という言葉やその意味を知っているかたずねたところ、「言葉も意味も知っていた」(60.6%)と「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」(32.9%)を合わせた『知っている(計)』(93.5%)が9割を超えている。一方、「言葉も意味も知らなかった」(5.2%)は1割未満となっている。(図2-1-1)

2-1-2 「食育」の認知度—性別／性・年代別



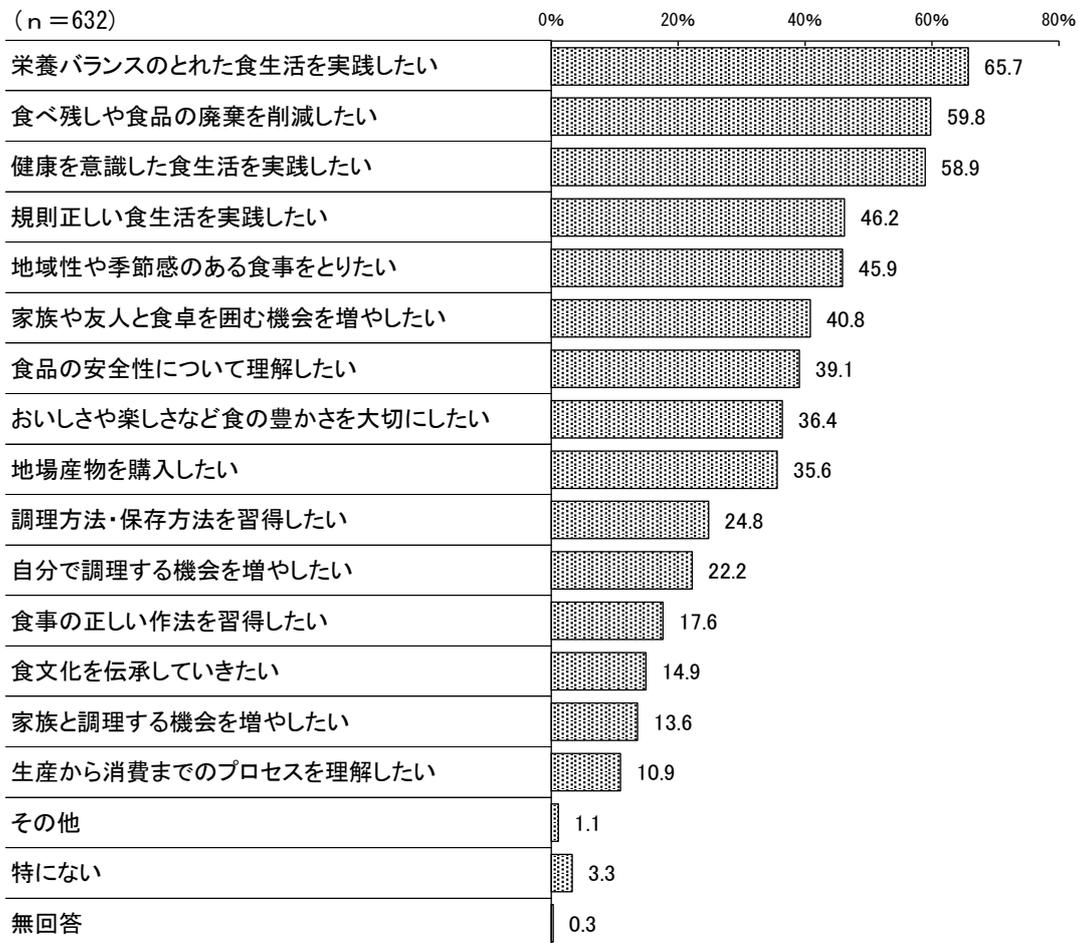
性別にみると、「言葉も意味も知っていた」は女性は男性より19.1ポイント高く、『知っている(計)』は女性は男性より6.9ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『知っている(計)』は女性50~59歳で10割、女性30~39歳、女性40~49歳で10割近くと多くなっている。一方、「言葉も意味も知らなかった」は男性60~69歳で2割近くとなっている。(図2-1-2)

(2) 今後1年間に実践したい食育

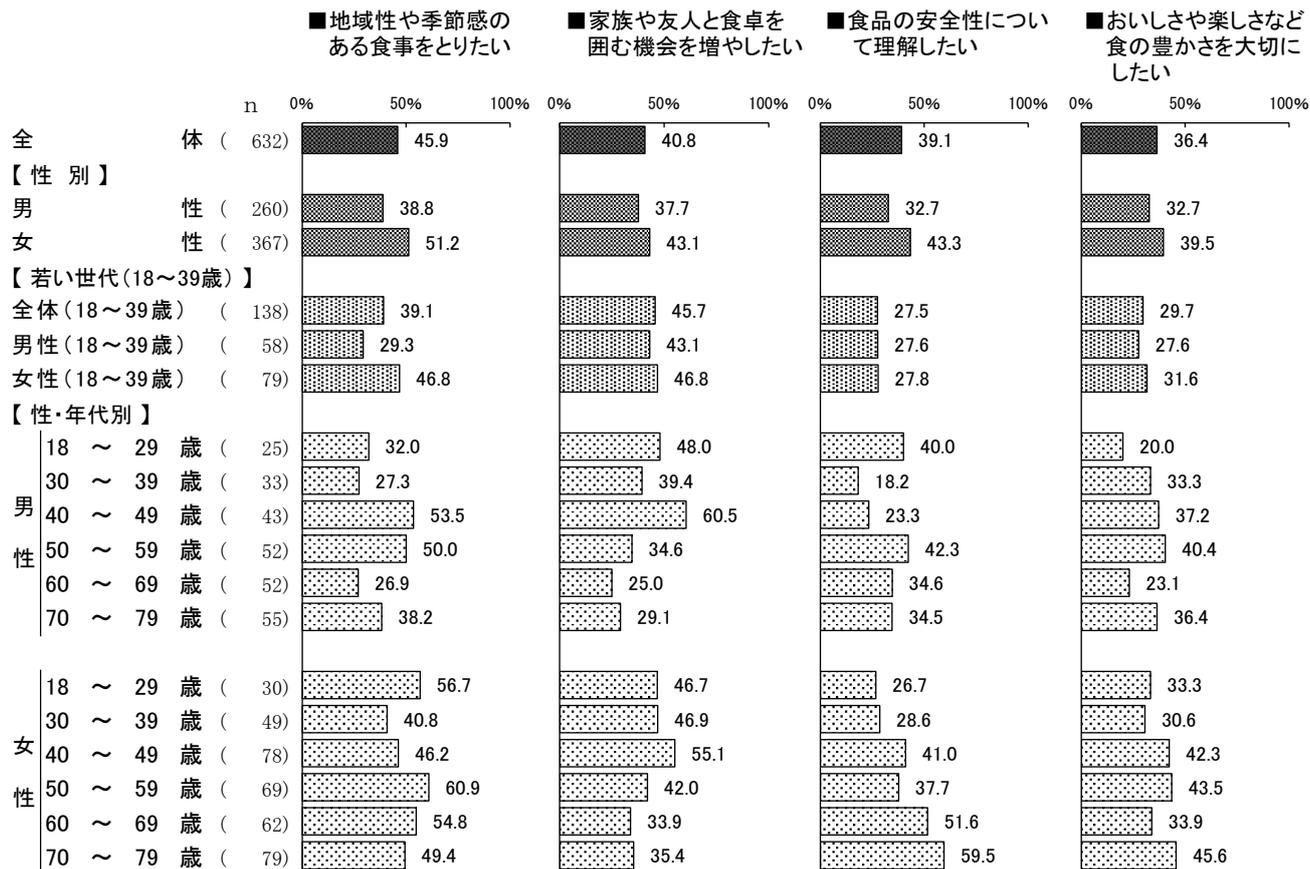
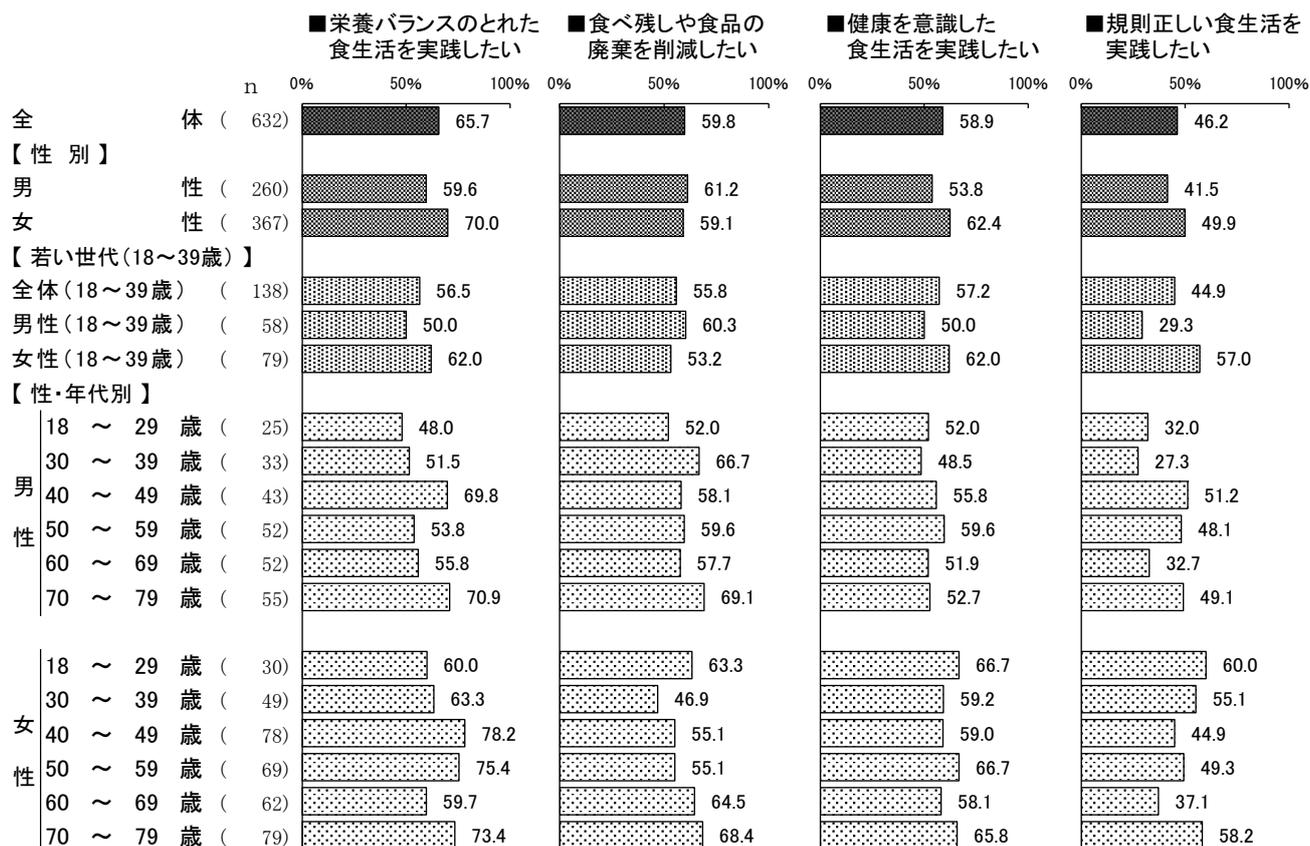
問2 今後1年間、あなたはどのようなことを食育として実践したいと思いますか。  
(〇はいくつでも)

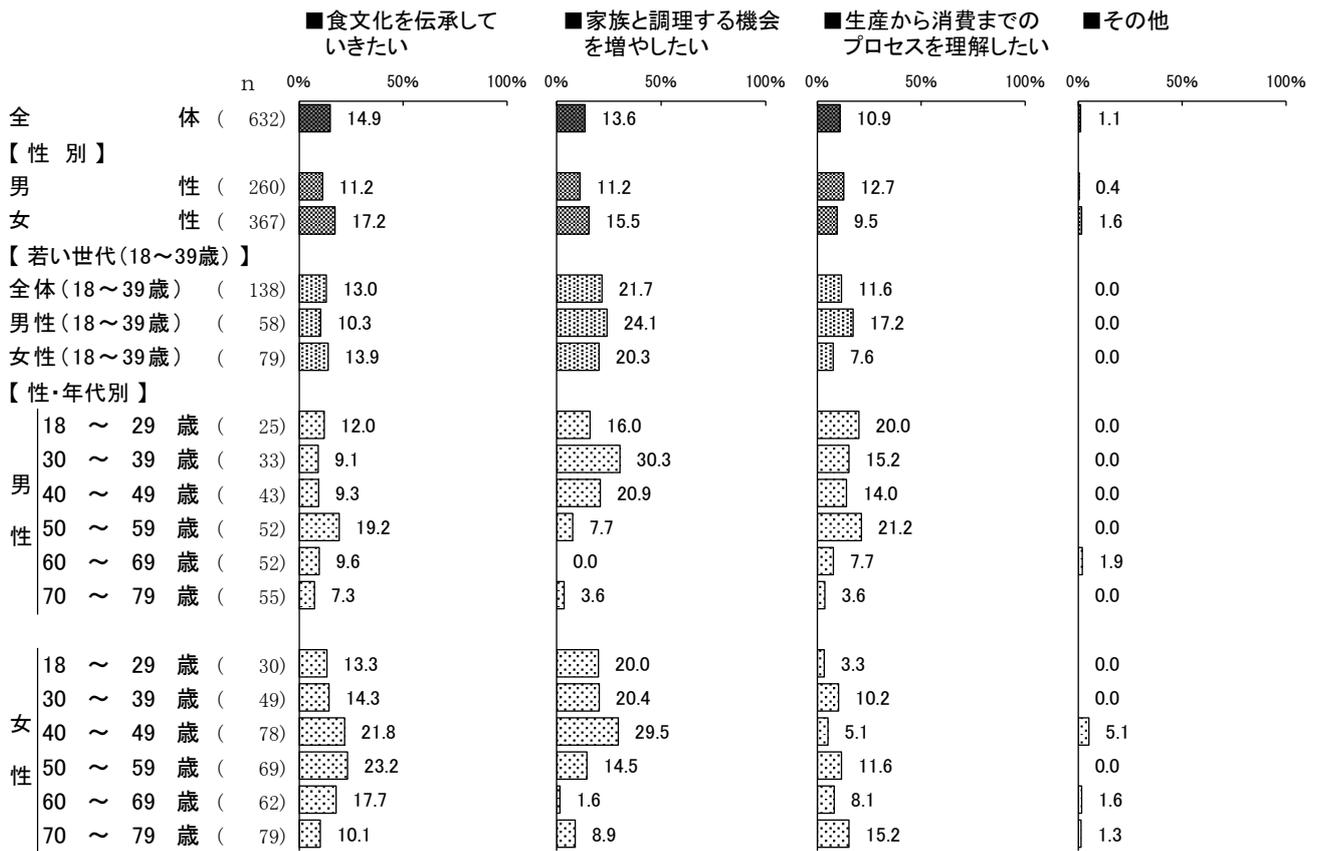
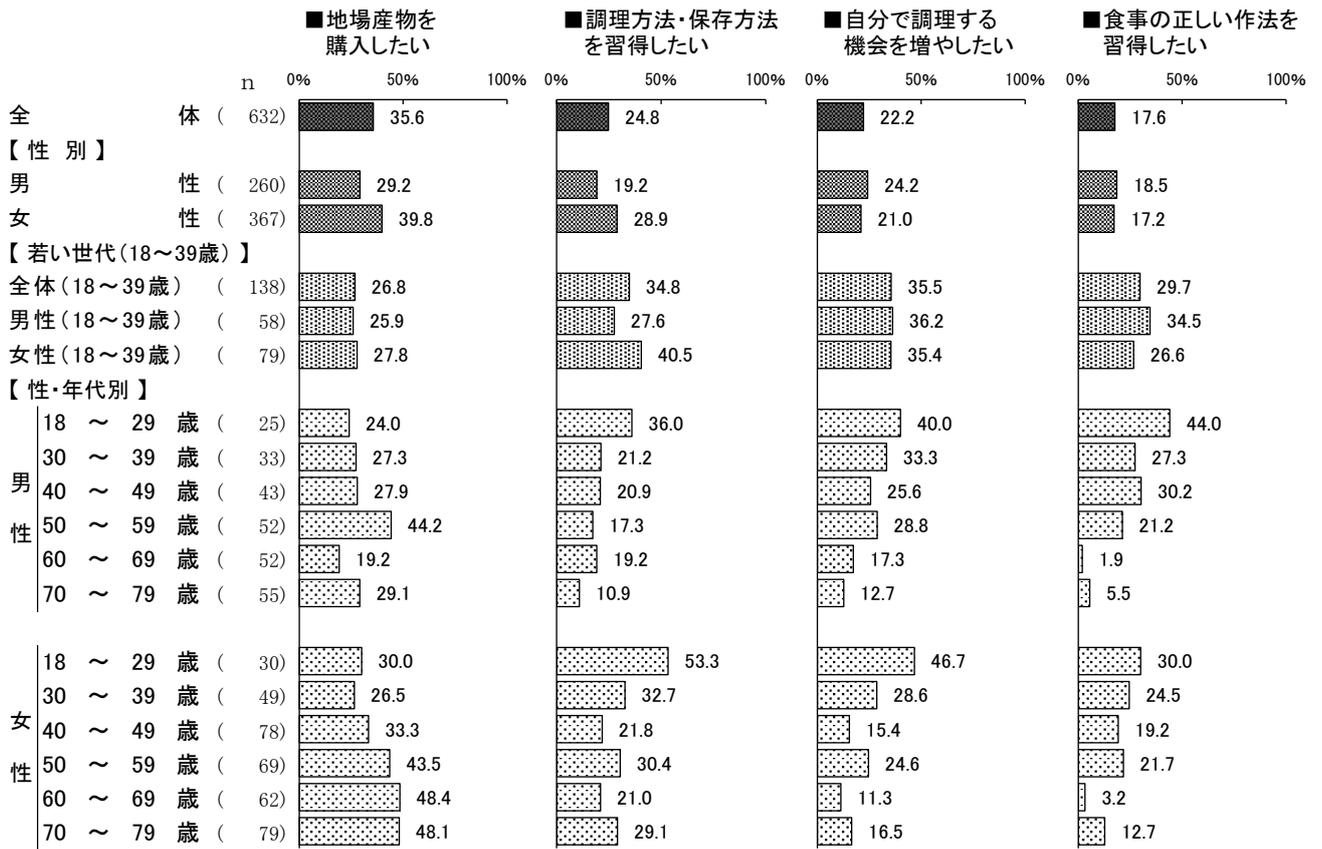
図2-2-1 今後1年間に実践したい食育

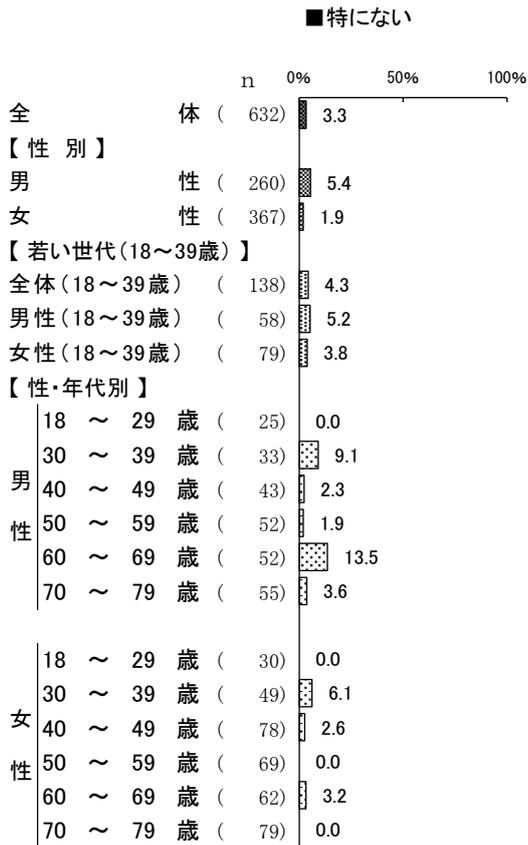


今後1年間に実践したい食育についてたずねたところ、「栄養バランスのとれた食生活を実践したい」(65.7%)が6割半ばと最も多く、次いで「食べ残しや食品の廃棄を削減したい」(59.8%)、「健康を意識した食生活を実践したい」(58.9%)、「規則正しい食生活を実践したい」(46.2%)などの順となっている。(図2-2-1)

図 2-2-2 今後 1 年間に実践したい食育—性別／性・年代別







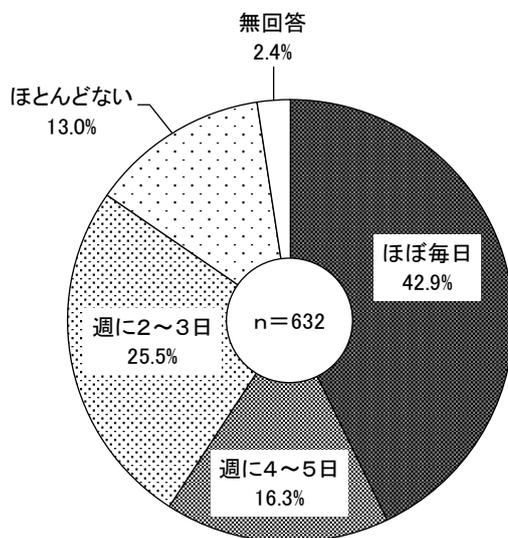
性別にみると、女性は男性より「地域性や季節感のある食事をとりたい」で12.4ポイント、「食品の安全性について理解したい」、「地場産物を購入したい」でともに10.6ポイント、「栄養バランスのとれた食生活を実践したい」で10.4ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「栄養バランスのとれた食生活を実践したい」は女性40~49歳で8割近く、女性50~59歳で7割半ばと多くなっている。「食べ残しや食品の廃棄を削減したい」は男性70~79歳で約7割、女性70~79歳で7割近くと多くなっている。(図2-2-2)

(3) 主食・主菜・副菜の3つをそろえて食べることが1日に2回以上ある頻度

問3 主食（ごはん、パン、麺など）・主菜（肉・魚・卵・大豆製品などを使ったメインの料理）・副菜（野菜・きのこ・いも・海藻などを使った小鉢・小皿の料理）を3つそろえて食べることが1日に2回以上あるのは、週に何日ありますか。（○は1つだけ）

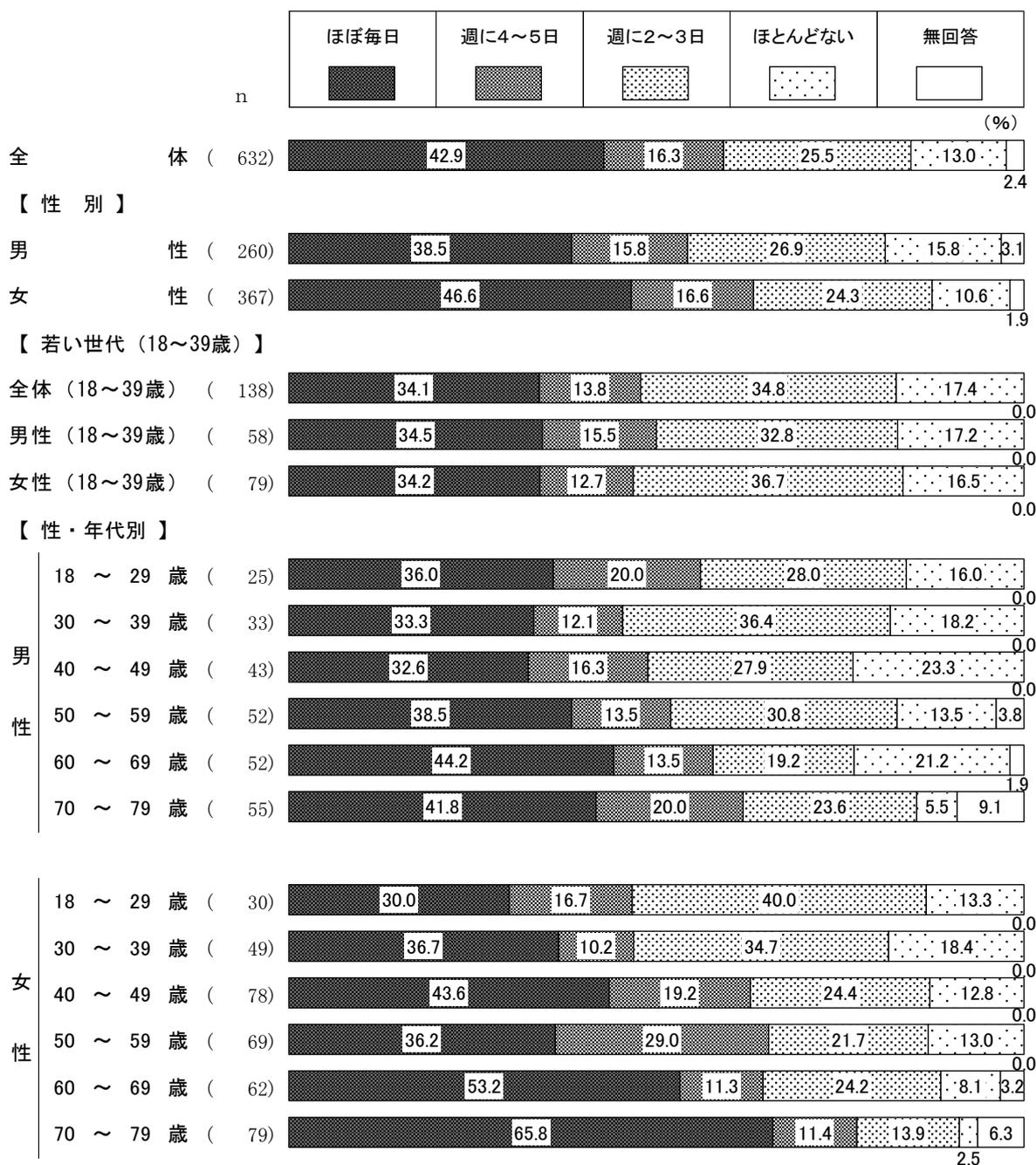
図2-3-1 主食・主菜・副菜の3つをそろえて食べることが1日に2回以上ある頻度



主食・主菜・副菜の3つをそろえて食べることが1日に2回以上ある頻度をたずねたところ、「ほぼ毎日」（42.9%）が4割を超え、「週に4～5日」（16.3%）が1割半ば、「週に2～3日」（25.5%）が2割半ば、「ほとんどない」（13.0%）は1割台となっている。

(図2-3-1)

図2-3-2 主食・主菜・副菜の3つをそろえて食べることが1日に2回以上ある頻度  
 -性別／性・年代別



性別にみると、「ほぼ毎日」は女性は男性より8.1ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「ほぼ毎日」は女性70~79歳で6割半ばと多くなっている。一方、女性18~29歳で3割と少なくなっている。また、「ほとんどない」は男性40~49歳、男性60~69歳で2割を超えている。(図2-3-2)

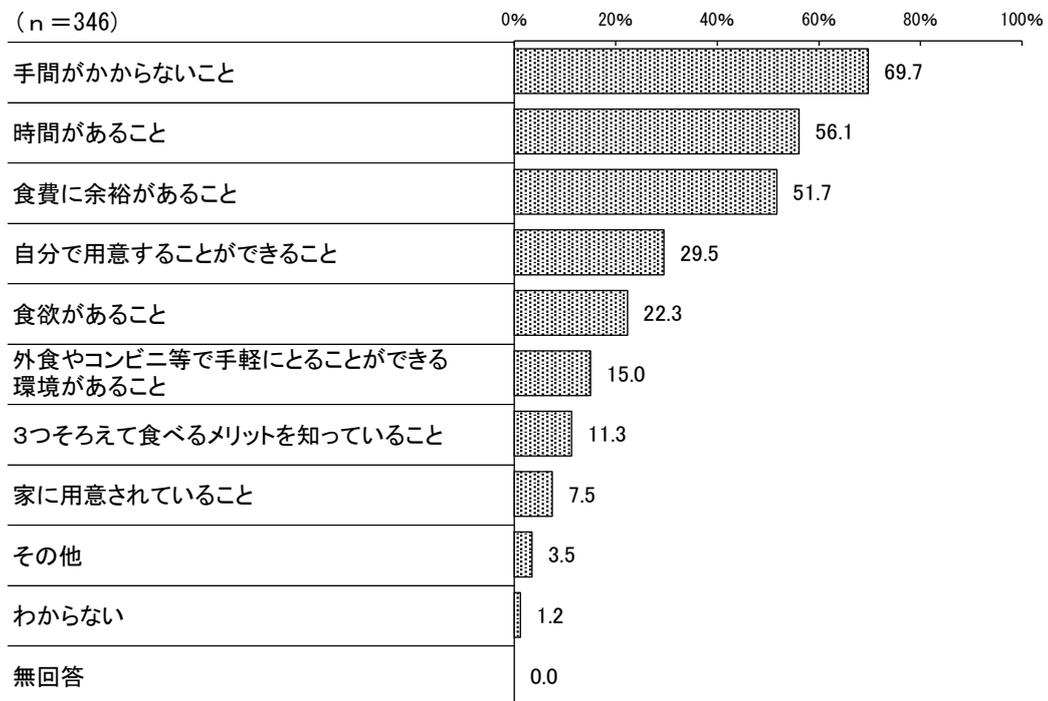
(3-1) 主食・主菜・副菜の3つをそろえて食べる回数を増やすために必要なこと

【問3で「2. 週に4～5日」、「3. 週に2～3日」、「4. ほとんどない」と答えた方に】

問3-1 主食・主菜・副菜を3つそろえて食べる回数を増やすためには、どのようなことが必要だと思いますか。

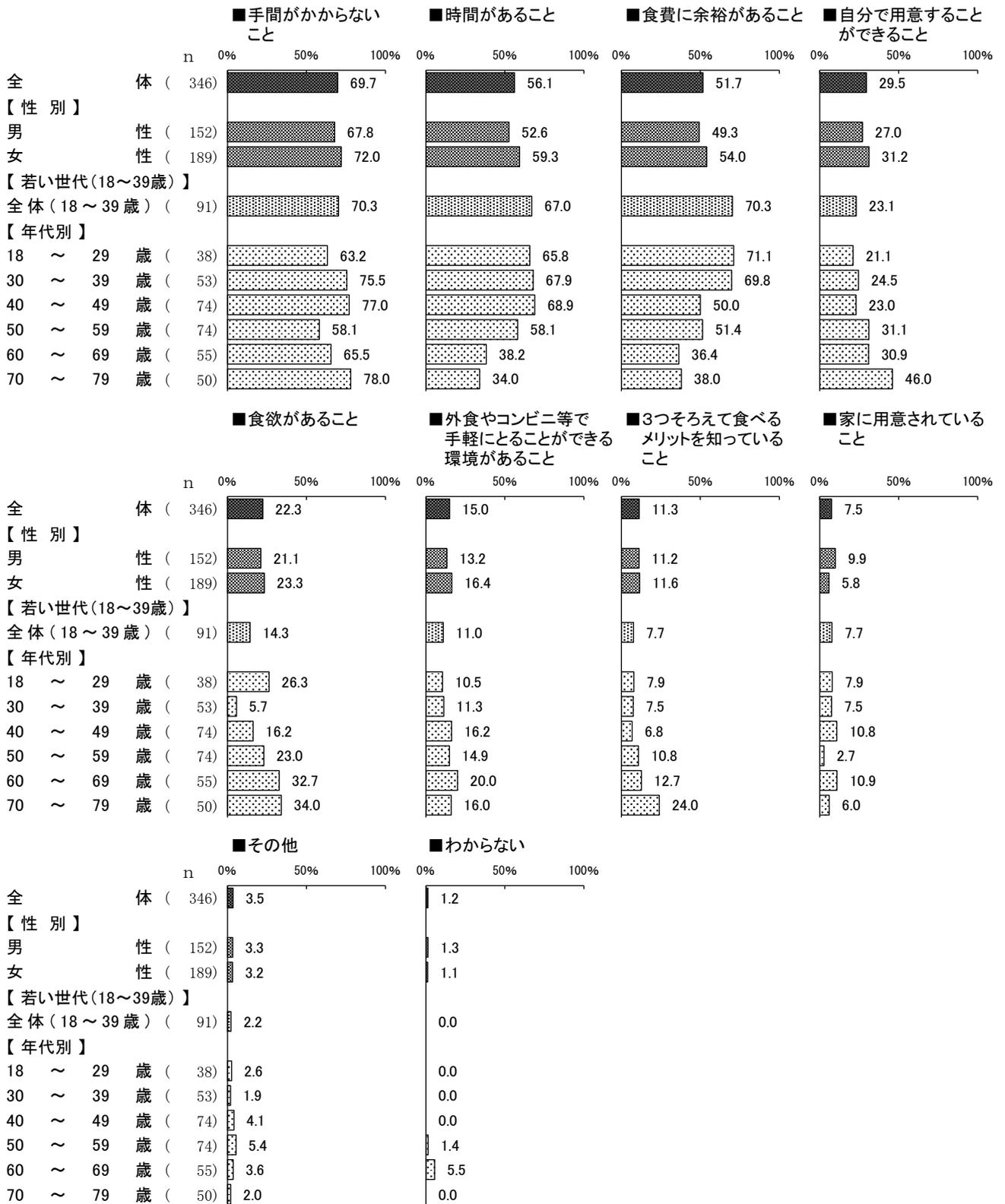
次の中からあてはまるものを**最大3つまで**選んで、右の欄に番号をご記入ください。

図2-3-3 主食・主菜・副菜の3つをそろえて食べる回数を増やすために必要なこと



主食・主菜・副菜の3つをそろえて食べるのが1日に2回以上ある頻度が週に4～5日、週に2～3日、ほとんどないと答えた方(346人)に主食・主菜・副菜の3つをそろえて食べる回数を増やすために必要なことをたずねたところ、「手間がかからないこと」(69.7%)が約7割と最も多く、次いで「時間があること」(56.1%)、「食費に余裕があること」(51.7%)、「自分で用意することができること」(29.5%)などの順となっている。(図2-3-3)

図2-3-4 主食・主菜・副菜の3つをそろえて食べる回数を増やすために必要なこと—性別/年代別



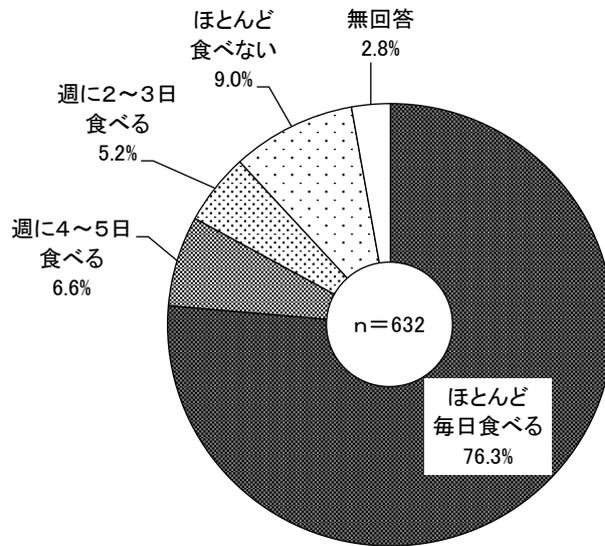
性別にみると、女性は男性より「時間があること」で6.7ポイント、「食費に余裕があること」で4.7ポイント、それぞれ高くなっている。

年代別にみると、「手間がかからないこと」は40~49歳、70~79歳で8割近く、「時間があること」は30~39歳、40~49歳で7割近く、「食費に余裕があること」は18~29歳、30~39歳で7割前後と多くなっている。(図2-3-4)

#### (4) 朝食の摂取頻度

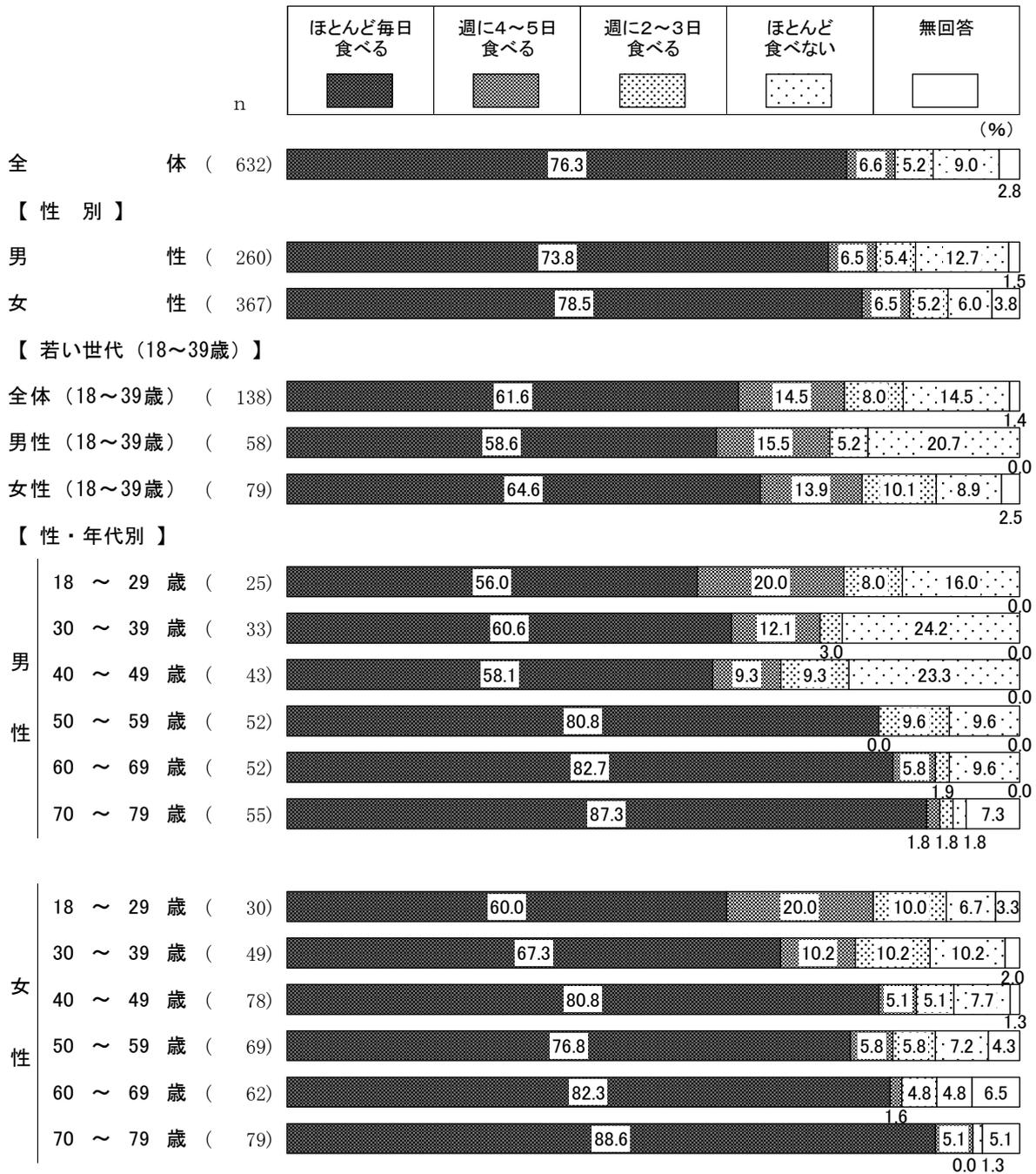
問4 あなたは、朝食を食べていますか。(○は1つだけ)

図2-4-1 朝食の摂取頻度



朝食の摂取頻度をたずねたところ、「ほとんど毎日食べる」(76.3%)が7割半ば、「週に4~5日食べる」(6.6%)、「週に2~3日食べる」(5.2%)、「ほとんど食べない」(9.0%)がそれぞれ1割未満となっている。(図2-4-1)

図 2-4-2 朝食の摂取頻度—性別／性・年代別



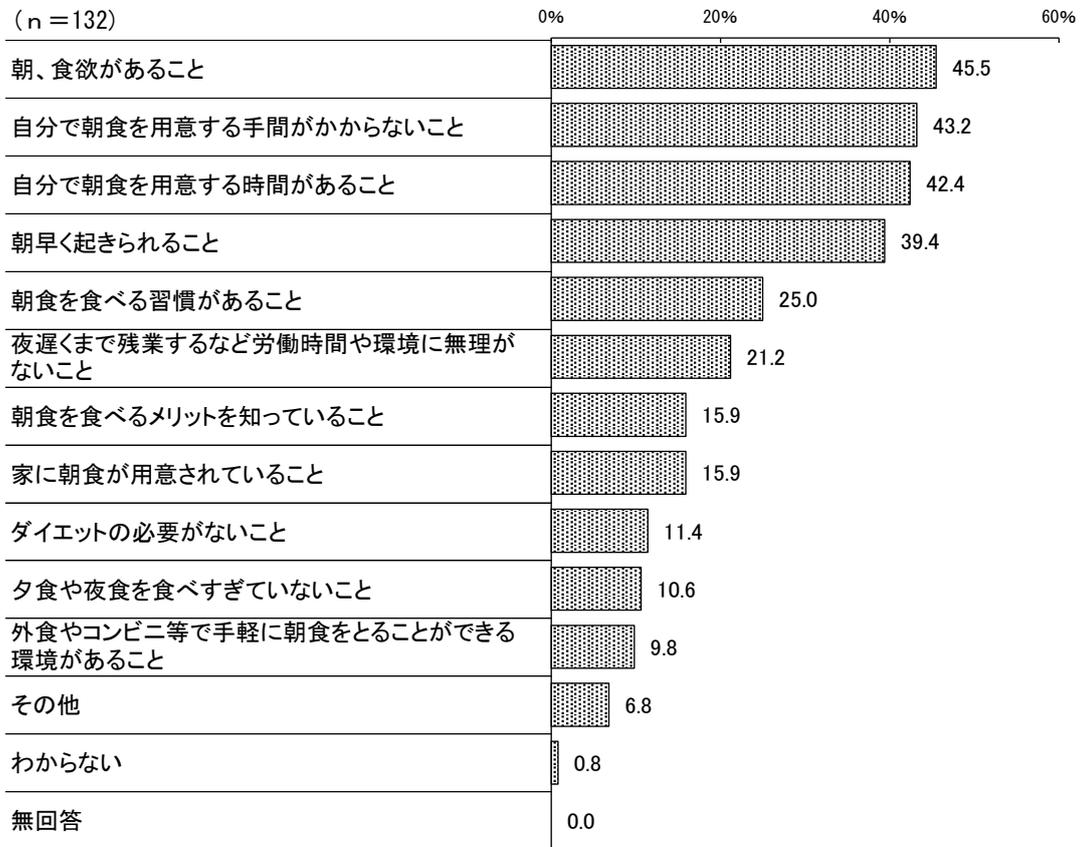
性別にみると、「ほとんど毎日食べる」は女性は男性より4.7ポイント高くなっている。一方、「ほとんど食べない」は男性は女性より6.7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「ほとんど毎日食べる」は男性70~79歳、女性70~79歳で9割近くと多くなっている。一方、男性18~29歳で5割半ばと少なくなっている。(図2-4-2)

(4-1) 朝食を食べるために必要なこと

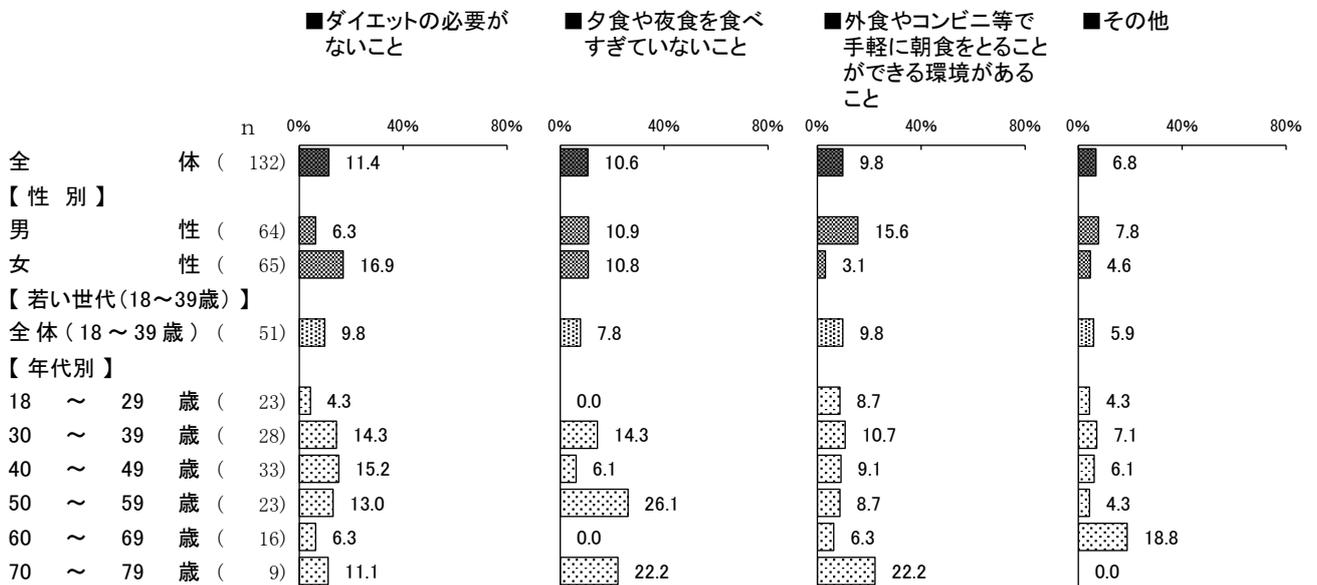
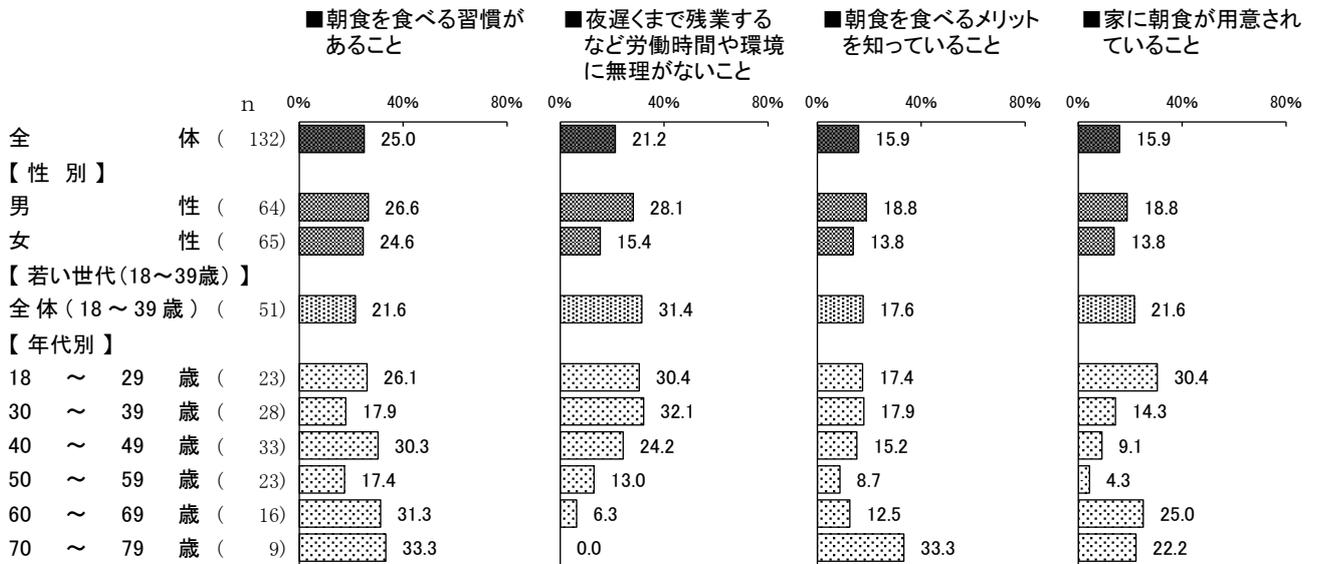
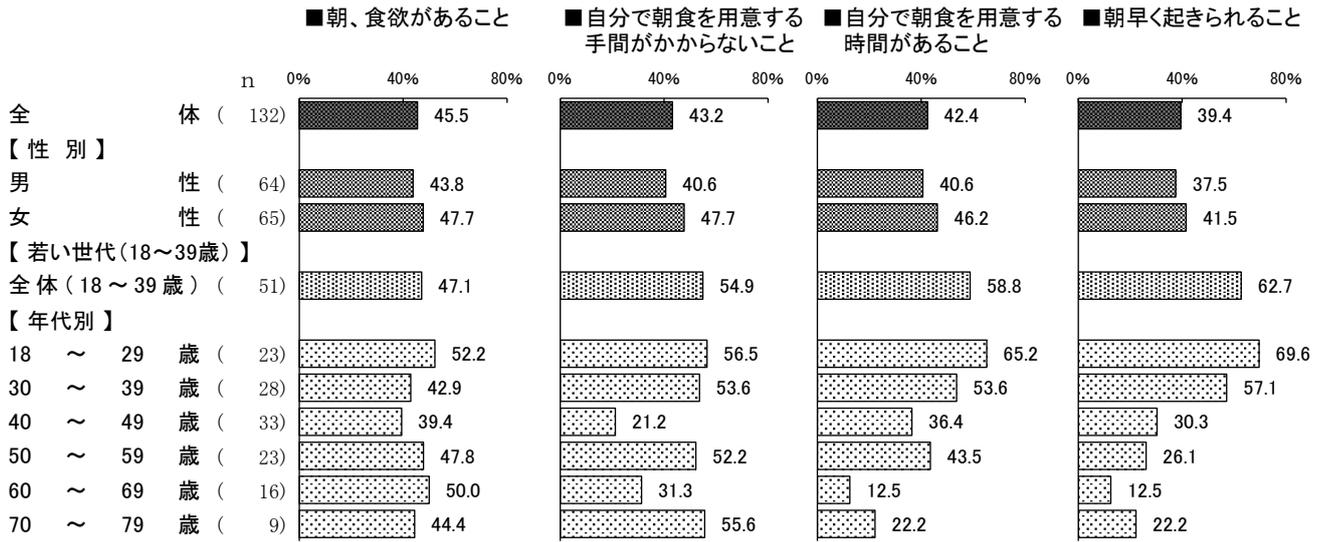
【問4で「2. 週に4～5日食べる」、「3. 週に2～3日食べる」、「4. ほとんど食べない」と答えた方に】  
 問4-1 あなたが朝食を食べるためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
 (〇はいくつでも)

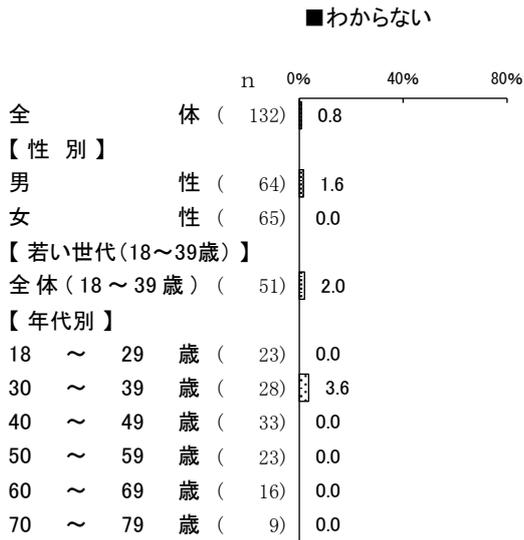
図2-4-3 朝食を食べるために必要なこと



朝食を週に4～5日食べる、週に2～3日食べる、ほとんど食べないと答えた方(132人)に朝食を食べるために必要なことをたずねたところ、「朝、食欲があること」(45.5%)が4割半ばと最も多く、次いで「自分で朝食を用意する手間がかからないこと」(43.2%)、「自分で朝食を用意する時間があること」(42.4%)、「朝早く起きられること」(39.4%)などの順となっている。(図2-4-3)

図 2-4-4 朝食を食べるために必要なこと—性別/年代別





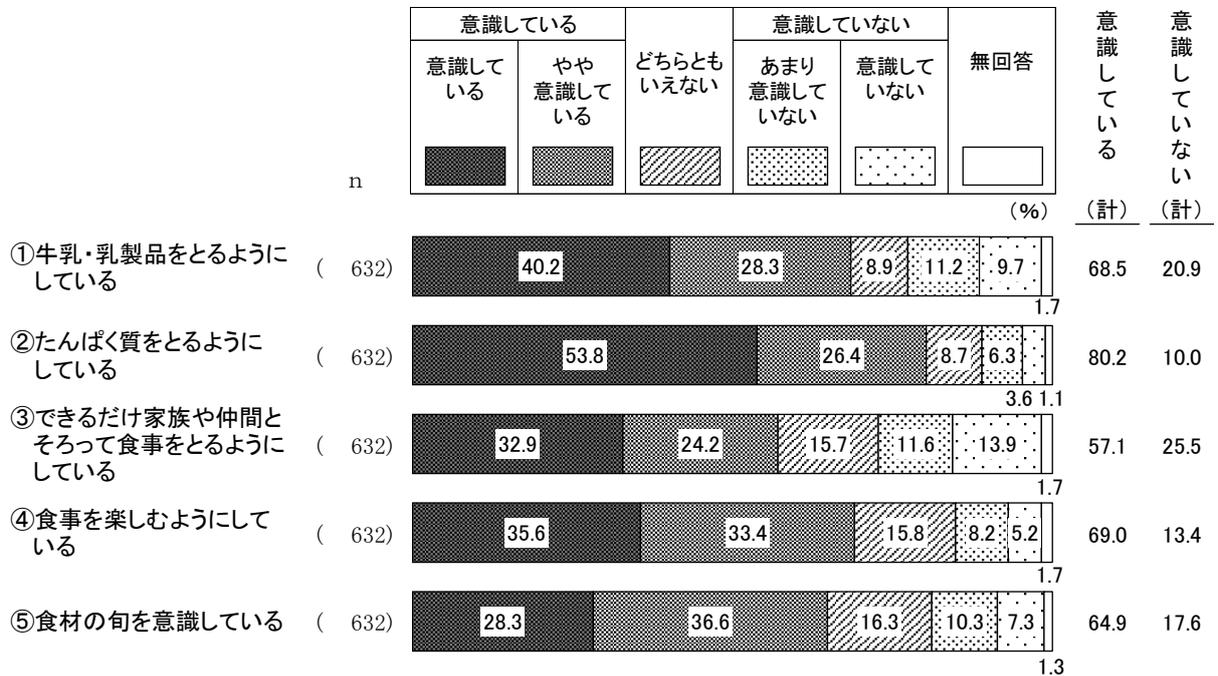
性別にみると、男性は女性より「夜遅くまで残業するなど労働時間や環境に無理がないこと」で12.7ポイント、「外食やコンビニ等で手軽に朝食をとることができる環境があること」で12.5ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性は男性より「ダイエットの必要がないこと」で10.6ポイント、「自分で朝食を用意する手間がかからないこと」で7.1ポイント、それぞれ高くなっている。

年代別はn数が少ないため、参考として図示する。(図2-4-4)

(5) 食生活についての意識

問5 食生活において次のことをどの程度意識していますか。  
 それぞれの項目について、あてはまる番号を○で囲んでください。(○は1つずつ)

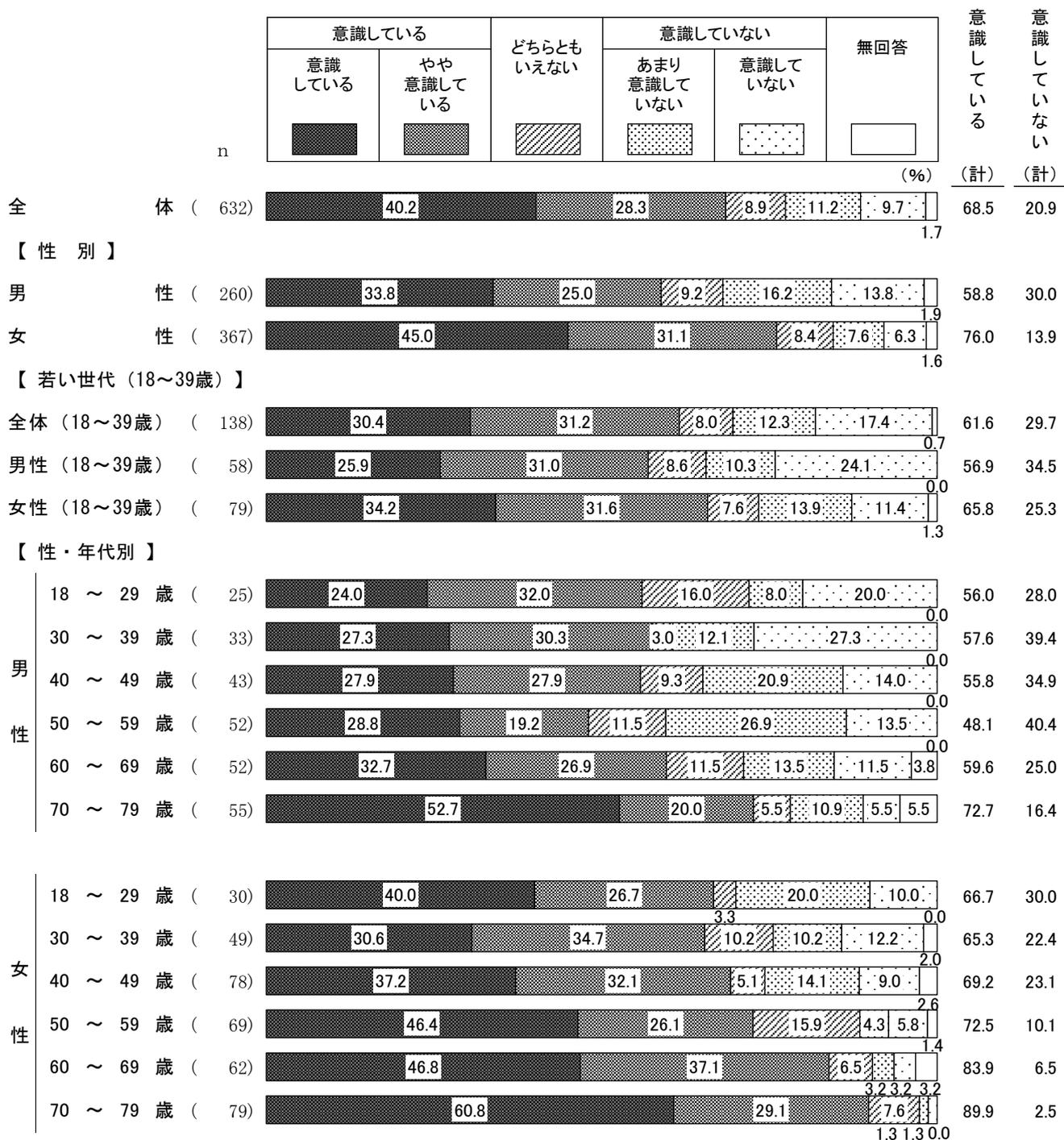
図2-5-1 食生活についての意識



食生活についての意識をたずねたところ、「意識している」と「やや意識している」を合わせた『意識している(計)』は①牛乳・乳製品をとるようにしている(68.5%)で7割近く、②たんぱく質をとるようにしている(80.2%)で約8割、③できるだけ家族や仲間とそろって食事をとるようにしている(57.1%)で6割近く、④食事を楽しむようにしている(69.0%)で約7割、⑤食材の旬を意識している(64.9%)で6割半ばとなっている。(図2-5-1)

図 2-5-2 食生活についての意識—性別／性・年代別

①牛乳・乳製品をとるようになっている

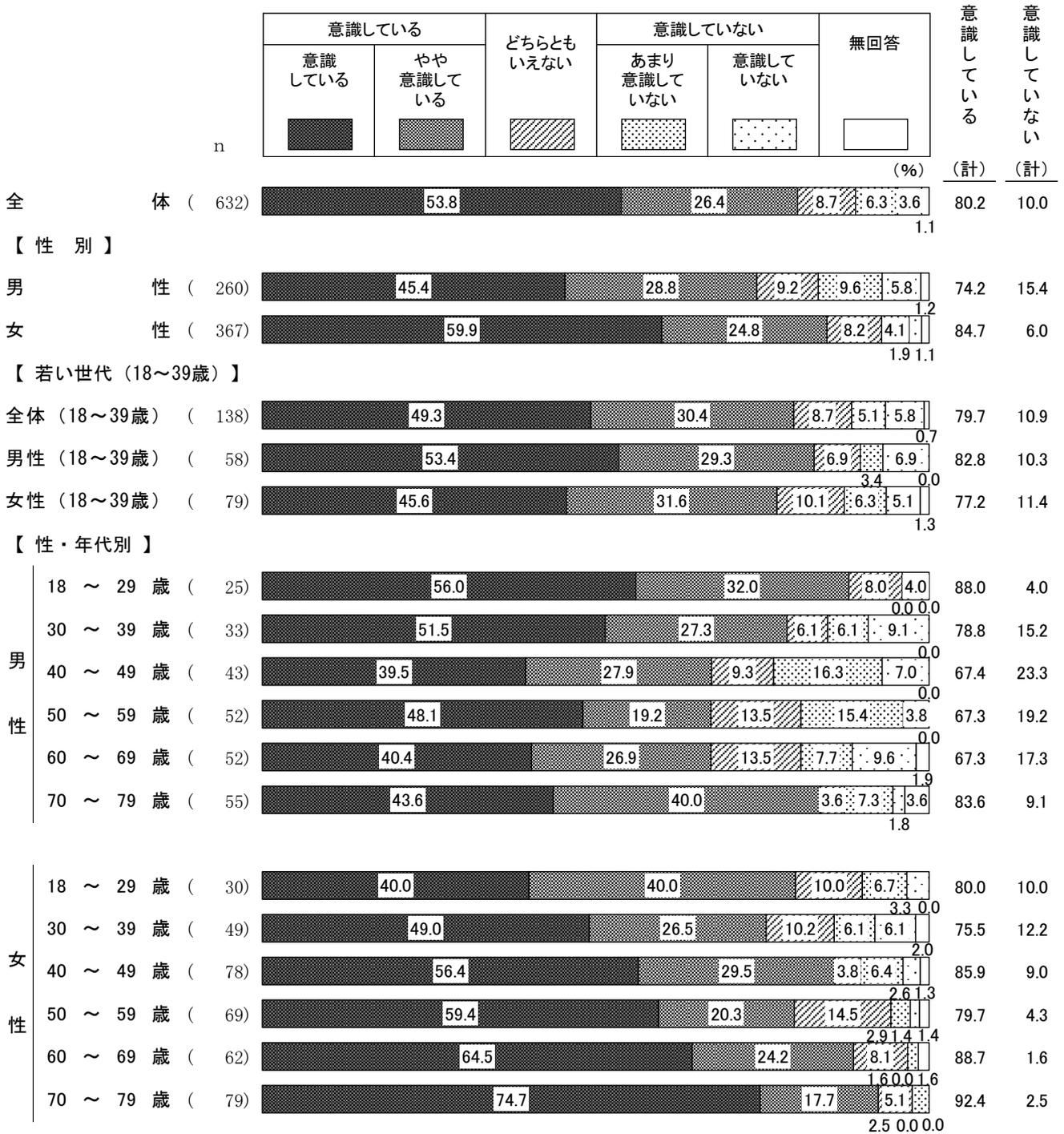


「①牛乳・乳製品をとるようになっている」について性別にみると、『意識している (計)』は女性より17.2ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『意識している (計)』は女性70~79歳で約9割と多くなっている。一方、男性50~59歳で5割未満と少なくなっている。(図2-5-2)

図2-5-3 食生活についての意識—性別／性・年代別

②たんぱく質をとるようにしている

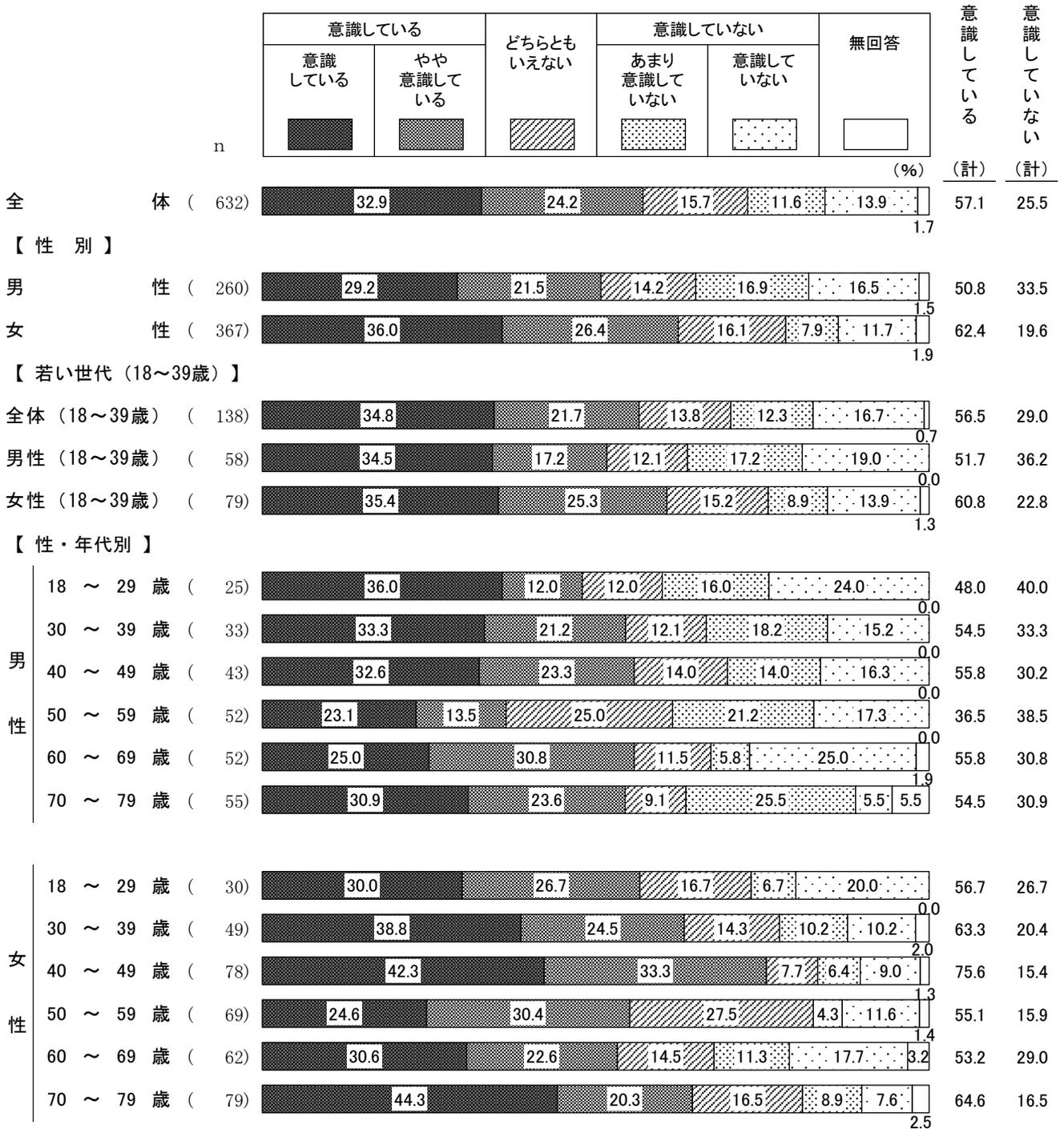


「②たんぱく質をとるようにしている」について性別にみると、『意識している(計)』は女性は男性より10.5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『意識している(計)』は女性70~79歳で9割を超えて多くなっている。  
(図2-5-3)

図 2-5-4 食生活についての意識—性別／性・年代別

③できるだけ家族や仲間とそろって食事をとるようにしている

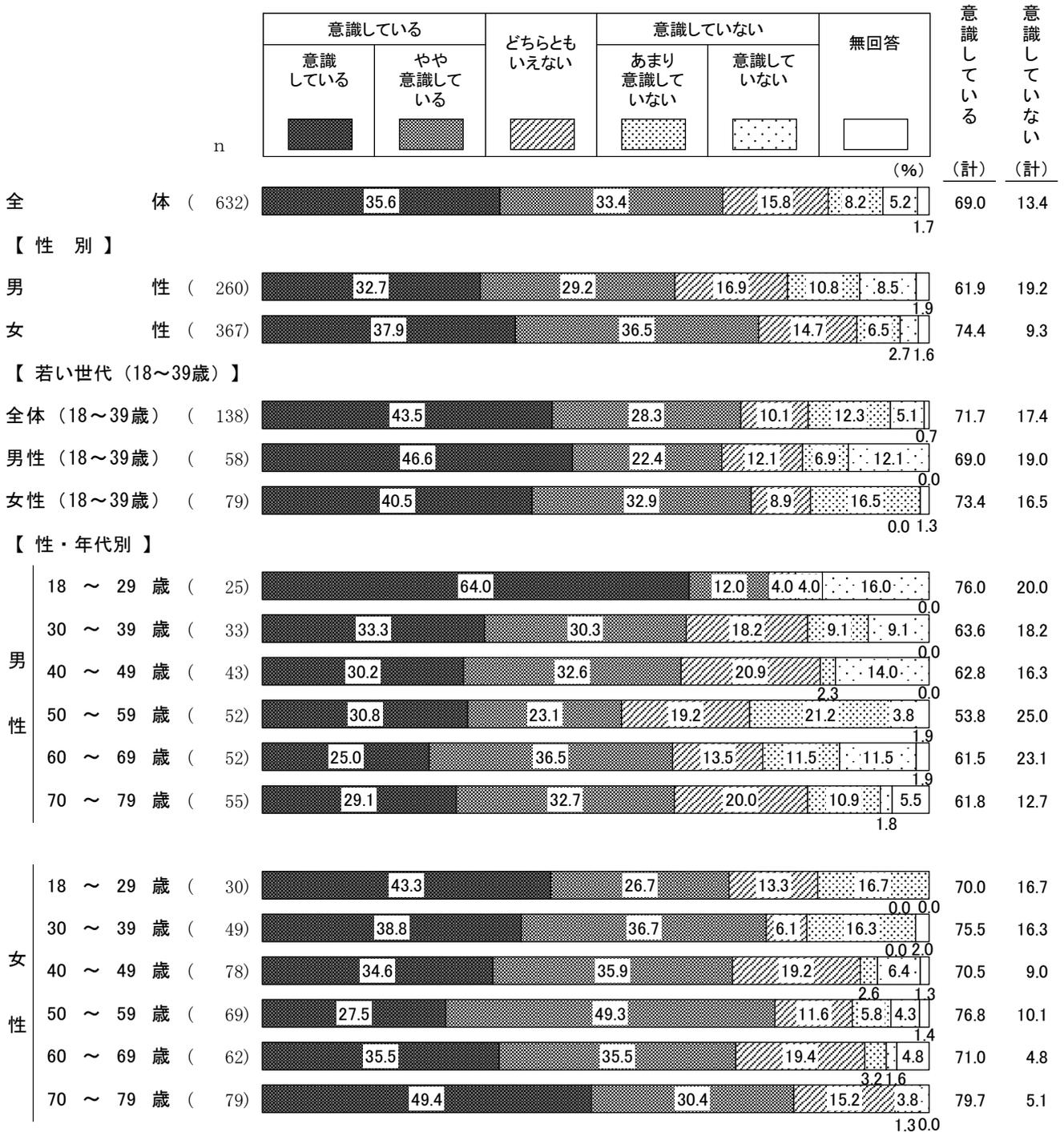


「③できるだけ家族や仲間とそろって食事をとるようにしている」について性別にみると、『意識している (計)』は女性は男性より11.6ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『意識している (計)』は女性40~49歳で7割半ばと多くなっている。一方、男性50~59歳で3割半ばと少なくなっている。(図 2-5-4)

図 2-5-5 食生活についての意識—性別／性・年代別

④食事を楽しむようにしている

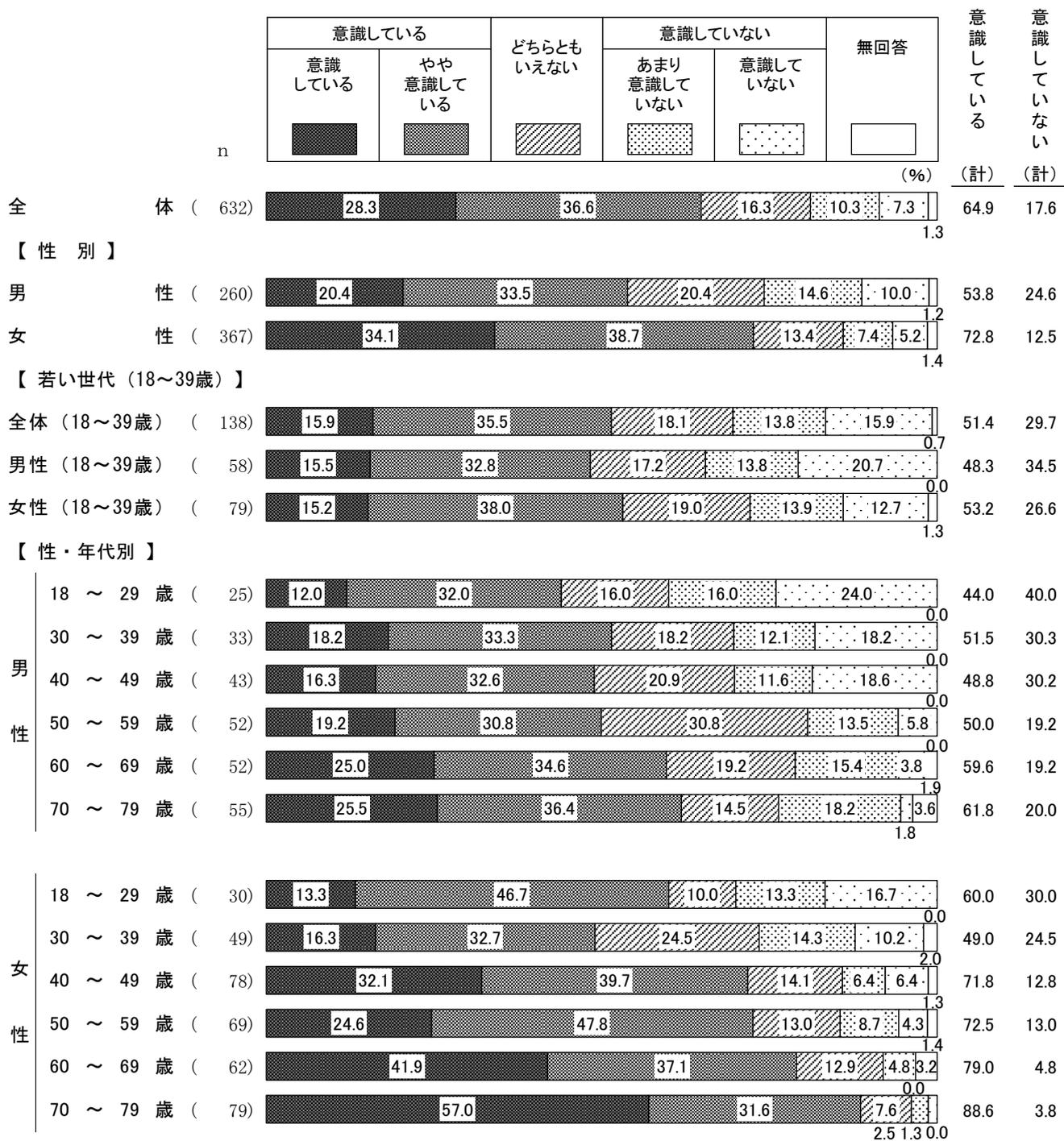


「④食事を楽しむようにしている」について性別にみると、『意識している (計)』は女性より12.5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『意識している (計)』は女性70~79歳で約8割と多くなっている。一方、男性50~59歳で5割前半と少なくなっている。(図2-5-5)

図 2-5-6 食生活についての意識—性別／性・年代別

⑤食材の旬を意識している



「⑤食材の旬を意識している」について性別にみると、『意識している (計)』は女性は男性より19.0ポイント高くなっている。

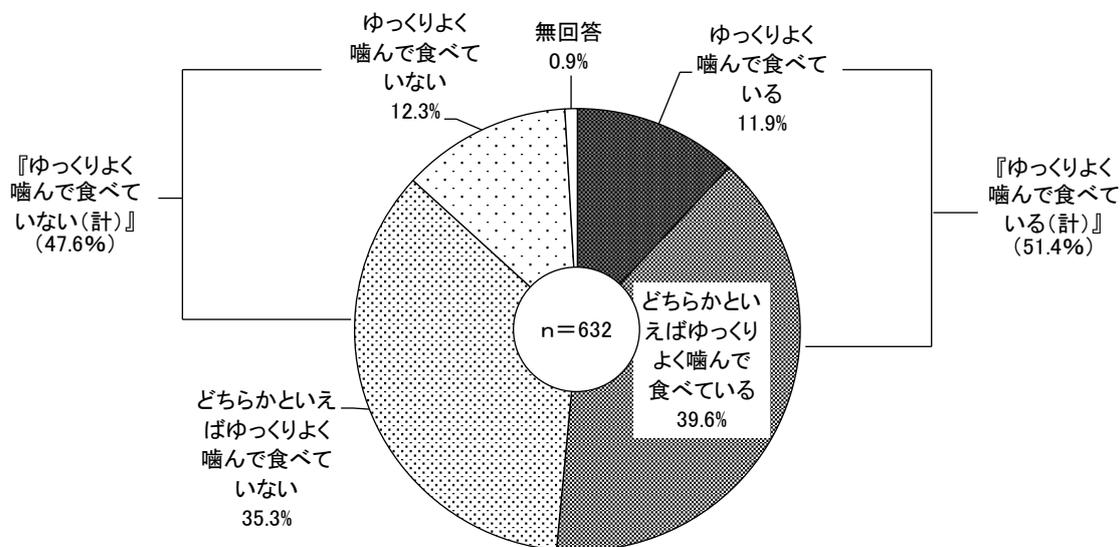
性・年代別にみると、『意識している (計)』は女性70~79歳で9割近くと多くなっている。一方、男性18~29歳で4割半ばと少なくなっている。(図2-5-6)



(6) ゆっくりよく噛んで食べている程度

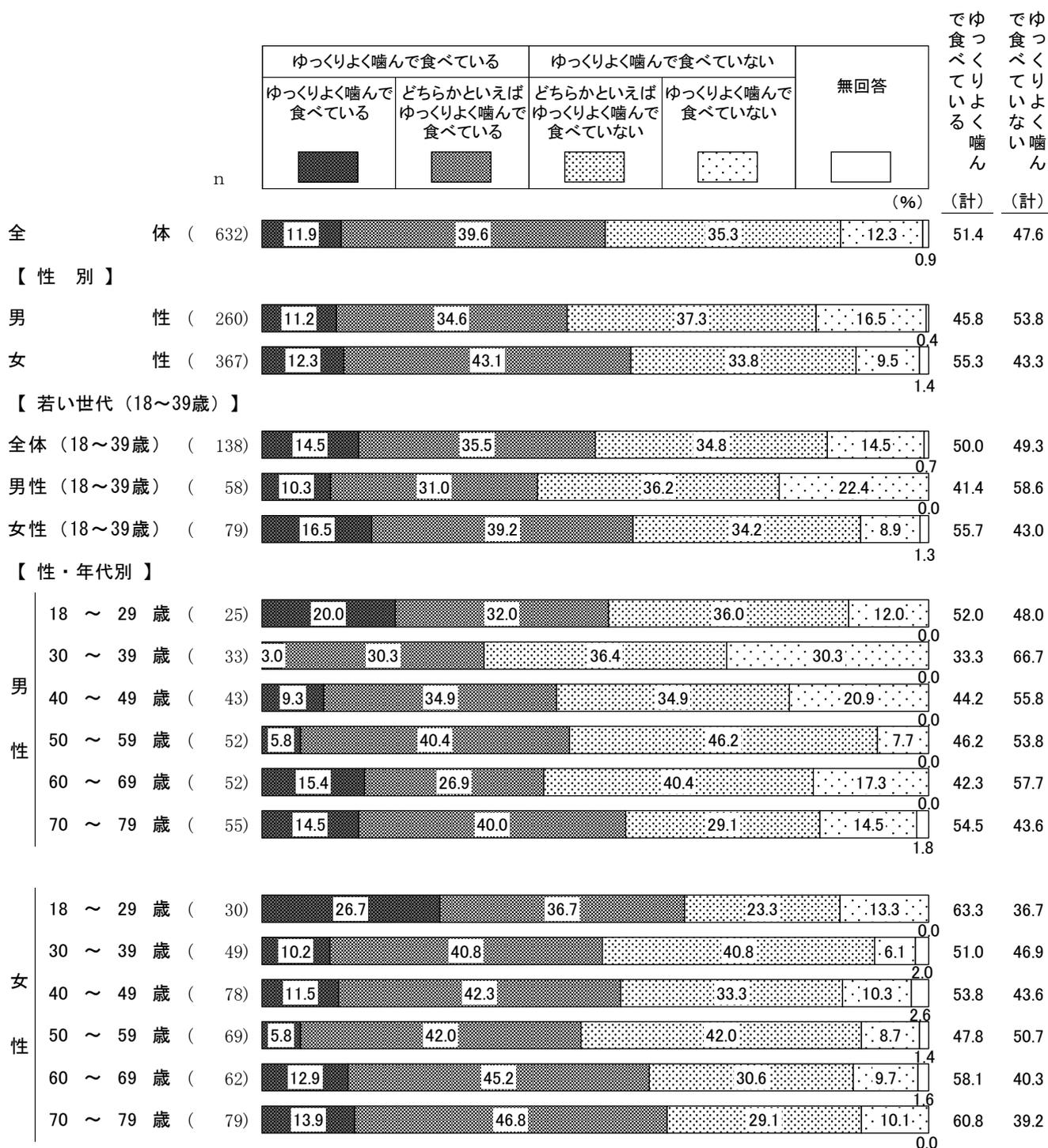
問6 あなたは、ふだんゆっくりよく噛んで食べていますか。(○は1つだけ)

図2-6-1 ゆっくりよく噛んで食べている程度



ゆっくりよく噛んで食べている程度をたずねたところ、「ゆっくりよく噛んで食べている」(11.9%)と「どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べている」(39.6%)を合わせた『ゆっくりよく噛んで食べている(計)』(51.4%)が5割を超えている。一方、「どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べていない」(35.3%)と「ゆっくりよく噛んで食べていない」(12.3%)を合わせた『ゆっくりよく噛んで食べていない(計)』(47.6%)が5割近くとなっている。(図2-6-1)

図2-6-2 ゆっくりよく噛んで食べている程度—性別／性・年代別



性別にみると、『ゆっくりよく噛んで食べている（計）』は女性は男性より9.5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『ゆっくりよく噛んで食べている（計）』は女性18~29歳で6割を超え、女性70~79歳で約6割と多くなっている。一方、男性30~39歳で3割台と少なくなっている。

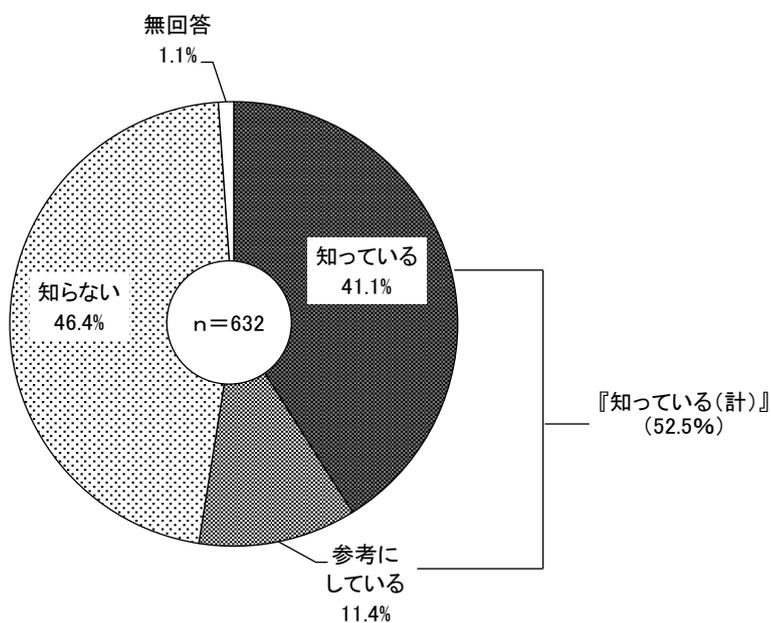
(図2-6-2)

## (7) 「食事バランスガイド」の認知度

問7 あなたは「食事バランスガイド」を知っていますか。(○は1つだけ)

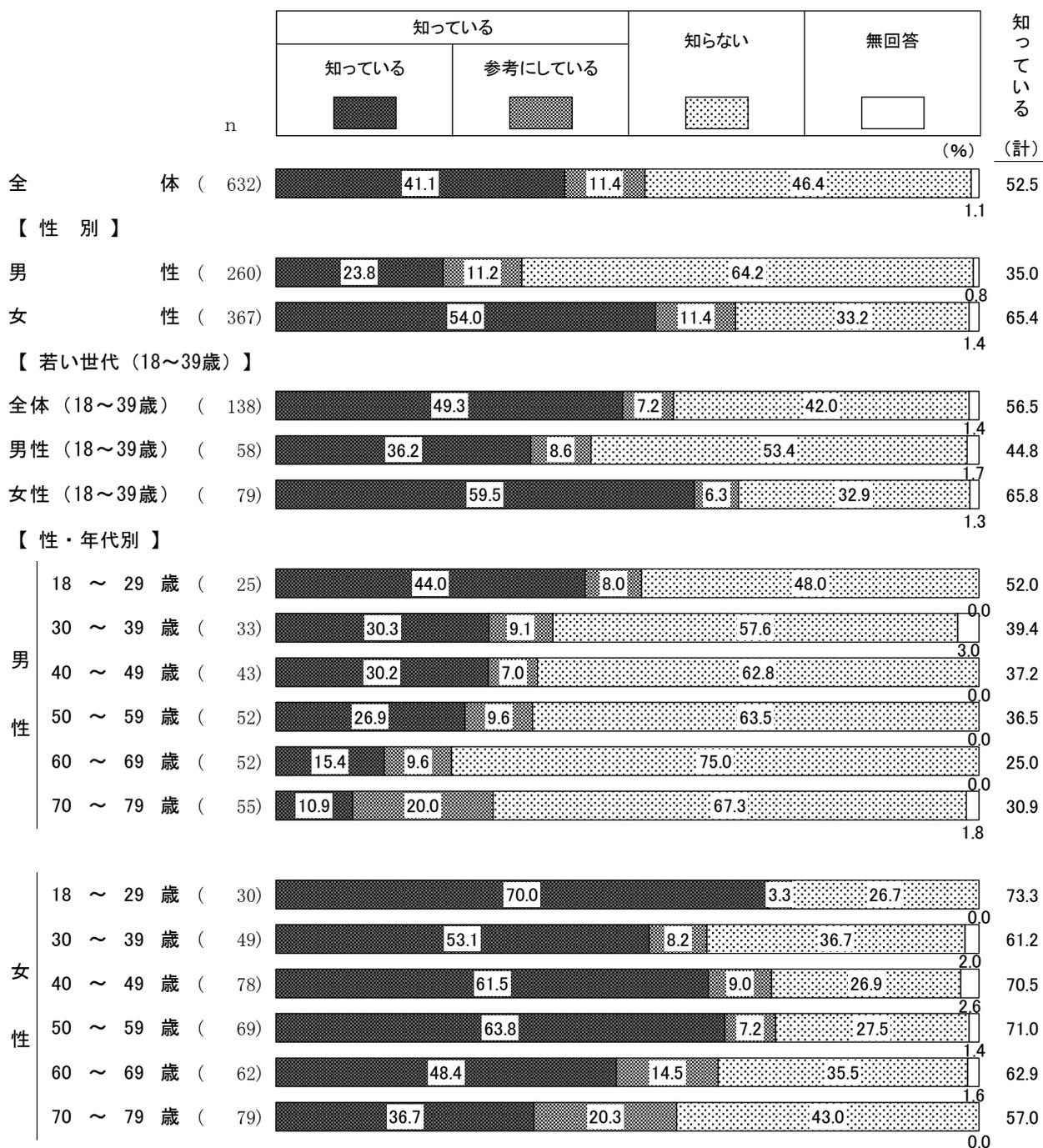
※平成17年6月に厚生労働省と農林水産省が決定した「食事バランスガイド」は、食事の基本を身につけるための望ましい食事のとり方や、おおよその量を分かりやすく示しています。

図2-7-1 「食事バランスガイド」の認知度



「食事バランスガイド」を知っているかたずねたところ、「知っている」(41.1%)と「参考に使っている」(11.4%)を合わせた『知っている(計)』(52.5%)が5割を超えている。一方、「知らない」(46.4%)は4割半ばとなっている。(図2-7-1)

図2-7-2 「食事バランスガイド」の認知度—性別／性・年代別



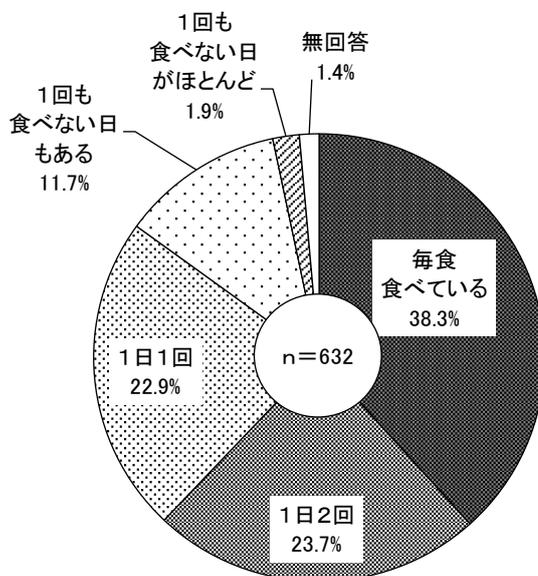
性別にみると、『知っている（計）』は女性は男性より30.4ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『知っている（計）』は女性18~29歳、女性40~49歳、女性50~59歳で7割を超えて多くなっている。一方、男性60~69歳で2割半ばと少なくなっている。（図2-7-2）

(8) 1日の野菜を食べる頻度

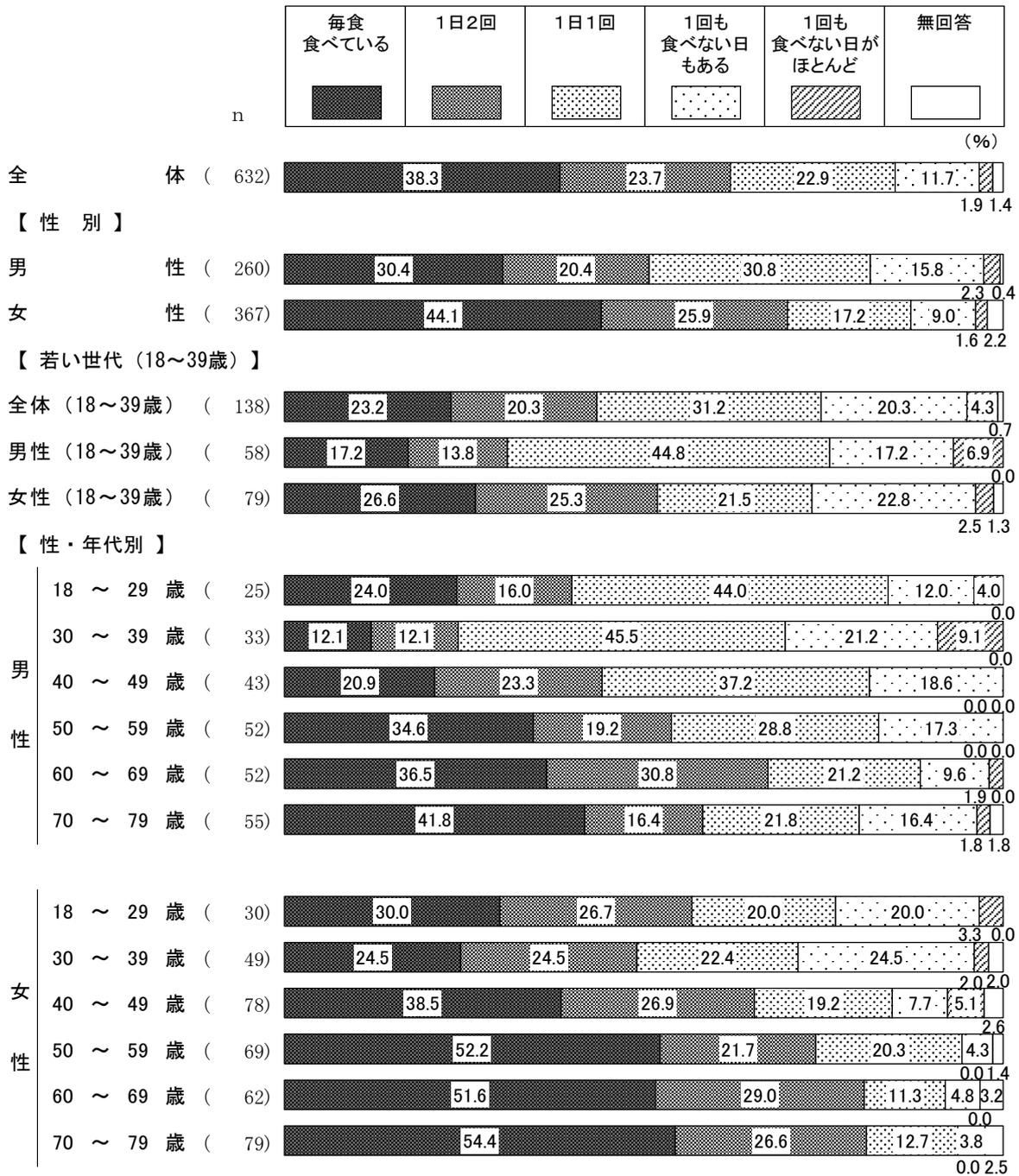
問8 1日にどれくらいの頻度で野菜を食べていますか。(○は1つだけ)

図2-8-1 1日の野菜を食べる頻度



1日の野菜を食べる頻度をたずねたところ、「毎食食べている」(38.3%)が4割近く、「1日2回」(23.7%)、「1日1回」(22.9%)がそれぞれ2割を超えている。一方、「1回も食べない日もある」(11.7%)が1割台、「1回も食べない日がほとんど」(1.9%)は1割未満となっている。(図2-8-1)

図2-8-2 1日の野菜を食べる頻度—性別／性・年代別



性別にみると、「毎食食べている」は女性は男性より13.7ポイント高くなっている。

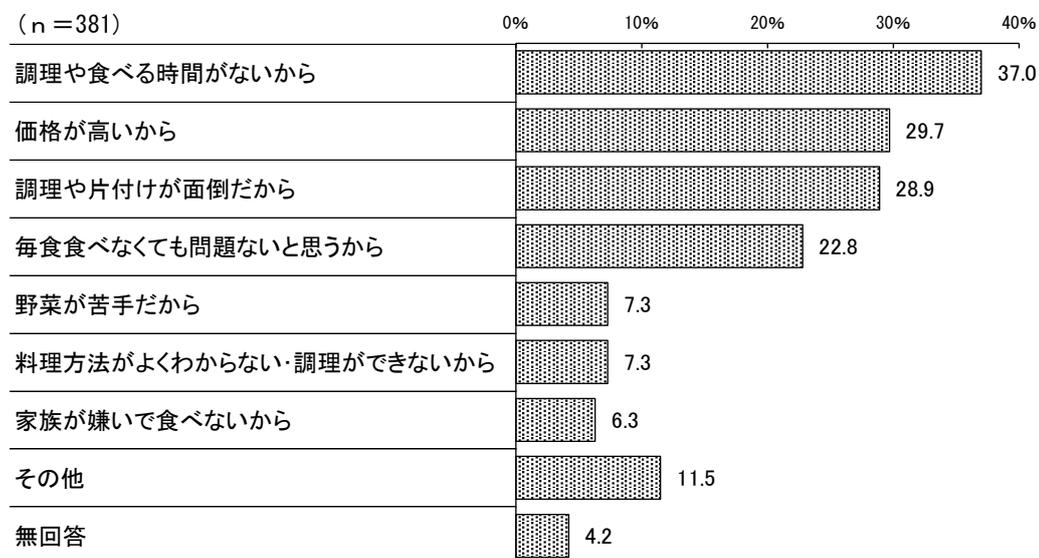
性・年代別にみると、「毎食食べている」は女性70~79歳で5割半ばと多くなっている。一方、男性30~39歳で1割台と少なくなっている。(図2-8-2)

### (8-1) 野菜を毎食食べない理由

【問8で「2. 1日2回」～「5. 1回も食べない日がほとんど」と答えた方に】

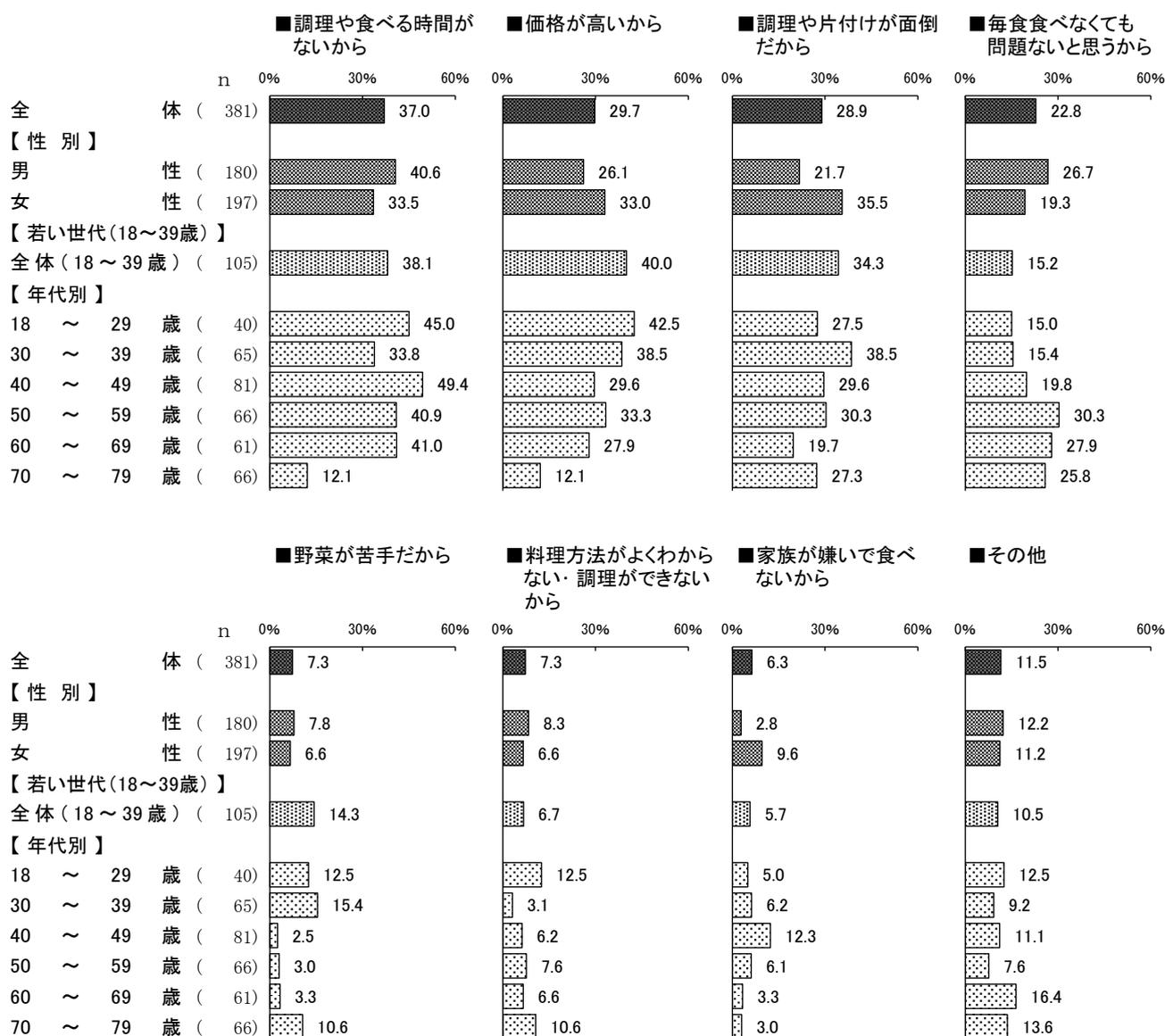
問8-1 あなたが野菜を毎食食べない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図2-8-3 野菜を毎食食べない理由



野菜を1日2回～1回も食べない日がほとんどと答えた方(381人)に、野菜を毎食食べない理由をたずねたところ、「調理や食べる時間がないから」(37.0%)が4割近くと最も多く、次いで「価格が高いから」(29.7%)、「調理や片付けが面倒だから」(28.9%)、「毎食食べなくても問題ないと思うから」(22.8%)などの順となっている。(図2-8-3)

図2-8-4 野菜を毎食食べない理由—性別／年代別



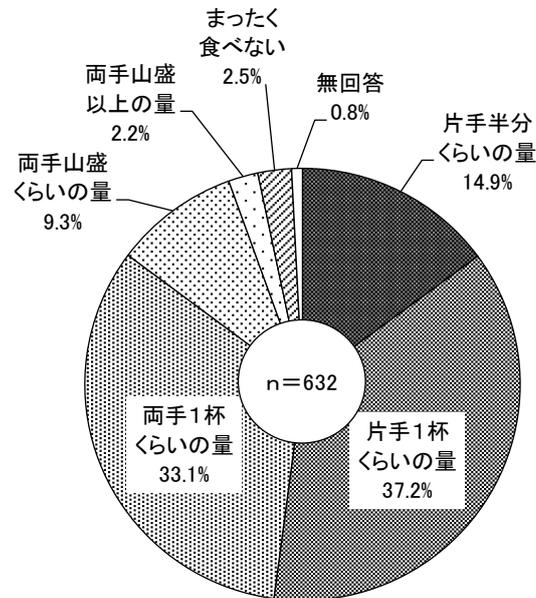
性別にみると、女性は男性より「調理や片付けが面倒だから」で13.8ポイント、「価格が高いから」で6.9ポイント、「家族が嫌いで食べないから」で6.8ポイント、それぞれ高くなっている。一方、男性は女性より「毎食食べなくても問題ないと思うから」で7.4ポイント、「調理や食べる時間がないから」で7.1ポイント、それぞれ高くなっている。

年代別にみると、「調理や食べる時間がないから」は40~49歳で約5割、「価格が高いから」は18~29歳で4割を超えて多くなっている。また、「調理や片付けが面倒だから」は30~39歳で4割近くと多くなっている。(図2-8-4)

(9) 1日に野菜を食べる量

問9 1日にどれくらいの量の野菜を食べていますか。(○は1つだけ)

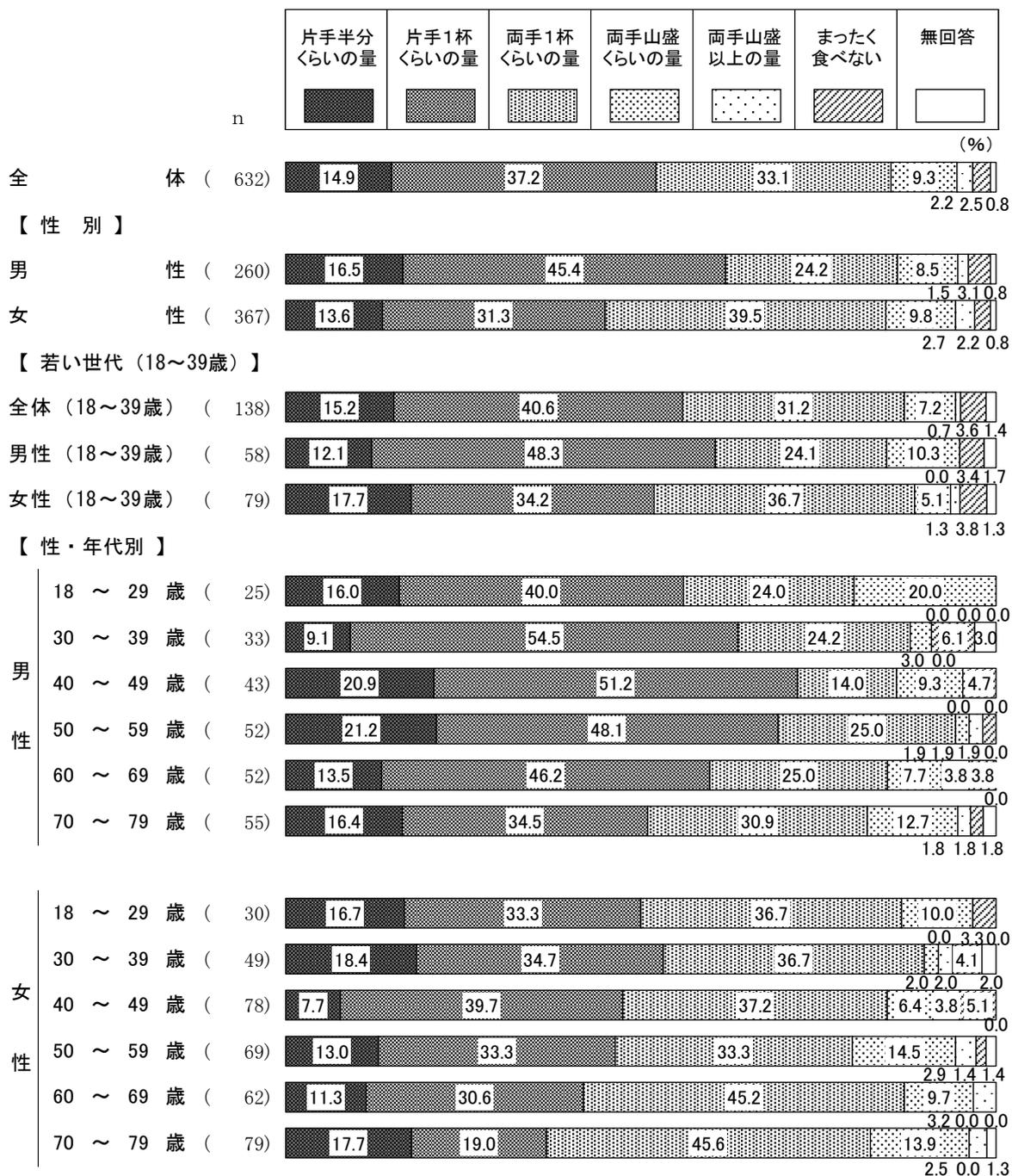
図2-9-1 1日に野菜を食べる量



1日に野菜を食べる量をたずねたところ、「片手1杯くらいの量」(37.2%)が4割近くと最も多く、次いで「両手1杯くらいの量」(33.1%)が3割を超え、「片手半分くらいの量」(14.9%)が1割半ば、「両手山盛くらいの量」(9.3%)が約1割となっている。

(図2-9-1)

図2-9-2 1日に野菜を食べる量—性別／性・年代別



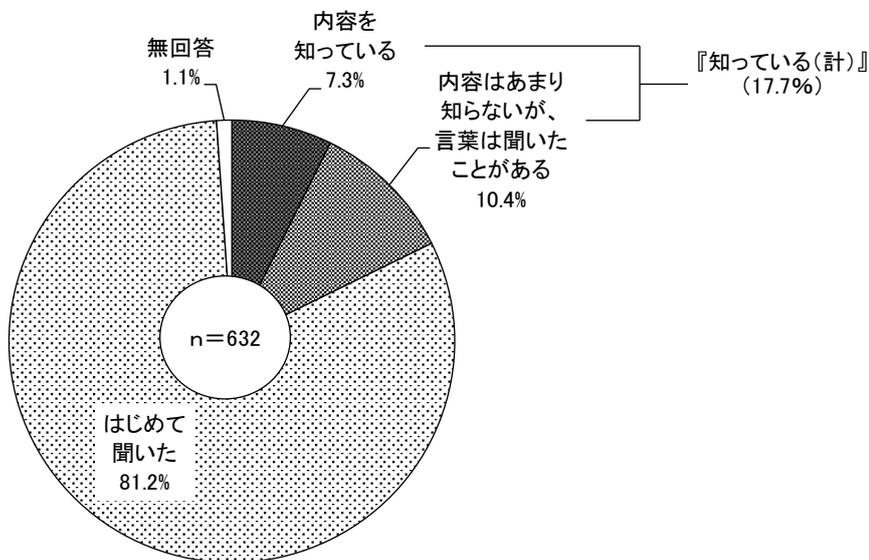
性別にみると、「両手1杯くらいの量」は女性は男性より15.3ポイント高くなっている。一方、「片手1杯くらいの量」は男性は女性より14.1ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「片手1杯くらいの量」は男性30~39歳、男性40~49歳で5割を超えて多くなっている。「両手1杯くらいの量」は女性60~69歳、女性70~79歳で4割半ばと多くなっている。(図2-9-2)

(10) 日野市の「ベジ活350」の取り組みについての認知度

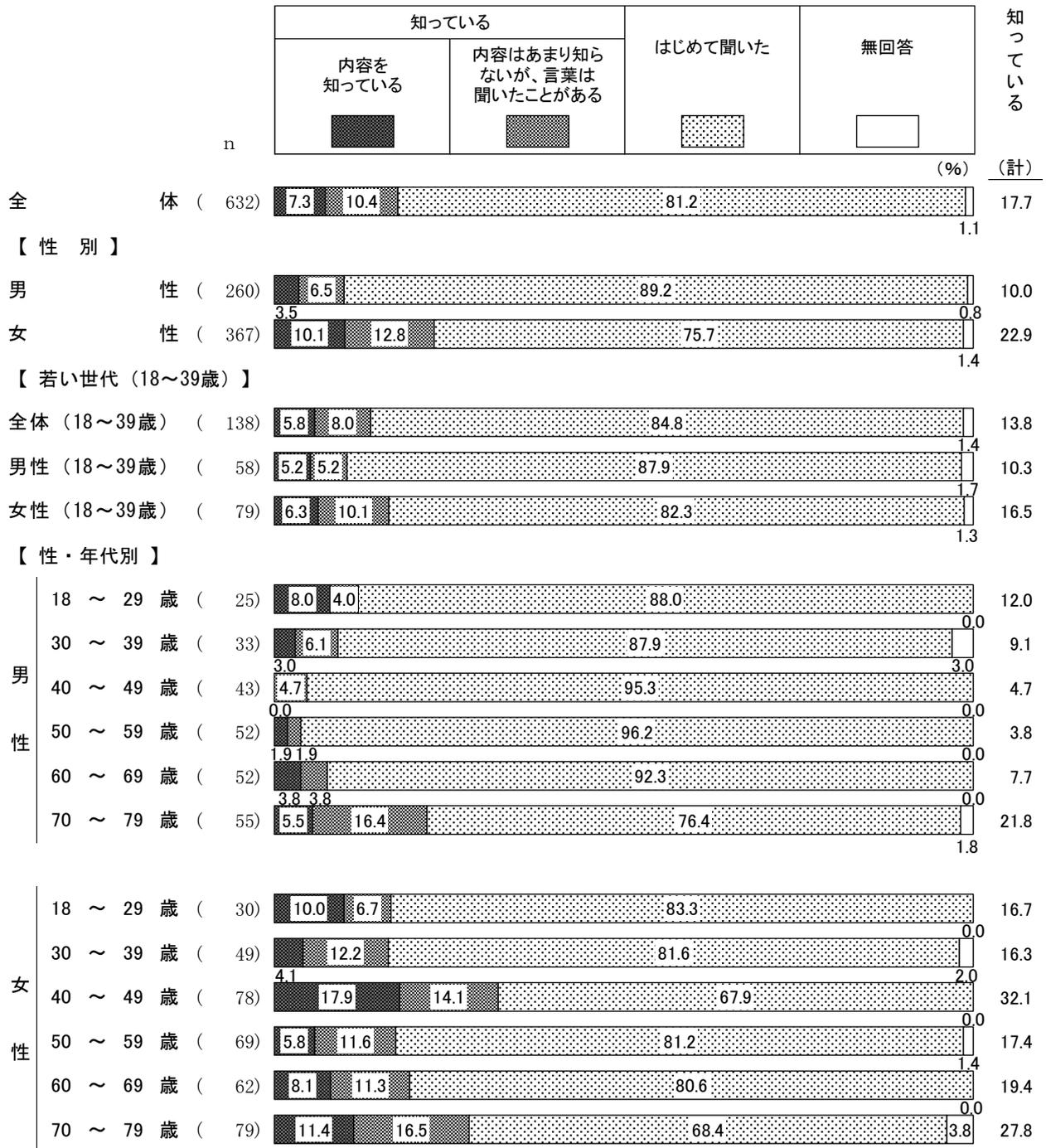
問10 あなたは、日野市が「ベジ活350～両手山盛りいっぱいを習慣に～」をキャッチフレーズに、1日350gの野菜を食べるための取り組みを進めていることを知っていますか。(〇は1つだけ)

図2-10-1 日野市の「ベジ活350」の取り組みについての認知度



日野市の「ベジ活350」の取り組みについて知っているかたずねたところ、「内容を知っている」(7.3%)と「内容はあまり知らないが、言葉は聞いたことがある」(10.4%)を合わせた『知っている(計)』(17.7%)が2割近くとなっている。一方、「はじめて聞いた」(81.2%)は8割を超えている。(図2-10-1)

図2-10-2 日野市の「ベジ活350」の取り組みについての認知度－性別／性・年代別



性別にみると、『知っている(計)』は女性は男性より12.9ポイント高くなっている。

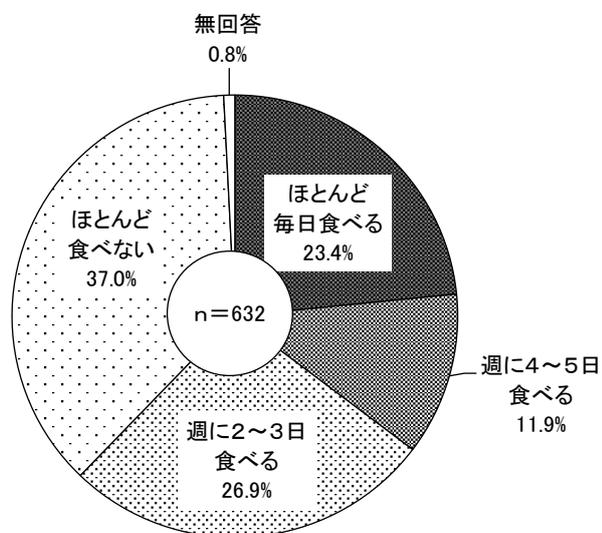
性・年代別にみると、『知っている(計)』は女性40~49歳で3割を超えて多くなっている。

(図2-10-2)

## (11) 果物の摂取頻度

問11 あなたは、どのくらいの頻度で果物を食べていますか。(○は1つだけ)

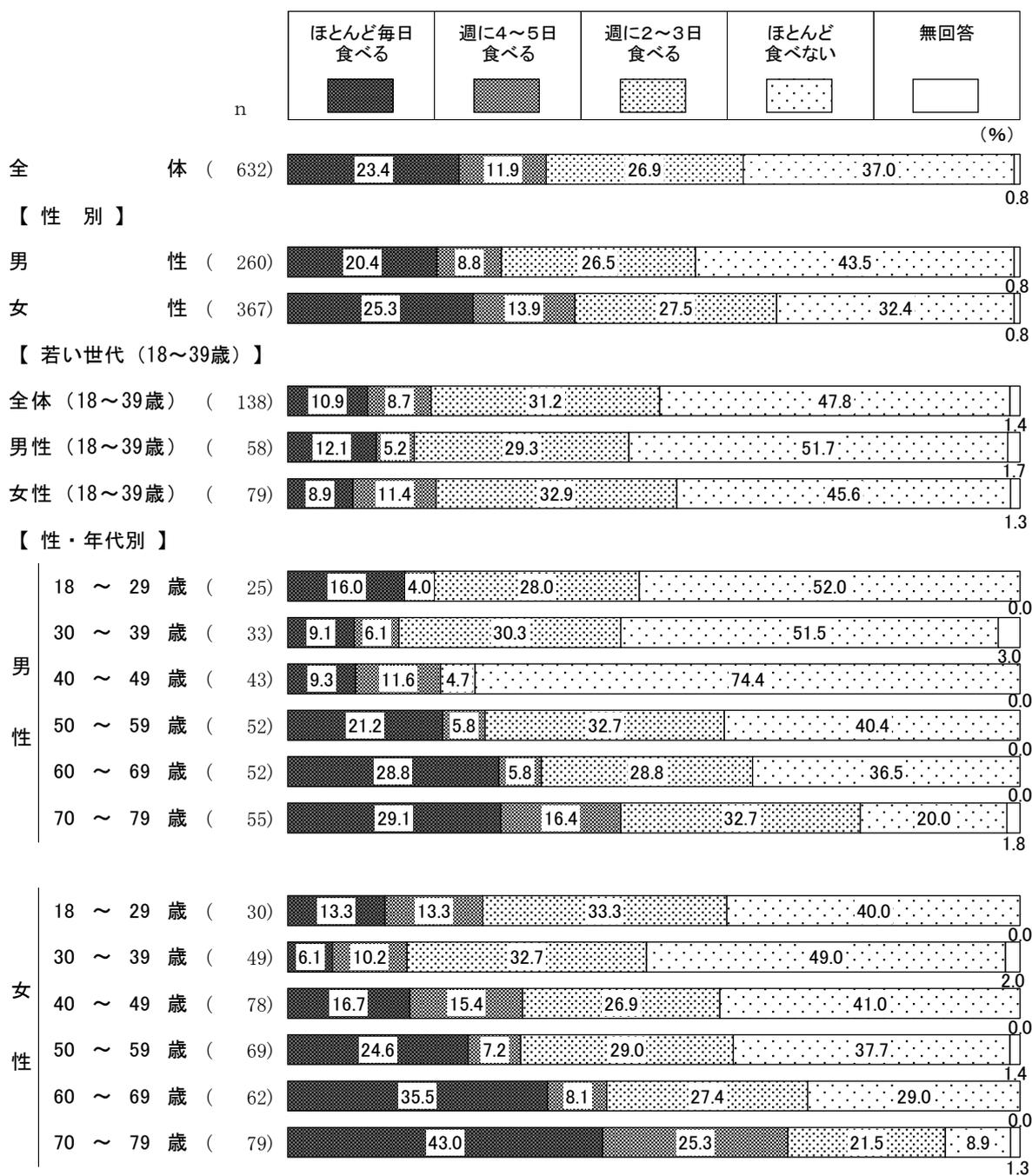
図2-11-1 果物の摂取頻度



果物の摂取頻度をたずねたところ、「ほとんど毎日食べる」(23.4%)が2割を超え、「週に4~5日食べる」(11.9%)が1割を超え、「週に2~3日食べる」(26.9%)が2割半ばとなっている。一方、「ほとんど食べない」(37.0%)が4割近くとなっている。

(図2-11-1)

図 2-11-2 果物の摂取頻度—性別／性・年代別



性別にみると、「ほとんど毎日食べる」は女性は男性より4.9ポイント、「週に4～5日食べる」は5.1ポイント高くなっている。一方、「ほとんど食べない」は男性は女性より11.1ポイント高くなっている。

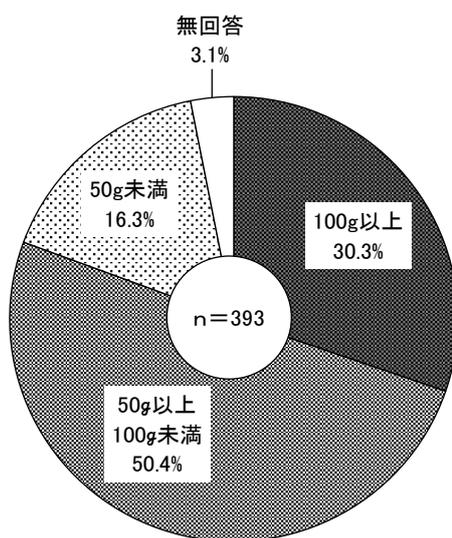
性・年代別にみると、「ほとんど毎日食べる」は女性70～79歳で4割を超えて多くなっている。一方、「ほとんど食べない」は男性40～49歳で7割半ばと多くなっている。(図2-11-2)

### (11-1) 1日に食べる果物の量

【 問11で「1. ほとんど毎日食べる」～「3. 週に2～3日食べる」と答えた方に 】  
問11-1 あなたは、1日にどのくらいの量の果物を食べていますか。(○は1つだけ)

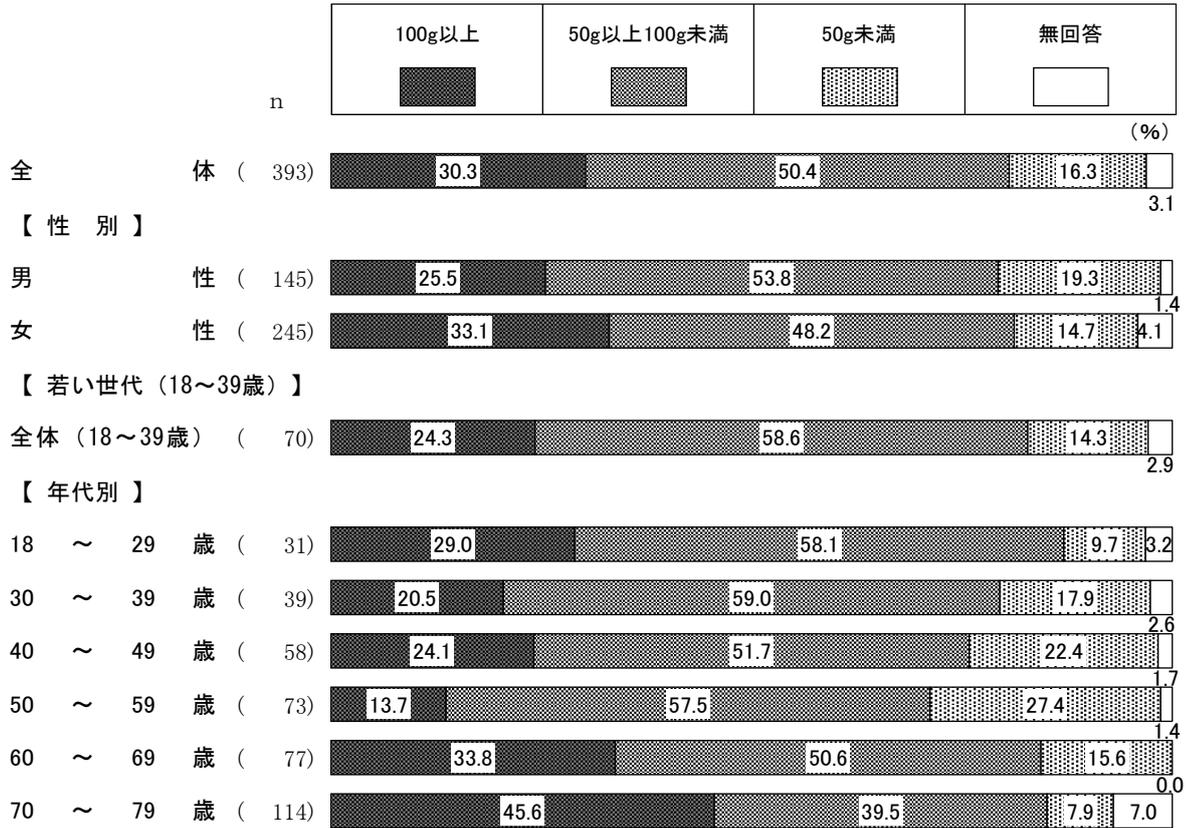
※国の「第4次食育推進基本計画」では、1日あたりの果物摂取量が100g未満の者の割合の減少を目標としています。

図2-11-3 1日に食べる果物の量



果物をほとんど毎日食べる、週に4～5日食べる、週に2～3日食べると答えた方(393人)に、1日に食べる果物の量をたずねたところ、「50g以上100g未満」(50.4%)が約5割と最も多く、次いで「100g以上」(30.3%)が約3割、「50g未満」(16.3%)が1割半ばとなっている。(図2-11-3)

図2-11-4 1日に食べる果物の量－性別／年代別



性別にみると、「100g以上」は女性は男性より7.6ポイント高くなっている。

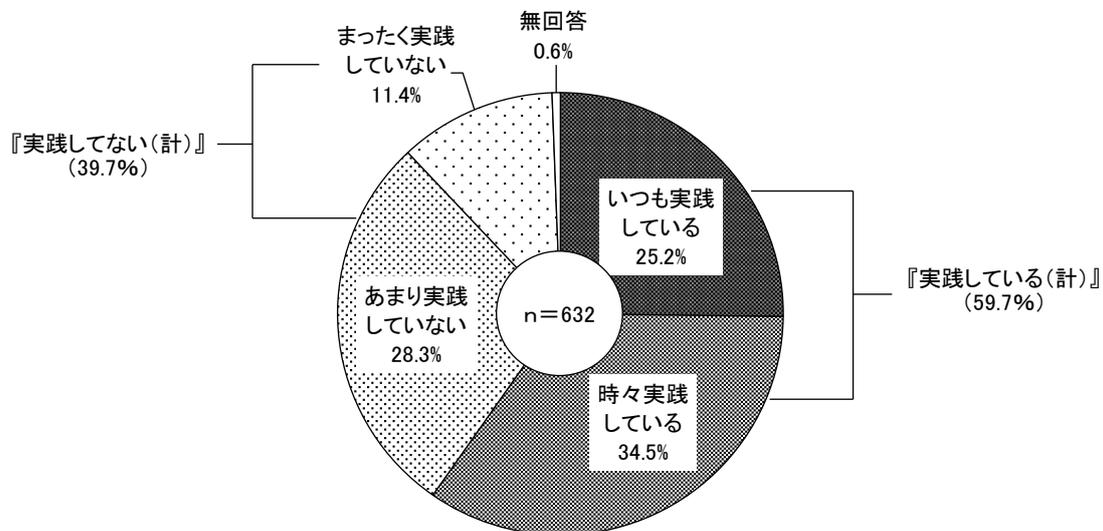
年代別にみると、「100g以上」は70~79歳で4割半ばと多くなっている。「50g以上100g未満」は30~39歳で約6割と多くなっている。一方、「50g未満」は50~59歳で3割近くと多くなっている。

(図2-11-4)

(12) 減塩に気がつけた食生活の実践状況

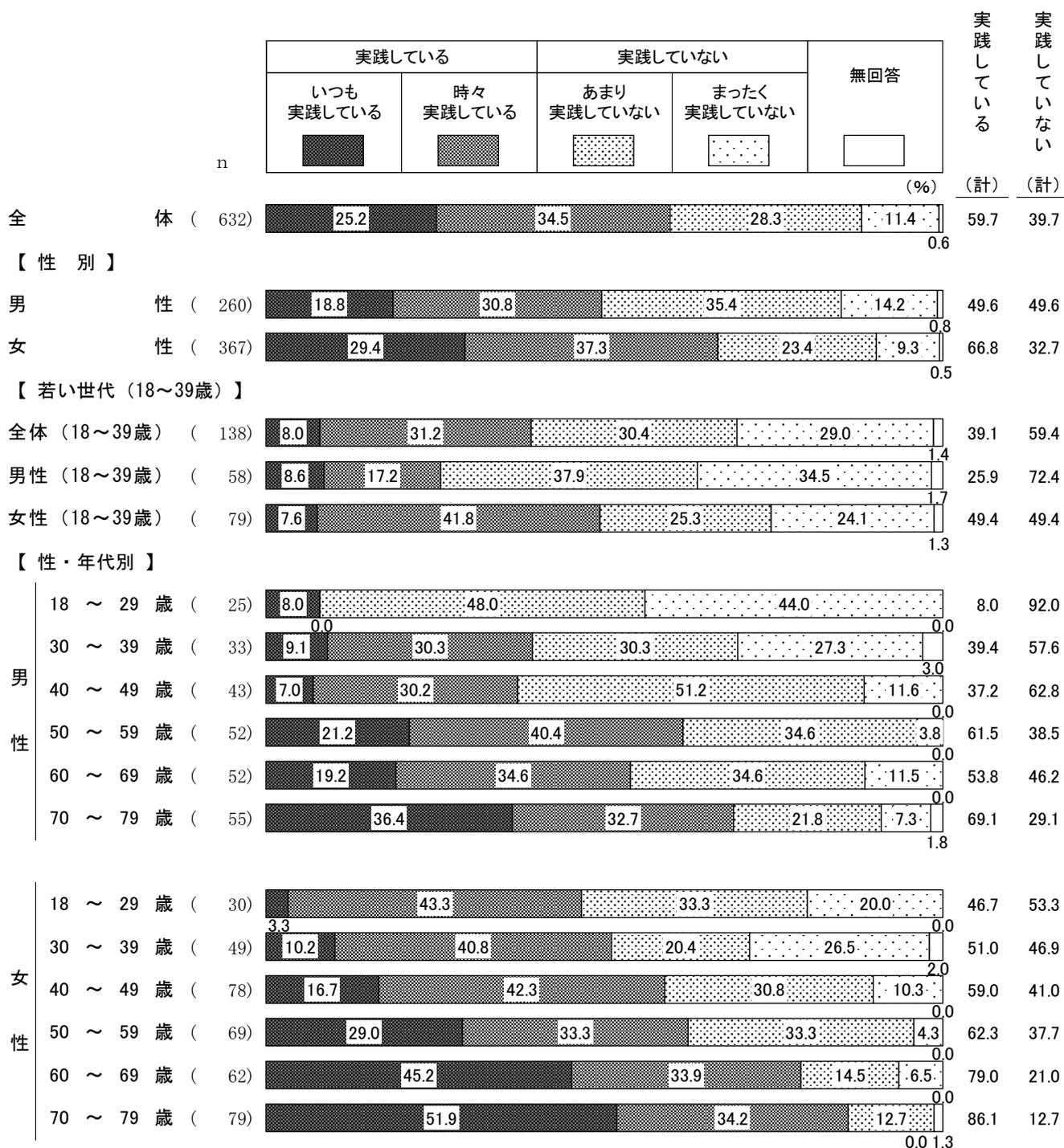
問12 あなたは、ふだんから減塩に気がつけた食生活を実践していますか。  
(○は1つだけ)

図2-12-1 減塩に気がつけた食生活の実践状況



減塩に気がつけた食生活の実践状況をたずねたところ、「いつも実践している」(25.2%)と「時々実践している」(34.5%)を合わせた『実践している(計)』(59.7%)が約6割となっている。一方、「あまり実践していない」(28.3%)と「まったく実践していない」(11.4%)を合わせた『実践していない(計)』(39.7%)は約4割となっている。(図2-12-1)

図2-12-2 減塩に気がつけた食生活の実践状況—性別／性・年代別



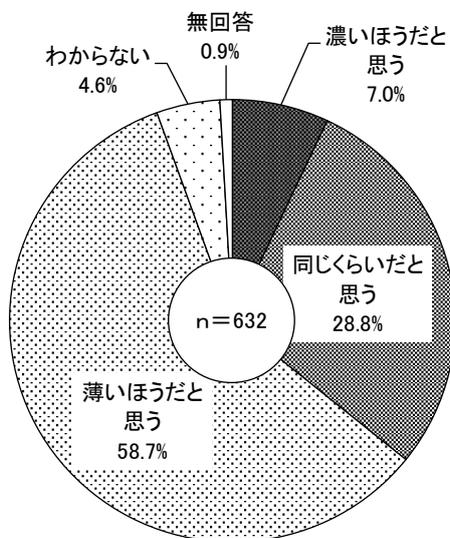
性別にみると、『実践している (計)』は女性は男性より17.2ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『実践している (計)』は女性70~79歳で8割半ば、女性60~69歳で約8割と多くなっている。一方、男性18~29歳で1割未満と少なくなっている。(図2-12-2)

(13) 外食等と比べた家庭の料理の味付けの程度

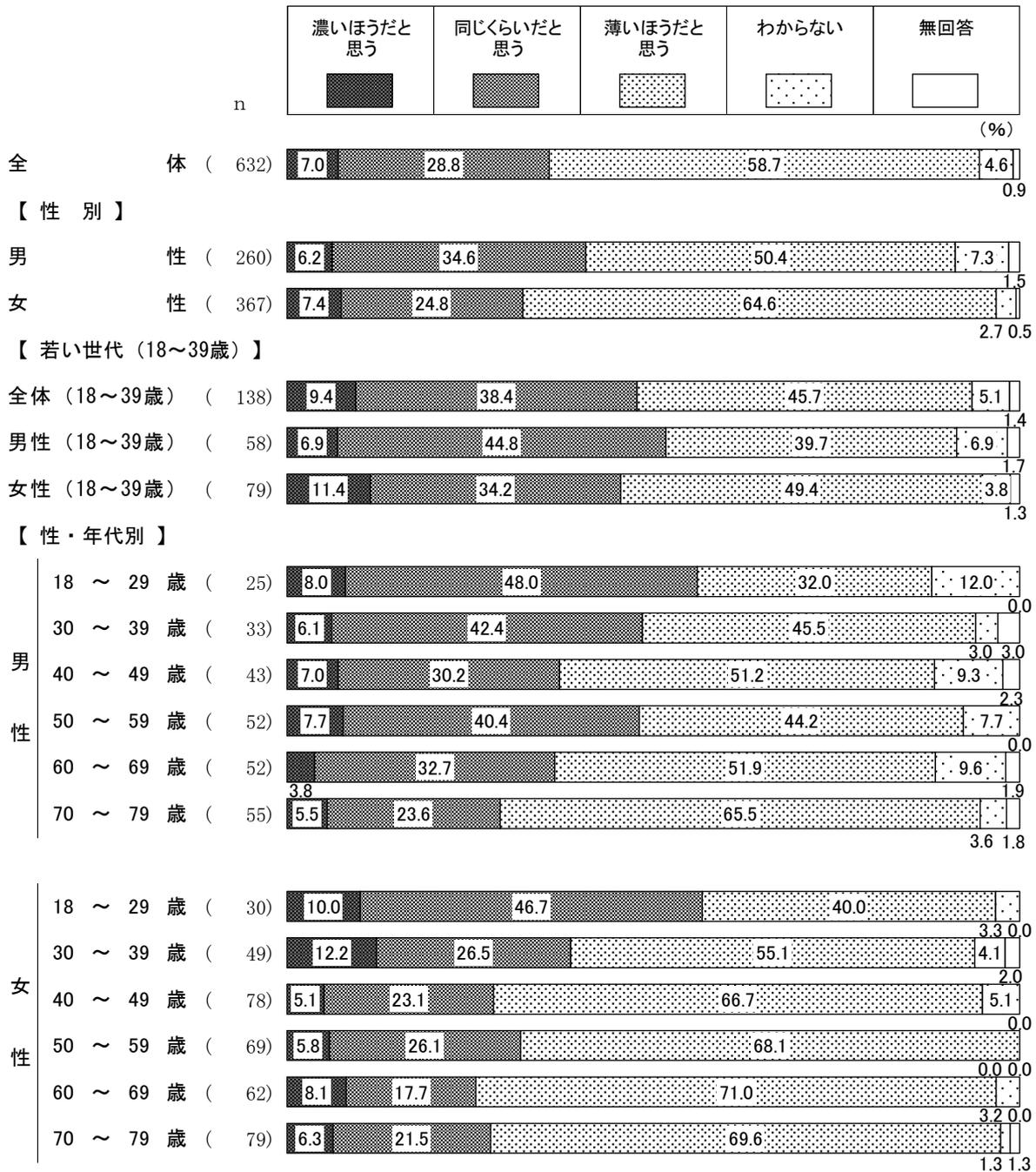
問13 あなたの家庭の料理の味付けは、外食等と比べていかがですか。（○は1つだけ）

図2-13-1 外食等と比べた家庭の料理の味付けの程度



外食等と比べた家庭の料理の味付けの程度をたずねたところ、「薄いほうだと思う」(58.7%)が6割近くと最も多く、次いで「同じくらいだと思う」(28.8%)が3割近くとなっている。一方、「濃いほうだと思う」(7.0%)は1割未満となっている。(図2-13-1)

図 2-13-2 外食等と比べた家庭の料理の味付けの程度－性別／性・年代別



性別にみると、「薄いほうだと思ふ」は女性は男性より14.2ポイント高くなっている。

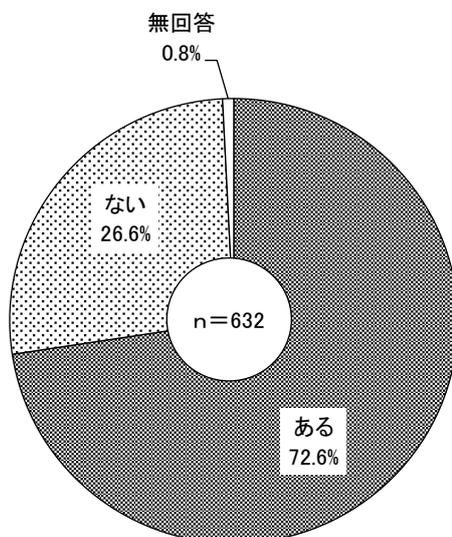
性・年代別にみると、「薄いほうだと思ふ」は女性50~59歳、女性60~69歳、女性70~79歳で7割前後と多くなっている。「同じくらいだと思ふ」は男性18~29歳で5割近く、女性18~29歳で4割半ばと多くなっている。(図 2-13-2)

### 3 地産地消について

#### (1) 日野産の農産物（野菜・果物）の購入経験

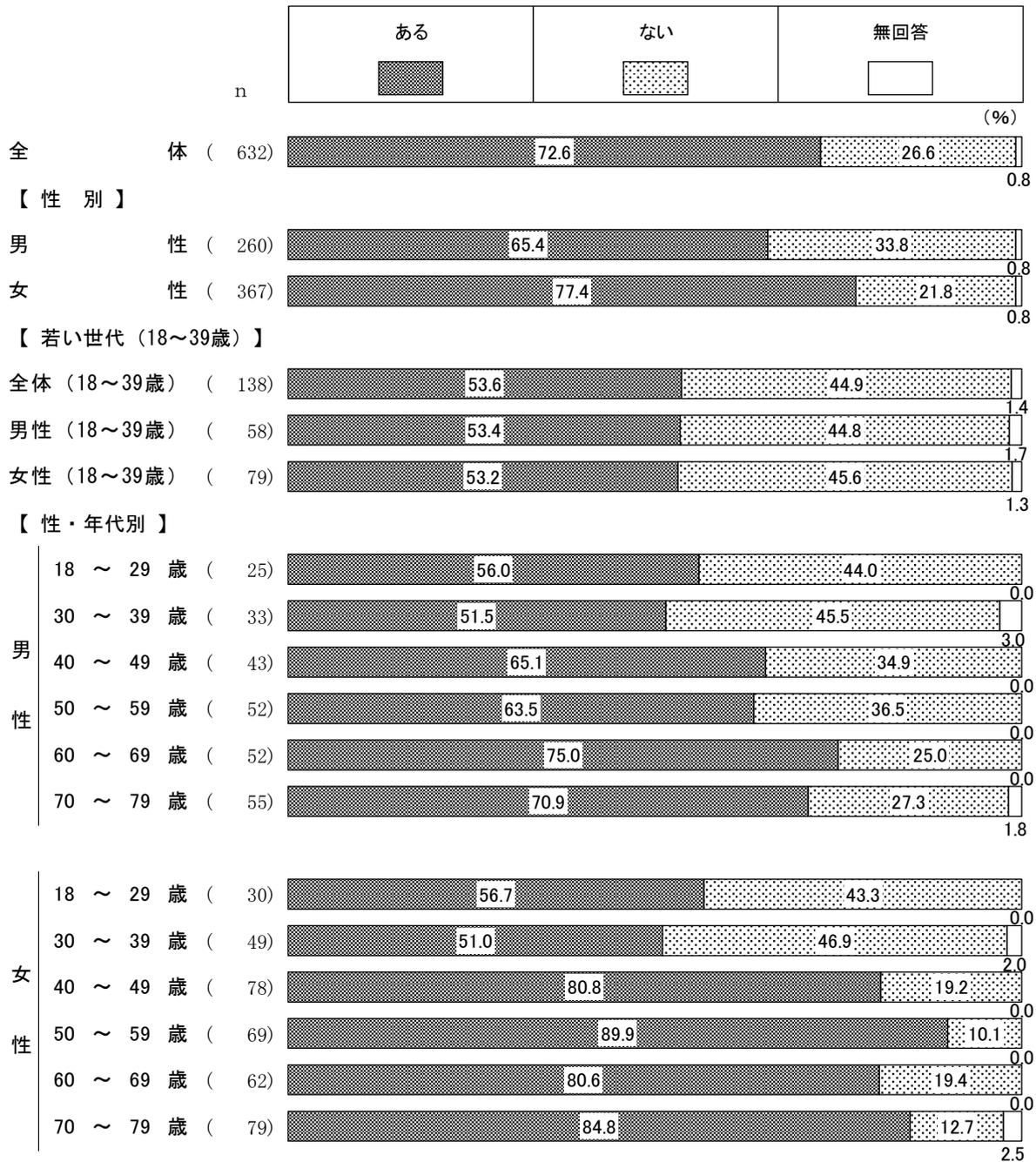
問14 日野産の農産物（野菜・果物）を購入したことがありますか。（○は1つだけ）

図3-1-1 日野産の農産物（野菜・果物）の購入経験



日野産の農産物（野菜・果物）の購入経験をたずねたところ、「ある」（72.6%）が7割を超え、「ない」（26.6%）が2割半ばとなっている。（図3-1-1）

図3-1-2 日野産の農産物（野菜・果物）の購入経験—性別／性・年代別



性別にみると、「ある」は女性は男性より12.0ポイント高くなっている。

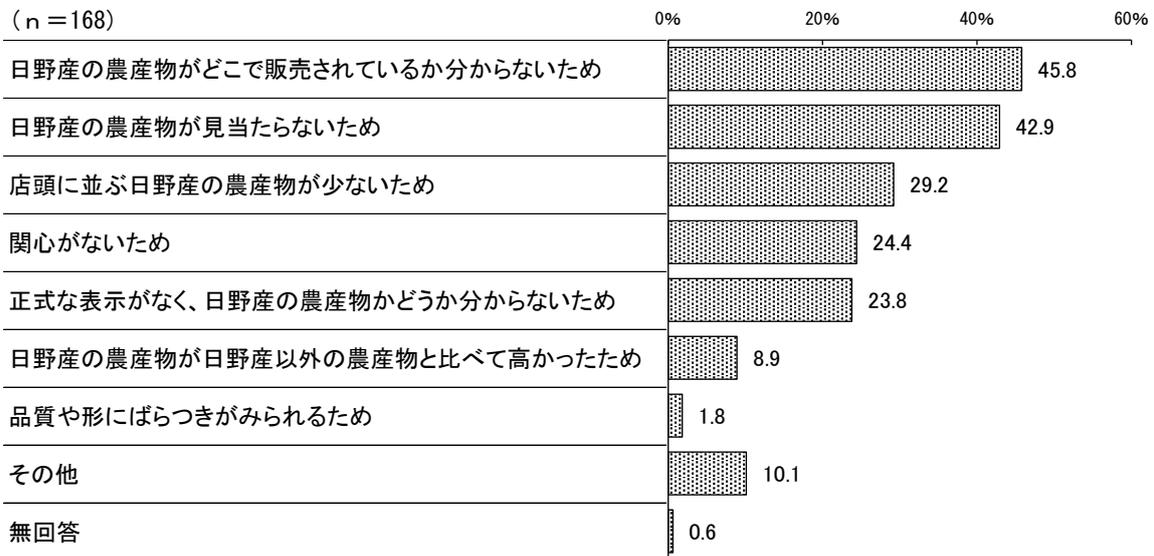
性・年代別にみると、「ある」は女性50～59歳で約9割、女性70～79歳で8割半ばと多くなっている。一方、男性30～39歳、女性30～39歳で5割台前半と少なくなっている。（図3-1-2）

(1-1) 日野産の農産物（野菜・果物）を購入したことがない理由

【問14で「2. ない」と答えた方に】

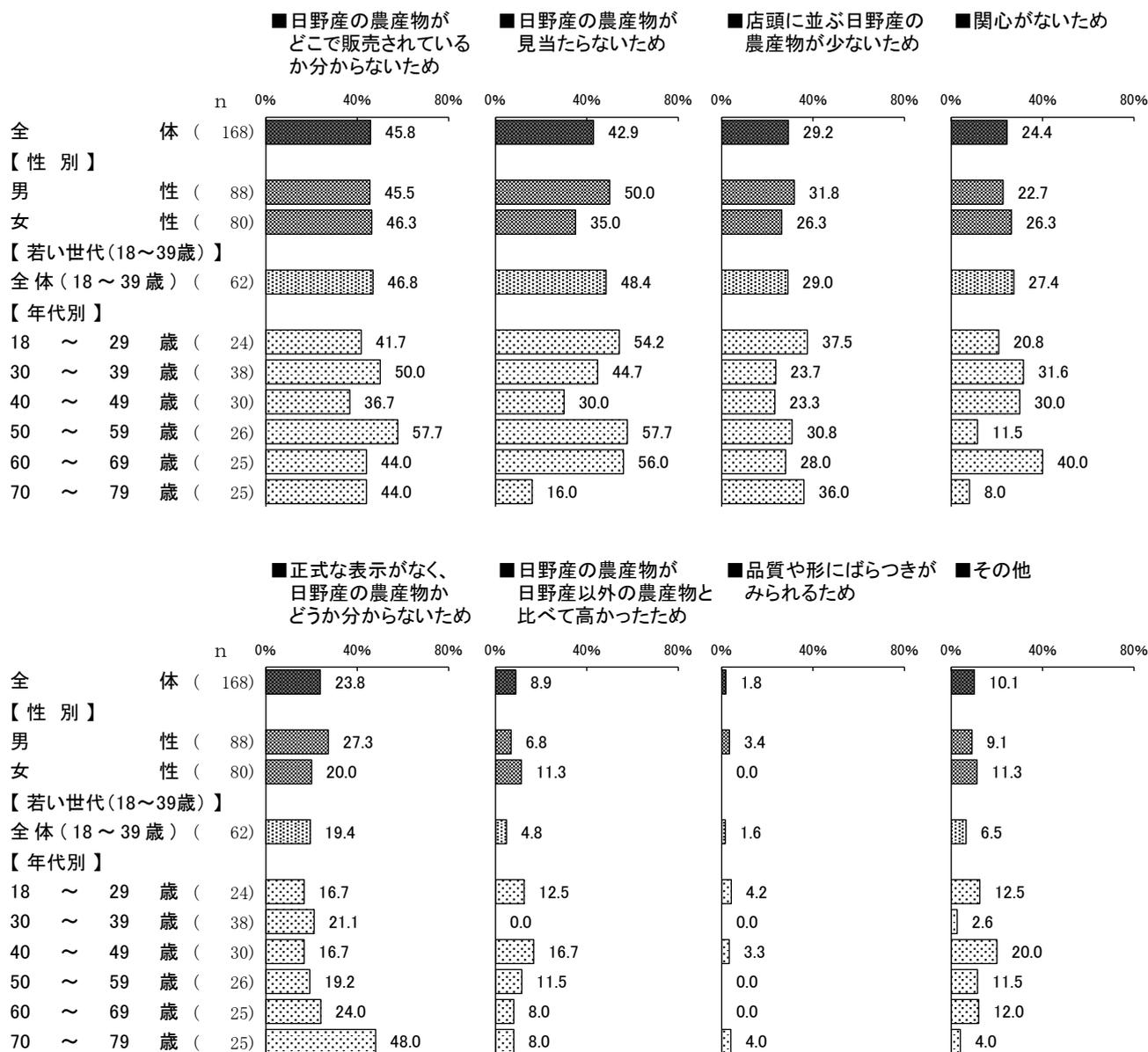
問14-1 日野産の農産物（野菜・果物）を購入したことがない理由は何ですか。  
（〇はいくつでも）

図3-1-3 日野産の農産物（野菜・果物）を購入したことがない理由



日野産の農産物（野菜・果物）を購入したことがないと答えた方（168人）に購入したことがない理由をたずねたところ、「日野産の農産物がどこで販売されているか分からないため」（45.8%）が4割半ばと最も多く、次いで「日野産の農産物が見当たらないため」（42.9%）、「店頭に並ぶ日野産の農産物が少ないため」（29.2%）、「関心がないため」（24.4%）などの順となっている。（図3-1-3）

図3-1-4 日野産の農産物（野菜・果物）を購入したことがない理由—性別／年代別



性別にみると、男性は女性より「日野産の農産物が見当たらないため」で15.0ポイント、「正式な表示がなく、日野産の農産物かどうか分からないため」で7.3ポイント、「店頭に並ぶ日野産の農産物が少ないため」で5.5ポイント、それぞれ高くなっている。一方、女性は男性より「日野産の農産物が日野産以外の農産物と比べて高かったため」で4.5ポイント高くなっている。

年代別はn数が少ないため、参考として図示する。(図3-1-4)

## 4 農業体験について

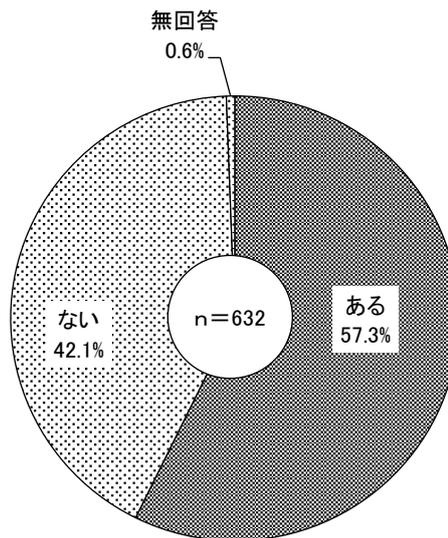
### (1) 農業体験の経験

問15 あなたは、農業体験を行ったことがありますか。(○は1つだけ)

※農業体験とは、田植えや稲刈り、野菜の植付け・収穫、果樹の栽培(摘果や剪定)や収穫、乳搾りや家畜の餌やりなどの酪農体験、花やハーブの栽培等々、農家の方の仕事を体験するものです。

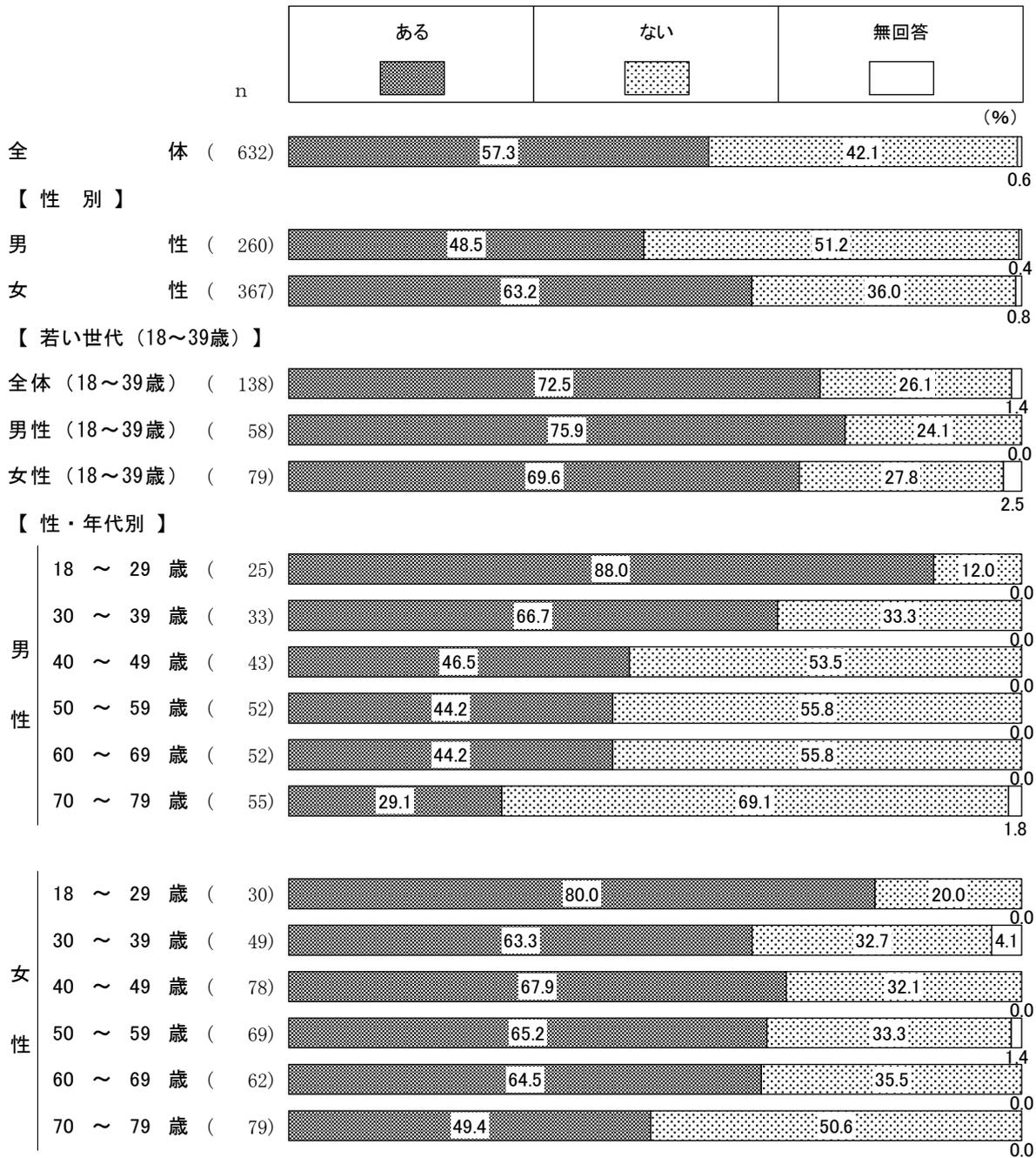
※家庭菜園(プランターを含む)等の身近な栽培のほか、フルーツ狩り等も含まれます。

図4-1-1 農業体験の経験



農業体験の経験をたずねたところ、「ある」(57.3%)が6割近く、「ない」(42.1%)が4割台前半となっている。(図4-1-1)

図4-1-2 農業体験の経験—性別／性・年代別



性別にみると、「ある」は女性は男性より14.7ポイント高くなっている。

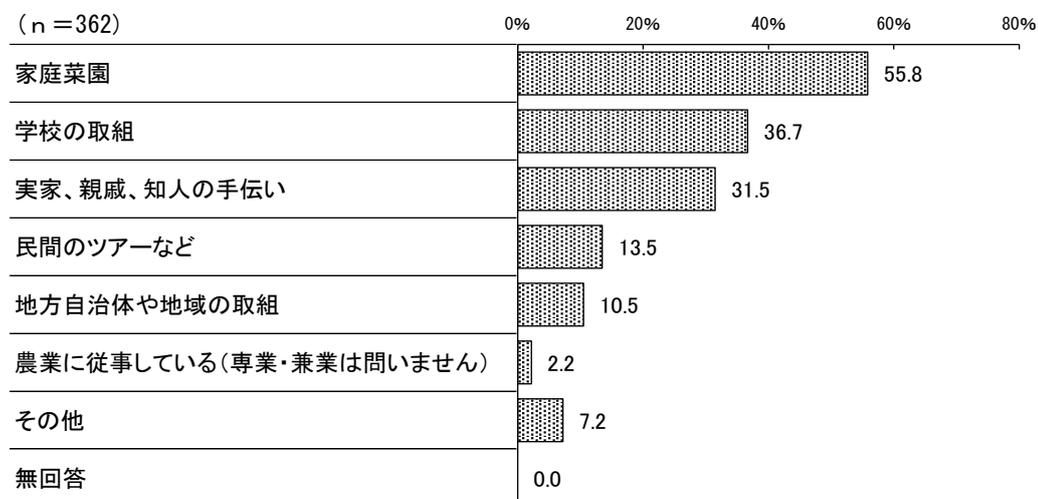
性・年代別にみると、「ある」は男女ともにおおむね年代が低いほど多く、男性18~29歳で9割近く、女性18~29歳で8割と多くなっている。一方、「ない」は男性70~79歳で約7割と多くなっている。(図4-1-2)

### (1-1) 行った農業体験の取り組み内容

【問15で「1. ある」と答えた方に】

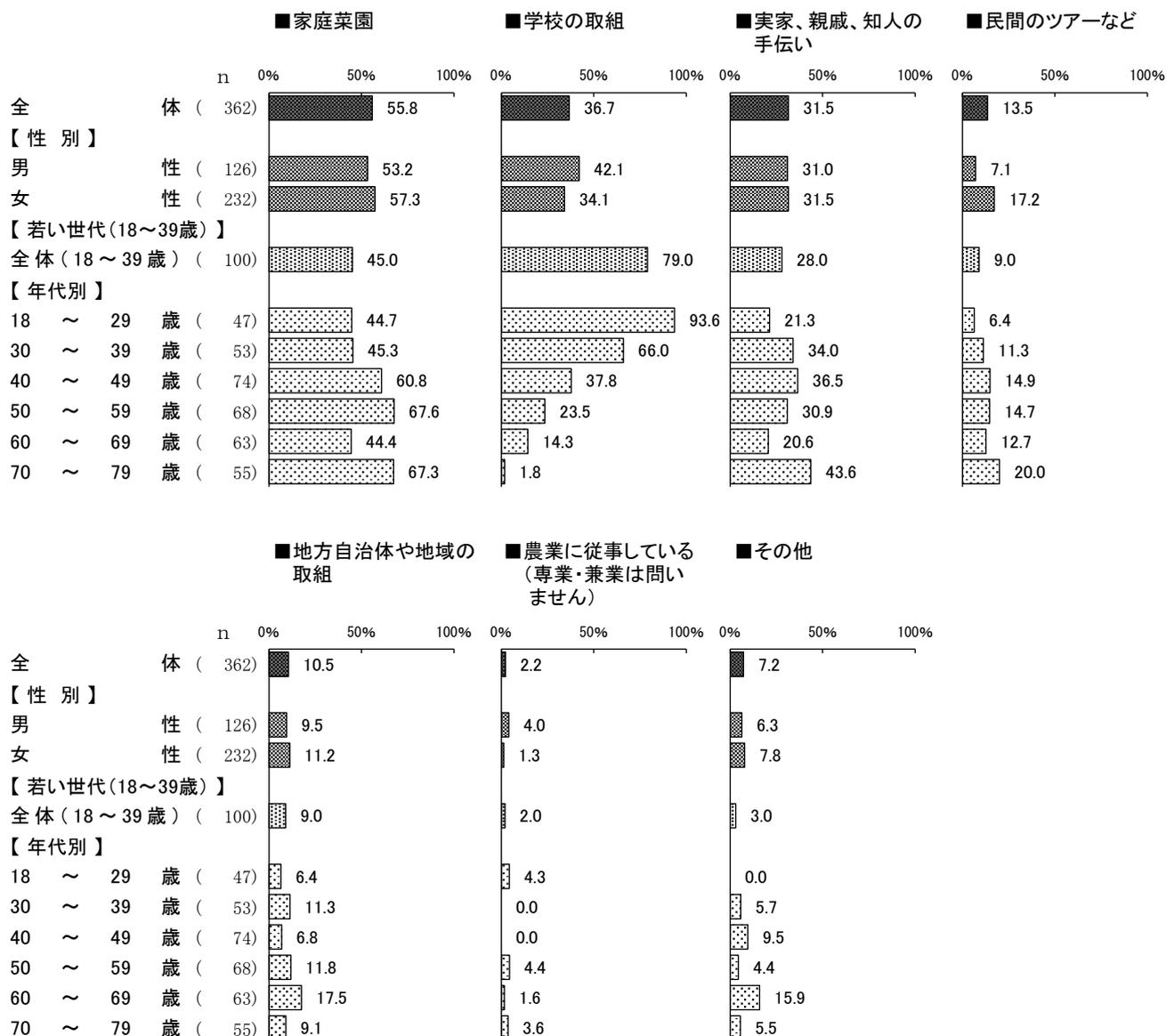
問15-1 あなたが行った農業体験は、どのような取り組みでしたか。(〇はいくつでも)

図4-1-3 行った農業体験の取り組み内容



農業体験を行ったことがあると答えた方(362人)に行った農業体験の取り組み内容をたずねたところ、「家庭菜園」(55.8%)が5割半ばと最も多く、次いで「学校の取組」(36.7%)、「実家、親戚、知人の手伝い」(31.5%)、「民間のツアーなど」(13.5%)などの順となっている。(図4-1-3)

図4-1-4 行った農業体験の取り組み内容—性別／年代別



性別にみると、女性は男性より「民間のツアーなど」で10.1ポイント、「家庭菜園」で4.1ポイント、それぞれ高くなっている。一方、男性は女性より「学校の取組」で8.0ポイント高くなっている。

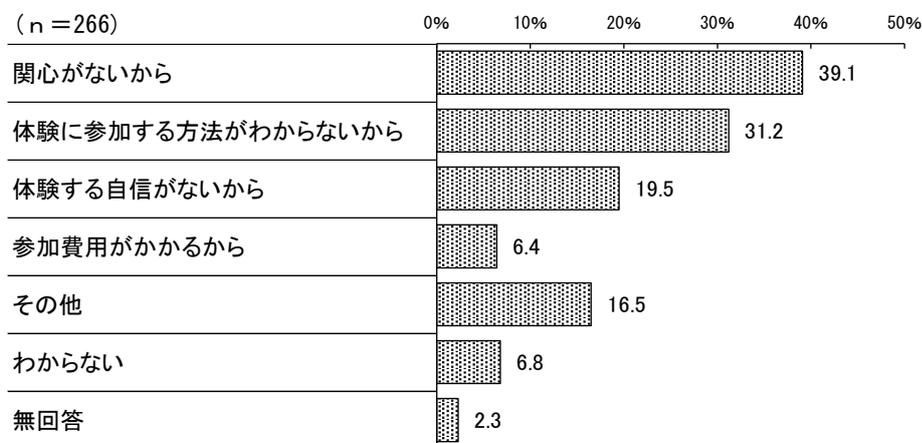
年代別にみると、「家庭菜園」は50~59歳、70~79歳で7割近くと多くなっている。「学校の取組」は年代が低いほど多く、18~29歳で9割を超えている。(図4-1-4)

## (1-2) 農業体験を行ったことがない理由

【問15で「2. ない」と答えた方に】

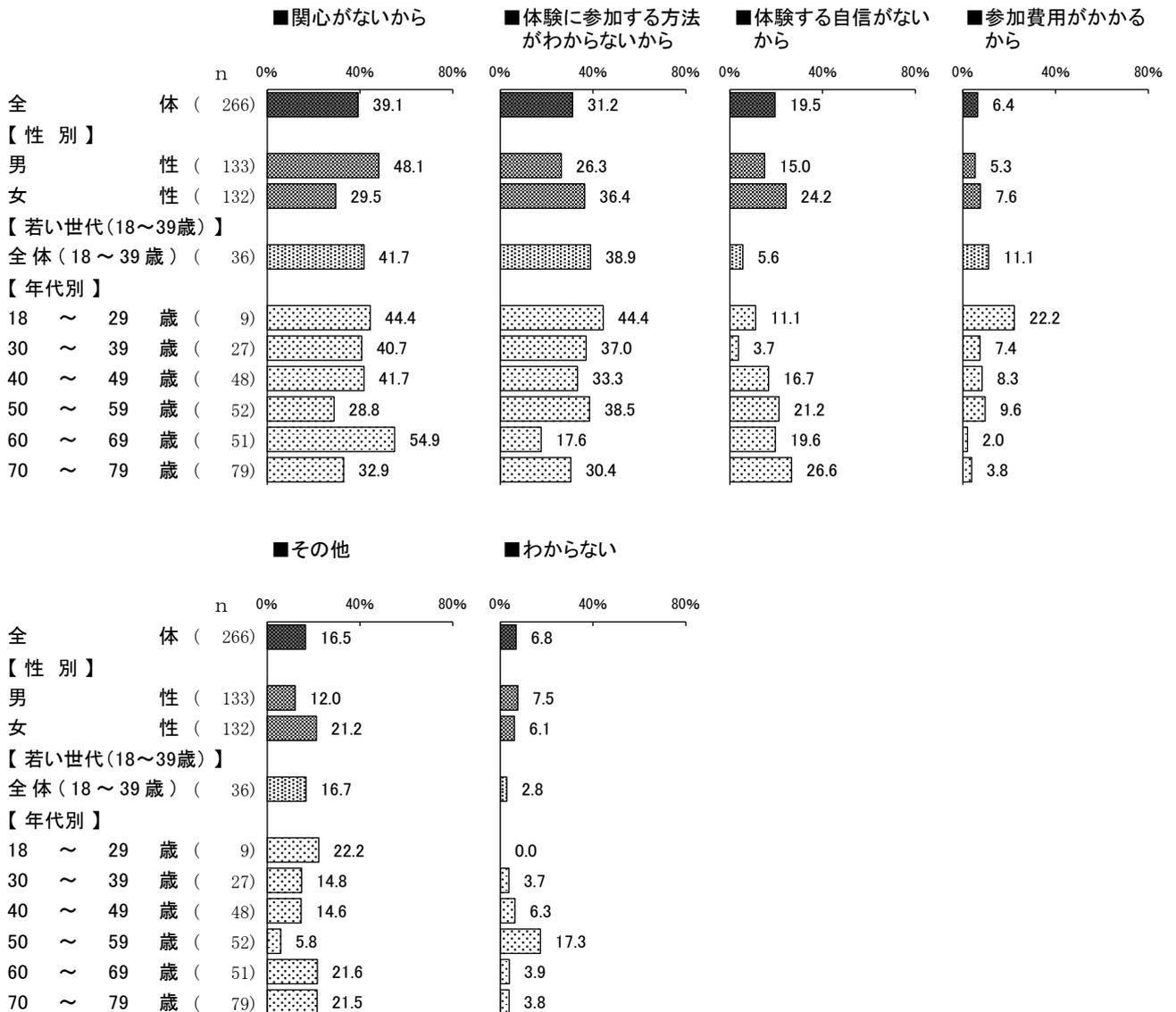
問15-2 農業体験を行ったことがない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図4-1-5 農業体験を行ったことがない理由



農業体験を行ったことがないと答えた方(266人)に農業体験を行ったことがない理由をたずねたところ、「関心がないから」(39.1%)が約4割と最も多く、次いで「体験に参加する方法がわからないから」(31.2%)、「体験する自信がないから」(19.5%)などの順となっている。(図4-1-5)

図4-1-6 農業体験を行ったことがない理由—性別／年代別



性別にみると、男性は女性より「関心がないから」で18.6ポイント高くなっている。一方、女性は男性より「体験に参加する方法がわからないから」で10.1ポイント、「体験する自信がないから」で9.2ポイント、それぞれ高くなっている。

年代別にみると、「関心がないから」は60~69歳で5割半ばと多くなっている。

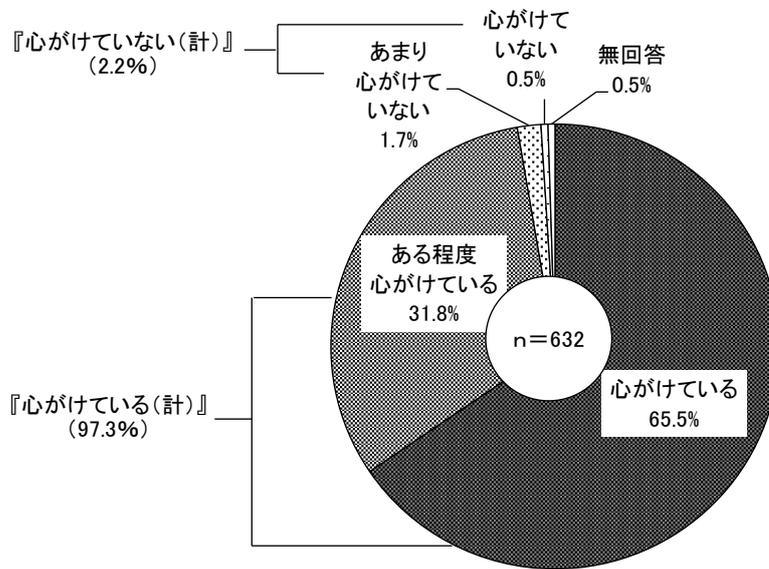
(図4-1-6)

## 5 環境への配慮について

### (1) 食材の廃棄や食べ残しを少なくする心がけの程度

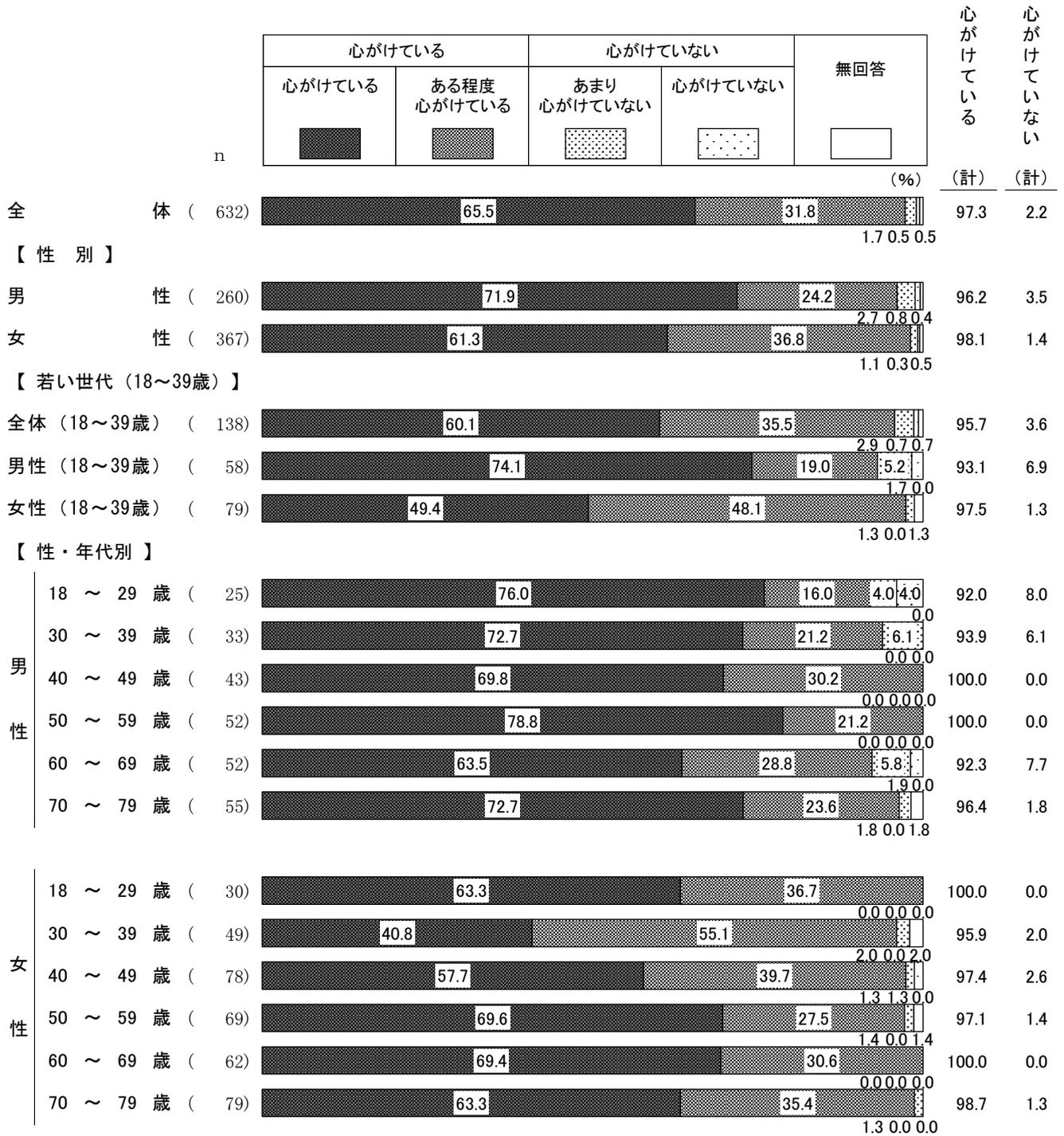
問16 あなたは食材の廃棄や食べ残しを少なくするように心がけていますか。  
(○は1つだけ)

図5-1-1 食材の廃棄や食べ残しを少なくする心がけの程度



食材の廃棄や食べ残しを少なくする心がけの程度をたずねたところ、「心がけている」(65.5%)と「ある程度心がけている」(31.8%)を合わせた『心がけている(計)』(97.3%)が10割近くとなっている。(図5-1-1)

図5-1-2 食材の廃棄や食べ残しを少なくする心がけの程度—性別／性・年代別



性別にみると、「心がけている」は男性は女性より10.6ポイント高くなっている。「ある程度心がけている」は女性は男性より12.6ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「心がけている」は男性50~59歳で8割近くと多くなっている。

(図5-1-2)

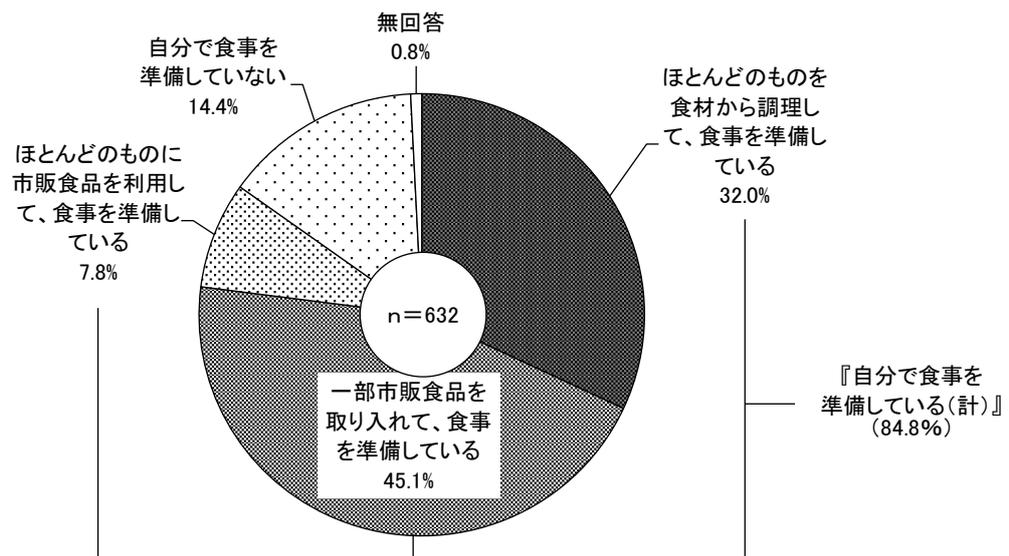
## 6 食事・食料の準備について

### (1) 食事の準備状況

問17 あなたは、ふだんの食事を自分で準備していますか。(○は1つだけ)

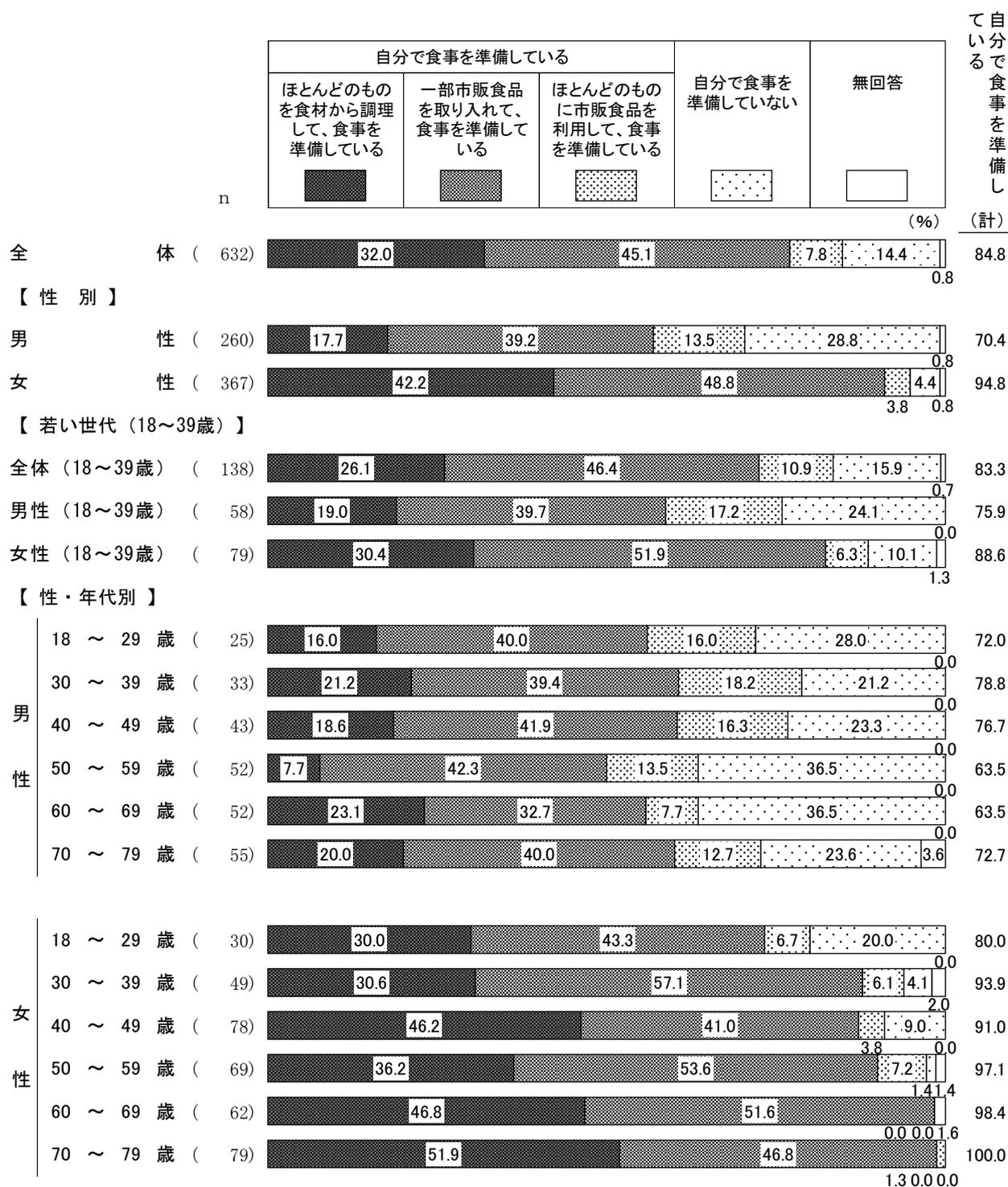
※「食事を準備する」とは、調理だけでなく、温めたり、お皿に盛り付けたりすることを含みます。弁当を買ってくるだけというのは含みません。  
※「市販食品」とは、総菜、冷凍食品、レトルト食品等、そのままもしくは温めるだけでよいものことです。

図6-1-1 食事の準備状況



食事の準備状況をたずねたところ、「ほとんどのものを食材から調理して、食事を準備している」(32.0%)、「一部市販食品を取り入れて、食事を準備している」(45.1%)、「ほとんどのものに市販食品を利用して、食事を準備している」(7.8%)を合わせた『自分で食事を準備している(計)』(84.8%)が8割半ばとなっている。一方、「自分で食事を準備していない」(14.4%)は1割半ばとなっている。(図6-1-1)

図6-1-2 食事の準備状況—性別／性・年代別



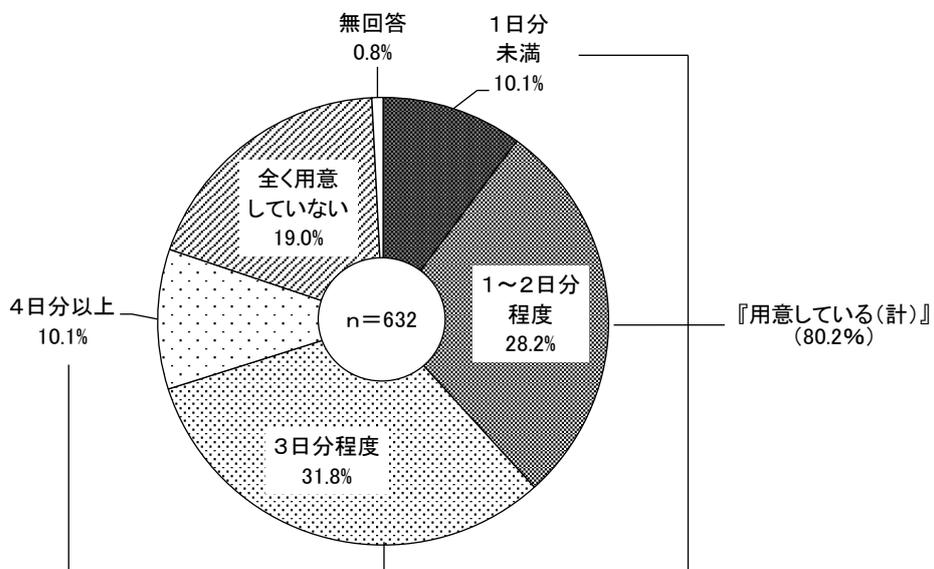
性別にみると、「ほとんどのものを食材から調理して、食事を準備している」は女性は男性より24.5ポイント、「一部市販食品を取り入れて、食事を準備している」は9.6ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「自分で食事を準備していない」は男性は女性より24.4ポイント、「ほとんどのものに市販食品を利用して、食事を準備している」は9.7ポイント、それぞれ高くなっている。『自分で食事を準備している(計)』は女性は男性より24.4ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「ほとんどのものを食材から調理して、食事を準備している」は女性70~79歳で5割を超えて多くなっている。一方、「自分で食事を準備していない」は男性50~59歳、男性60~69歳で3割半ばと多くなっている。(図6-1-2)

## (2) 世帯人数分の非常食の用意状況

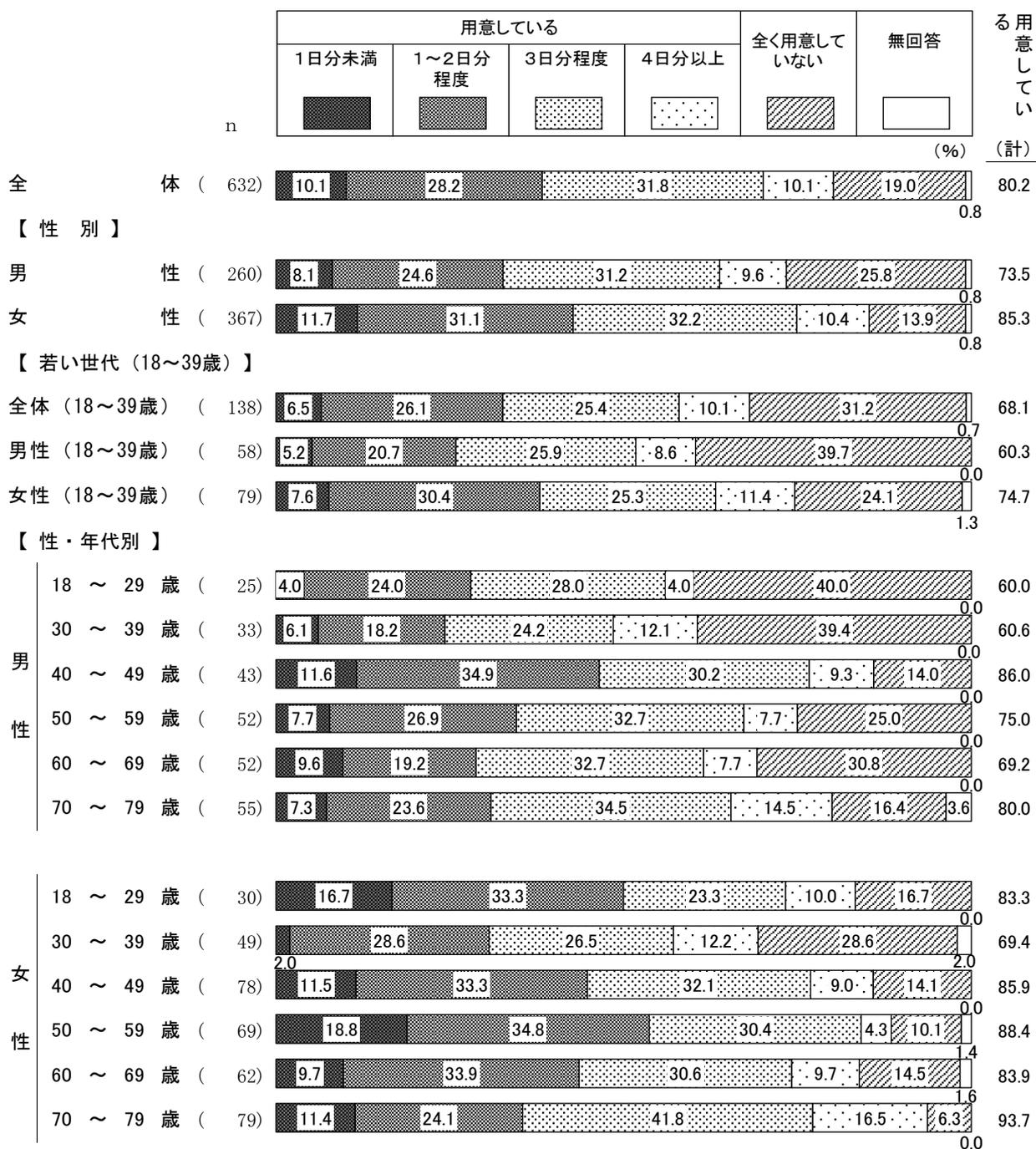
問18 非常食は、世帯人数分として何日分を想定して用意していますか。(○は1つだけ)

図6-2-1 世帯人数分の非常食の用意状況



世帯人数分の非常食の用意状況をたずねたところ、「3日分程度」(31.8%)が3割を超えて最も多く、次いで「1～2日分程度」(28.2%)が3割近く、「1日分未満」、「4日分以上」(ともに10.1%)が約1割となっている。一方、「全く用意していない」(19.0%)が約2割となっている。(図6-2-1)

図6-2-2 世帯人数分の非常食の用意状況—性別／性・年代別



性別にみると、「1～2日分程度」は女性は男性より6.5ポイント、「1日分未満」は3.6ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「全く用意していない」は男性は女性より11.9ポイント高くなっている。

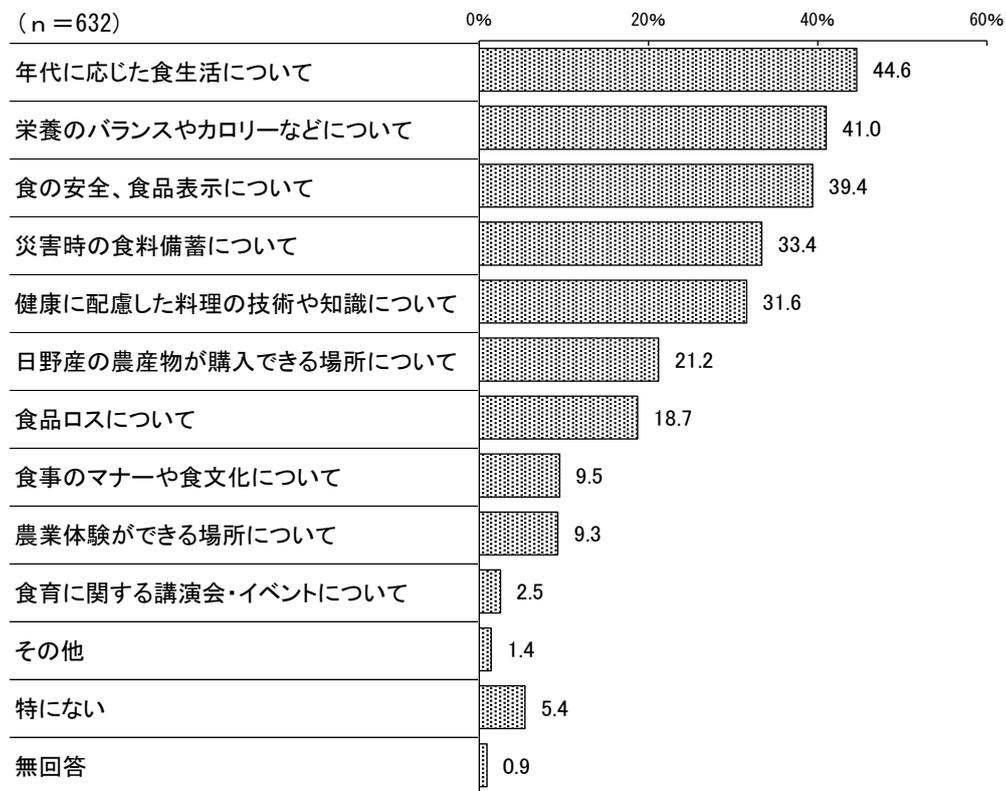
性・年代別にみると、「1～2日分程度」は男性40～49歳、女性50～59歳で3割半ば、「3日分程度」は女性70～79歳で4割を超えて多くなっている。一方、「全く用意していない」は男性18～29歳で4割、男性30～39歳で約4割と多くなっている。(図6-2-2)

## 7 食育施策への要望について

### (1) 食育についてほしい情報

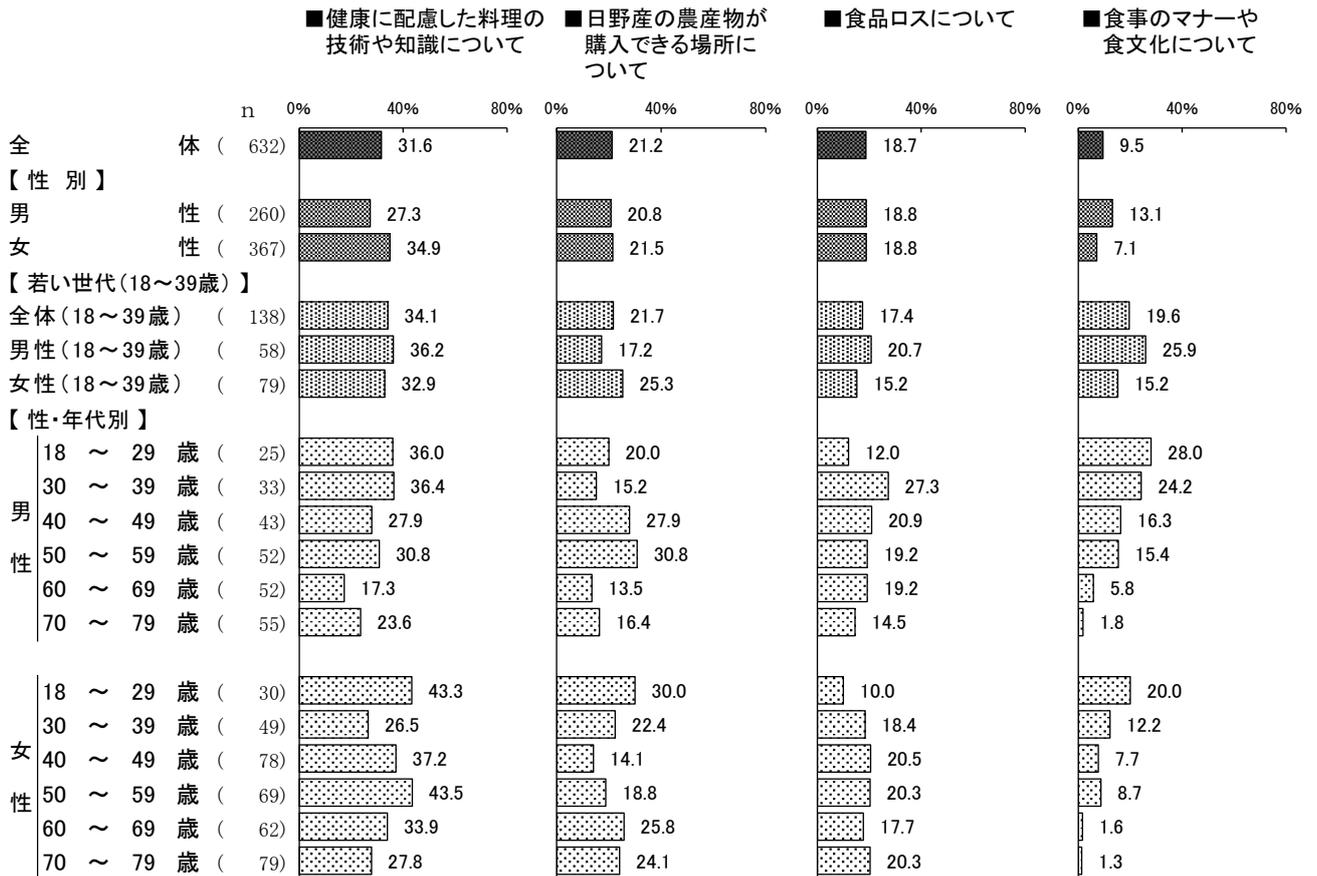
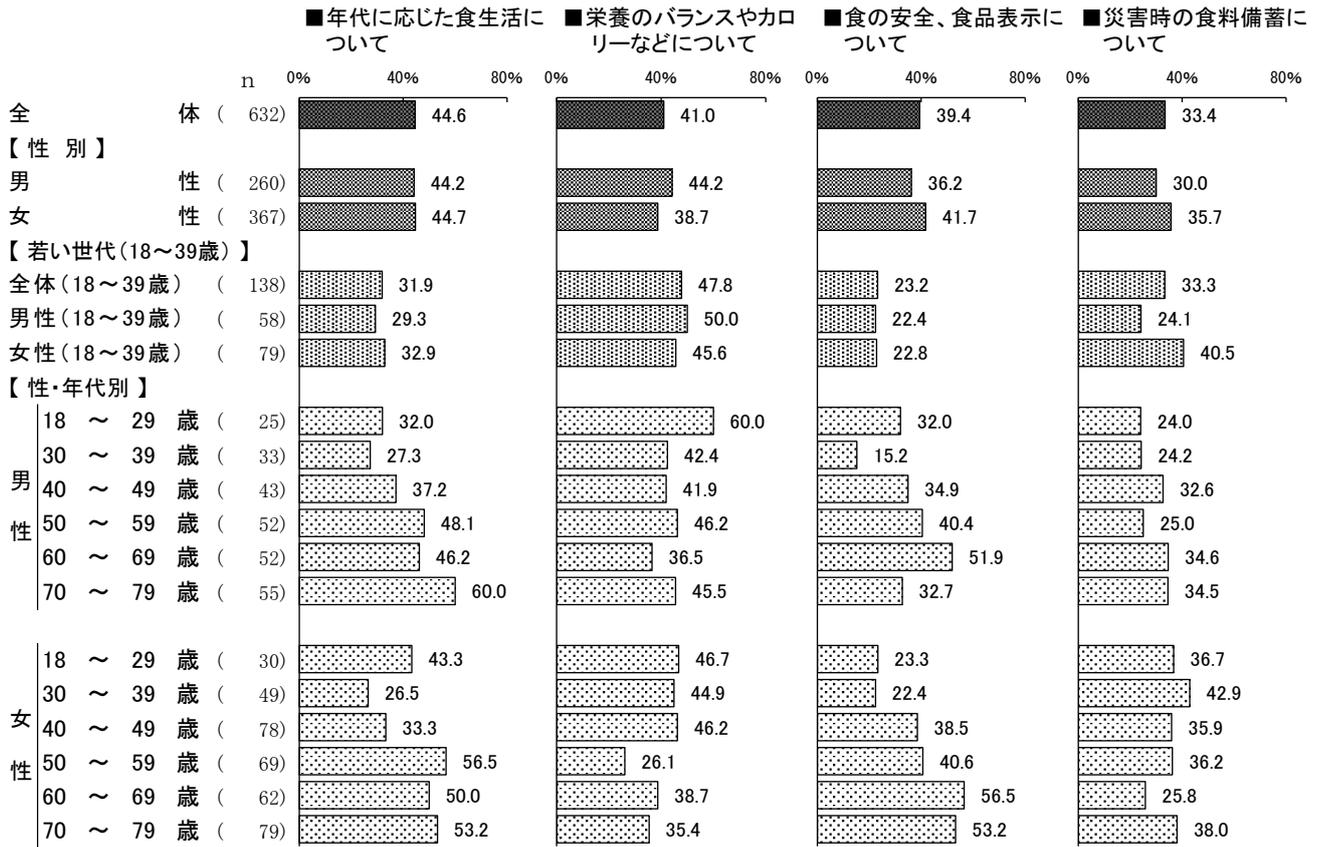
問19 あなたは、食育についてどのような情報がほしいですか。  
次の中からあてはまるものを**最大3つまで**選んで、右の欄に番号をご記入ください。

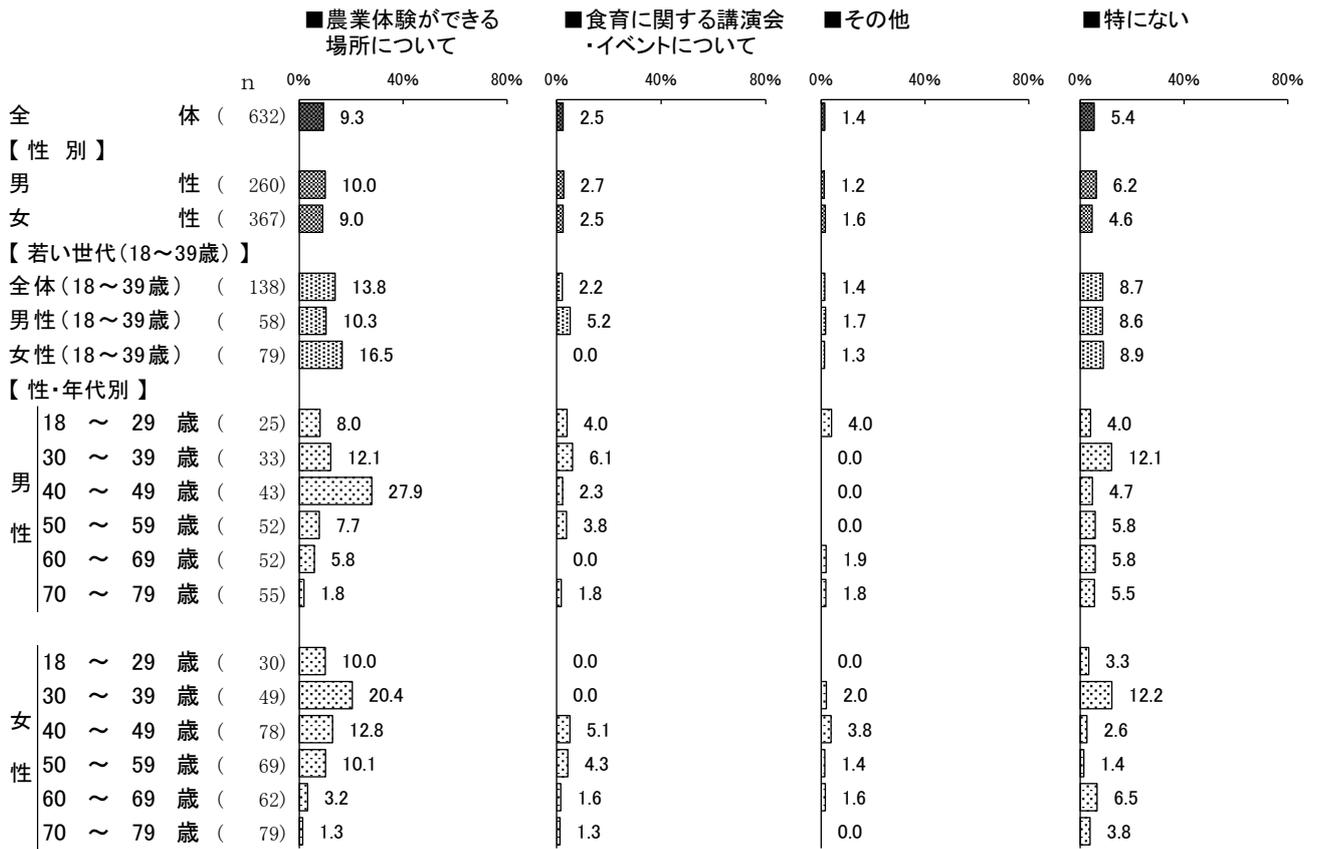
図7-1-1 食育についてほしい情報



食育についてほしい情報をたずねたところ、「年代に応じた食生活について」(44.6%)が4割半ばと最も多く、次いで「栄養のバランスやカロリーなどについて」(41.0%)、「食の安全、食品表示について」(39.4%)、「災害時の食料備蓄について」(33.4%)などの順となっている。(図7-1-1)

図7-1-2 食育についてほしい情報－性別／性・年代別





性別にみると、女性は男性より「健康に配慮した料理の技術や知識について」で7.6ポイント、「災害時の食料備蓄について」で5.7ポイント、「食の安全、食品表示について」で5.5ポイント、それぞれ高くなっている。一方、男性は女性より「食事のマナーや食文化について」で6.0ポイント、「栄養のバランスやカロリーなどについて」で5.5ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「年代に応じた食生活について」は男性70~79歳で6割、「栄養のバランスやカロリーなどについて」は男性18~29歳で6割と多くなっている。また、「食の安全、食品表示について」は女性60~69歳で5割半ばと多くなっている。(図7-1-2)

### Ⅲ 使用した調査票



ID番号

←インターネット回答時に入力するID番号です。  
※回答方法は、本紙とインターネットのどちらかをお選びください。  
←このID番号はランダムに配付しており、個人を特定することはありません。

## 日野市食育推進に関するアンケート調査 ～ 調査のご協力をお願い ～

日ごろから、日野市の食育推進にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

日野市では、市民の皆さまが豊かな食生活を楽しむ力を育み、心身ともに健康で充実した生活を送れるよう、市民・団体・行政が一体となって食育を推進するため、「日野市みんなですすめる食育条例」に基づき、令和9年度に「第5期日野市食育推進計画」を策定します。

そこで、市民の皆さまの食習慣などをお伺いするとともに、計画づくりの基礎資料とするため、食育推進に関するアンケートを実施することといたしました。

この調査は、市内にお住まいの方々から無作為に2,000名を選ばせていただき、ご協力をお願いするものです。

ご回答いただいた内容はすべて統計的に処理し、調査目的以外には使用することはありません。

お忙しい中、大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、アンケート調査にご協力をお願いいたします。

令和7年7月

日野市長 古賀 壮志

### 【 紙の調査票の記入にあたってのお願い 】

1. 封筒のあて名の方がご回答ください。
2. ご本人が回答できない場合は、代筆でも差し支えありません。
3. 回答は選択肢の中から選んで、○印をつけてください。
4. 回答の○の数は、設問ごとに表示してありますので、それにあわせてお選びください。
5. 「その他」を選ばれた場合は、( ) 内にその内容を具体的にご記入ください。

### 【 WEB回答（インターネット回答）について 】

■ WEB回答（インターネット回答）はこちらから

<https://sogo-k.post-survey.com/r7hino-syokuiku/>

《 二次元コード 》



■ 通信費はご負担ください。

■ 紙の調査票でご回答いただいた場合は、WEBでの回答は不要です。

■ WEBでのご回答の際はこの調査票の左上にあるID番号が必要になります。

◎ ご記入が済みましたら、お手数ですが、同封の本調査を委託している株式会社総合企画宛の返信用封筒（切手は不要）に入れて、

**8月20日（水）までにポストにご投函ください。**

（インターネット回答の場合も上記の期限までにご回答ください）

◎ この調査票についてご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

日野市 健康福祉部 健康課

〒191-0011 日野市日野本町1-6-2（生活・保健センター内）

電話：042-581-4111（平日午前8時30分から午後5時00分まで）

◆ 「食育」についておたずねします

問1 あなたは、「食育」という言葉やその意味を知っていましたか。 (○は1つだけ)

「食育」は、心身の健康の増進と豊かな人間形成のために、食に関する知識や食を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践することができる人間を育てることです。その中には、規則正しい食生活や栄養バランスのとれた食事などを実践したり、食を通じたコミュニケーションやマナー、あいさつなどの食に関する基礎を身に付けたり、自然の恵みへの感謝や伝統的な食文化などへの理解を深めたりすることが含まれます。

- 1 言葉も意味も知っていた
- 2 言葉は知っていたが、意味は知らなかった
- 3 言葉も意味も知らなかった

問2 今後1年間、あなたはどのようなことを食育として実践したいと思いますか。 (○はいくつでも)

- 1 家族や友人と食卓を囲む機会を増やしたい
- 2 食事の正しい作法を習得したい
- 3 地域性や季節感のある食事をとりたい
- 4 地場産物を購入したい
- 5 食べ残しや食品の廃棄を削減したい
- 6 生産から消費までのプロセスを理解したい
- 7 食品の安全性について理解したい
- 8 規則正しい食生活を実践したい
- 9 栄養バランスのとれた食生活を実践したい
- 10 健康を意識した食生活を実践したい
- 11 自分で調理する機会を増やしたい
- 12 家族と調理する機会を増やしたい
- 13 調理方法・保存方法を習得したい
- 14 おいしさや楽しさなど食の豊かさを大切にしたい
- 15 食文化を伝承していきたい
- 16 その他（具体的に： )
- 17 特にない

問3 主食（ごはん、パン、麺など）・主菜（肉・魚・卵・大豆製品などを使ったメインの料理）・副菜（野菜・きのこ・いも・海藻などを使った小鉢・小皿の料理）を3つそろえて食べる  
ことが1日に2回以上あるのは、週に何日ありますか。（○は1つだけ）

◆「主食」とは、米、パン、めん類などの穀類で、主として糖質エネルギーの供給源となるものです。



ごはん



おにぎり



パン



うどん

◆「主菜」とは、魚や肉、卵、大豆製品などを使った副食の中心となる料理で、主としてたんぱく質や脂肪の供給源となるものです。



焼き魚



肉じゃが



ハンバーグ



目玉焼き

◆「副菜」とは、野菜などを使った料理で、主食と主菜に不足するビタミン、ミネラル、食物繊維などを補う役割を果たしています。



ほうれん草の  
おひたし



野菜サラダ



ひじきの煮物



野菜たっぷり等  
具たくさんのみそ汁

1 ほぼ毎日 → 次ページの問4へ

2 週に4～5日

3 週に2～3日

4 ほとんどない

【 問3で「2 週に4～5日」、「3 週に2～3日」、「4 ほとんどない」と答えた方に 】

問3-1 主食・主菜・副菜を3つそろえて食べる回数を増やすためには、どのようなことが必要だと思いますか。

次の中からあてはまるものを最大3つまで選んで、右の欄に番号をご記入ください。

- 1 手間がかからないこと
- 2 時間があること
- 3 食費に余裕があること
- 4 自分で用意することができること
- 5 食欲があること
- 6 3つそろえて食べるメリットを知っていること
- 7 家に用意されていること
- 8 外食やコンビニ等で手軽にとることができる環境があること
- 9 その他（具体的に： )
- 10 わからない

↓ 番号を記入

1つめ

2つめ

3つめ

【 全員の方に 】

問4 あなたは、朝食を食べていますか。 (○は1つだけ)

1	ほとんど毎日食べる	→ 問5へ
2	週に4～5日食べる	
3	週に2～3日食べる	
4	ほとんど食べない	

【 問4で「2 週に4～5日食べる」、「3 週に2～3日食べる」、「4 ほとんど食べない」と答えた方に 】

問4-1 あなたが朝食を食べるためには、どのようなことが必要だと思いますか。 (○はいくつでも)

1	自分で朝食を用意する手間がかからないこと
2	自分で朝食を用意する時間があること
3	朝早く起きられること
4	夕食や夜食を食べすぎしていないこと
5	朝、食欲があること
6	ダイエットの必要がないこと
7	朝食を食べる習慣があること
8	朝食を食べるメリットを知っていること
9	夜遅くまで残業するなど労働時間や環境に無理がないこと
10	家に朝食が用意されていること
11	外食やコンビニ等で手軽に朝食をとることができる環境があること
12	その他（具体的に： _____）
13	わからない

【 全員の方に 】

問5 食生活において次のことをどの程度意識していますか。  
それぞれの項目について、あてはまる番号を○で囲んでください。 (○は1つずつ)

		意識している	やや意識している	どちらともいえない	あまり意識していない	意識していない
(記入例)	⇒	1	②	3	4	5
① 牛乳・乳製品をとるようにしている	⇒	1	2	3	4	5
② たんぱく質をとるようにしている	⇒	1	2	3	4	5
③ できるだけ家族や仲間とそろって食事をとるようにしている	⇒	1	2	3	4	5
④ 食事を楽しむようにしている	⇒	1	2	3	4	5
⑤ 食材の旬を意識している	⇒	1	2	3	4	5

問6 あなたは、ふだんゆっくりよく噛んで食べていますか。

(○は1つだけ)

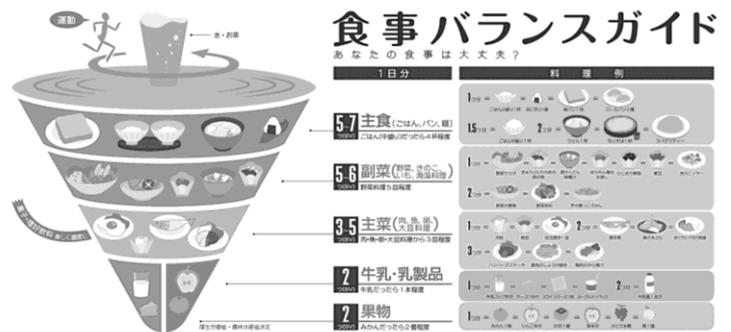
- 1 ゆっくりよく噛んで食べている
- 2 どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べている
- 3 どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べていない
- 4 ゆっくりよく噛んで食べていない

問7 あなたは「食事バランスガイド」を知っていますか。

(○は1つだけ)

※平成17年6月に厚生労働省と農林水産省が決定した「食事バランスガイド」は、食事の基本を身につけるための望ましい食事のとり方や、おおよその量を分かりやすく示しています。

- 1 知っている
- 2 参考になっている
- 3 知らない



問8 1日にどれくらいの頻度で野菜を食べていますか。

(○は1つだけ)

- 1 毎食食べている → 次ページの問9へ
- 2 1日2回
- 3 1日1回
- 4 1回も食べない日もある
- 5 1回も食べない日がほとんど

【問8で「2 1日2回」～「5 1回も食べない日がほとんど」と答えた方に】

問8-1 あなたが野菜を毎食食べない理由は何ですか。

(○はいくつでも)

- 1 調理や片付けが面倒だから
- 2 調理や食べる時間がないから
- 3 野菜が苦手だから
- 4 家族が嫌いで食べないから
- 5 料理方法がよくわからない・調理ができないから
- 6 価格が高いから
- 7 毎食食べなくても問題ないと思うから
- 8 その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

【 全員の方にお聞きします 】

問9 1日にどれくらいの量の野菜を食べていますか。 (○は1つだけ)

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 1 片手半分くらいの量 | 4 両手山盛くらいの量 |
| 2 片手1杯くらいの量 | 5 両手山盛以上の量  |
| 3 両手1杯くらいの量 | 6 まったく食べない  |

問10 あなたは、日野市が「ベジ活350～両手山盛りいっぱいを習慣に～」をキャッチフレーズに、1日350gの野菜を食べるための取り組みを進めていることを知っていますか。 (○は1つだけ)

- |                           |
|---------------------------|
| 1 内容を知っている                |
| 2 内容はあまり知らないが、言葉は聞いたことがある |
| 3 はじめて聞いた                 |



問11 あなたは、どのくらいの頻度で果物を食べていますか。 (○は1つだけ)

- |                        |
|------------------------|
| 1 ほとんど毎日食べる            |
| 2 週に4～5日食べる            |
| 3 週に2～3日食べる            |
| 4 ほとんど食べない → 次ページの問12へ |

【 問11で「1 ほとんど毎日食べる」～「3 週に2～3日食べる」と答えた方に 】

問11-1 あなたは、1日にどのくらいの量の果物を食べていますか。 (○は1つだけ)

国の「第4次食育推進基本計画」では、1日あたりの果物摂取量が100g未満の者の割合の減少を目標としています。

<果物100g例>



みかん1個



りんご半分



なし半分



ぶどう半房



もも1個

- |               |
|---------------|
| 1 100g以上      |
| 2 50g以上100g未満 |
| 3 50g未満       |

【 全員の方にお聞きします 】

問12 あなたは、ふだんから減塩に気をつけた食生活を実践していますか。 (○は1つだけ)

- 1 いつも実践している
- 2 時々実践している
- 3 あまり実践していない
- 4 まったく実践していない

問13 あなたの家庭の料理の味付けは、外食等と比べていかがですか。 (○は1つだけ)

- 1 濃いほうだと思う
- 2 同じくらいだと思う
- 3 薄いほうだと思う
- 4 わからない

◆ 地産地消についておたずねします

問14 日野産の農産物（野菜・果物）を購入したことがありますか。 (○は1つだけ)

- 1 ある → 次ページの間15へ

2 ない

【 問14で「2 ない」と答えた方に 】

問14-1 日野産の農産物（野菜・果物）を購入したことがない理由は何ですか。 (○はいくつでも)

- 1 日野産の農産物が見当たらないため
- 2 店頭に並ぶ日野産の農産物が少ないため
- 3 日野産の農産物がどこで販売されているか分からないため
- 4 日野産の農産物が日野産以外の農産物と比べて高かったため
- 5 品質や形にばらつきがみられるため
- 6 正式な表示がなく、日野産の農産物かどうか分からないため
- 7 関心がないため
- 8 その他（具体的に： )

◆ 農業体験についておたずねします

問15 あなたは、農業体験を行ったことがありますか。

(○は1つだけ)

※農業体験とは、田植えや稲刈り、野菜の植付け・収穫、果樹の栽培（摘果や剪定）や収穫、乳搾りや家畜の餌やりなどの酪農体験、花やハーブの栽培等々、農家の方の仕事を体験するものです。  
※家庭菜園（プランターを含む）等の身近な栽培のほか、フルーツ狩り等も含まれます。

1 ある

2 ない

→ 問15-2へ

【 問15で「1 ある」と答えた方に 】

問15-1 あなたが行った農業体験は、どのような取り組みでしたか。

(○はいくつでも)

- 1 家庭菜園
- 2 民間のツアーなど
- 3 地方自治体や地域の取組
- 4 学校の取組
- 5 実家、親戚、知人の手伝い
- 6 農業に従事している（専業・兼業は問いません）
- 7 その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )

【 問15で「2 ない」と答えた方に 】

問15-2 農業体験を行ったことがない理由は何ですか。

(○はいくつでも)

- 1 関心がないから
- 2 体験に参加する方法がわからないから
- 3 体験する自信がないから
- 4 参加費用がかかるから
- 5 その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
- 6 わからない

◆ 環境への配慮についておたずねします

問16 あなたは食材の廃棄や食べ残しを少なくするように心がけていますか。 (○は1つだけ)

- 1 心がけている
- 2 ある程度心がけている
- 3 あまり心がけていない
- 4 心がけていない

◆ 食事・食料の準備についておたずねします

問17 あなたは、ふだんの食事を自分で準備していますか。 (○は1つだけ)

※「食事を準備する」とは、調理だけでなく、温めたり、お皿に盛り付けたりすることを含みます。  
**弁当を買ってくるだけというのは含みません。**  
※「市販食品」とは、総菜、冷凍食品、レトルト食品等、そのままもしくは温めるだけでよいもの  
のことです。

- 1 ほとんどのものを食材から調理して、食事を準備している
- 2 一部市販食品を取り入れて、食事を準備している
- 3 ほとんどのものに市販食品を利用して、食事を準備している
- 4 自分で食事を準備していない

問18 非常食は、世帯人数分として何日分を想定して用意していますか。 (○は1つだけ)

- 1 1日分未満
- 2 1～2日分程度
- 3 3日分程度
- 4 4日分以上
- 5 全く用意していない



◆ あなた自身についておたずねします

F 1 あなたの性別を教えてください。(○は1つだけ)

- |      |      |       |
|------|------|-------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 その他 |
|------|------|-------|

F 2 あなたの年齢を教えてください。(○は1つだけ)

- |        |         |
|--------|---------|
| 1 10歳代 | 5 50歳代  |
| 2 20歳代 | 6 60歳代  |
| 3 30歳代 | 7 70歳以上 |
| 4 40歳代 |         |

F 3 あなたの世帯状況は以下のどれにあたりますか。(○は1つだけ)

- |                  |
|------------------|
| 1 単身(ひとり暮らし)     |
| 2 夫婦のみ           |
| 3 二世帯世帯(親と子)     |
| 4 三世帯世帯(親と子と孫など) |
| 5 その他の世帯(具体的に: ) |

F 4 あなたの職業は次のどれにあてはまりますか。(○は1つだけ)

- |              |               |
|--------------|---------------|
| 1 会社員、団体職員   | 6 学生          |
| 2 公務員        | 7 家事専業        |
| 3 自営業(農業を除く) | 8 無職          |
| 4 農業         | 9 その他(具体的に: ) |
| 5 パート・アルバイト  |               |

F 5 あなたが現在お住まいの地区は次のどれにあてはまりますか。(○は1つだけ)

- |         |           |            |
|---------|-----------|------------|
| 1 栄町    | 11 新井     | 21 東豊田     |
| 2 新町    | 12 万願寺    | 22 豊田(丁目)  |
| 3 日野台   | 13 高幡     | 23 東平山     |
| 4 日野本町  | 14 三沢     | 24 西平山     |
| 5 日野    | 15 百草     | 25 大坂上     |
| 6 宮     | 16 落川     | 26 多摩平     |
| 7 上田    | 17 南平     | 27 富士町     |
| 8 川辺堀之内 | 18 程久保    | 28 旭が丘     |
| 9 神明    | 19 平山     | 29 上記以外の地区 |
| 10 石田   | 20 豊田(大字) |            |

調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

この調査票は、同封した返信用封筒に入れて、**8月20日(水)まで**にお近くのポストに投函してください(切手を貼る必要はありません)。



## 日野市食育推進に関するアンケート調査 調査書

---

令和8年3月

[ 発 行 ] 日野市健康福祉部健康課  
〒191-0011 日野市日野本町1丁目6番2号  
日野市生活・保健センター内  
電話：042（581）4111（ダイヤルイン）

---

この調査書の白色の用紙は、再生紙を使用しています。

